

多田山東遺跡

多田山東遺跡

一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

第2分冊

2024

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第2分冊 二〇二四

国土交通省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 多田山東遺跡

一般国道50号(前橋笠懸道路)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

第2分冊

2024

国 土 交 通 省  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 第2分冊目次

第2分冊目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第4節 古墳時代以降の集落の変遷……………518

1. 集落の概要……………518

2. 集落の変遷……………518

第5章 考察……………480

第1節 囲い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要  
……………480

1. 囲い状遺構内の施設……………480

2. 多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要……………487

多田山東遺跡第Ⅱ地点遺物観察表……………492

多田山東遺跡第Ⅱ地点写真図版……………493

第2節 多田山東遺跡の囲い状遺構について……………498

1. はじめに……………498

2. 区画施設の遺構……………498

3. 内部施設の遺構……………499

4. 周辺の豪族居館・首長居館と囲い状遺構……………500

5. 豪族居館・首長居館・囲い状遺構の  
比較・検討……………504

6. まとめ……………506

第3節 多田山東遺跡2号竪穴建物出土遺物  
について……………510

1. はじめに……………510

2. 須恵器小型有台皿の類例・集落……………510

3. 須恵器小型有台皿・碗の類例・寺院……………511

4. 密教法具六器について……………513

5. 六器の土器・陶器への代替……………513

6. おわりに……………516

写真図版

奥付

# 挿図目次

第341図	囲い・状道横と多田山東道跡第Ⅱ地点・第Ⅲ地点(赤坂町委2000年平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報・挿図7、同2001「町内道跡発掘調査報告」挿図9を合成して作成)	481	第351図	多田山東道跡周辺の豪族居館・首長居館(1)(永井2021の図を編集)	502
第342図	屋内神持柱のある孤立柱建物	483	第352図	多田山東道跡周辺の豪族居館・首長居館(2)(中沢2000の図を編集)	503
第343図	厩舎に類すると考えられる孤立柱建物	485	第353図	周代の古墳時代中・後期道跡の分布図(国土地理院地図5万分の1「俯瞰」(平成10年3月1日発行)を使用)	505
第344図	木曾馬の平均的な体格	486	第354図	多田山東道跡2号竪穴建物出土小型鏡・皿	510
第345図	19号孤立柱建物 欄と柱のイメージ	486	第355図	集落道跡から出土した須恵器小型皿・椀	511
第346図	Ⅱ-1号孤立柱建物柱間模式図	488	第356図	宇通道跡出土の小型皿・小型椀	512
第347図	第Ⅱ地点63号住居・64号住居出土遺物(1)	489	第357図	山王鹿寺・神戸宮山・町田十二原の魚輪陶器の図	515
第348図	第Ⅱ地点64号住居出土遺物(2)	490	第358図	時期別竪穴建物・囲い状道横分布図(1)	520
第349図	第Ⅱ地点64号住居出土遺物(3)	491	第359図	時期別竪穴建物・囲い状道横分布図(2)	521
第350図	多田山東道跡囲い状道横と範囲想定	501	第360図	時期別竪穴建物・囲い状道横分布図(3)	522

# 表目次

第42表	多田山東道跡第Ⅱ地点遺物観察表	492	第43表	時期別竪穴建物集計表	518
------	-----------------	-----	------	------------	-----

# 写真図版目次

P.L. 1	1. 1区調査区全景(上が西)	4.	10号竪穴建物全景(北東から)
	2. 1号竪穴建物全景(南西から)	5.	10号竪穴建物扉方全景(北東から)
	3. 1号竪穴建物土層断面(北東から)	6.	10号竪穴建物土層断面(東から)
	4. 1号竪穴建物電(南西から)	7.	10号竪穴建物遺物出土状況(北東から)
	5. 1号竪穴建物遺物出土状況(南西から)	8.	10号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
P.L. 2	1. 2号竪穴建物全景(西から)	P.L. 7	1. 11号竪穴建物全景(北西から)
	2. 2号竪穴建物土層断面(東から)		2. 12号竪穴建物全景(北西から)
	3. 2号竪穴建物遺物出土状況(西から)		3. 12号竪穴建物遺物出土状況(西から)
	4. 2号竪穴建物遺物出土状況(西から)		4. 12号竪穴建物遺物出土状況(北西から)
	5. 2号竪穴建物遺物出土状況(西から)		5. 12号竪穴建物電(西から)
	6. 2号竪穴建物電(西から)		6. 13号竪穴建物全景(西から)
	7. 3号竪穴建物全景(西から)		7. 13号竪穴建物遺物出土状況(西から)
	8. 3号竪穴建物電(西から)		8. 13号竪穴建物電(西から)
P.L. 3	1. 4号竪穴建物全景(西から)	P.L. 8	1. 13号竪穴建物土層断面(西から)
	2. 4号竪穴建物土層断面(西から)		2. 14号竪穴建物全景(西から)
	3. 4号竪穴建物電(西から)		3. 14号竪穴建物電(西から)
	4. 5号竪穴建物全景(西から)		4. 14号竪穴建物P2(北西から)
	5. 5号竪穴建物土層断面(南から)		5. 15号竪穴建物全景(西から)
	6. 5号竪穴建物遺物出土状況(南から)		6. 15号竪穴建物扉方全景(西から)
	7. 5号竪穴建物遺物出土状況(南西から)		7. 15号竪穴建物電(西から)
	8. 5号竪穴建物電(西から)		8. 15号竪穴建物貯蔵穴(西から)
P.L. 4	1. 6号竪穴建物全景(西から)	P.L. 9	1. 15号竪穴建物遺物出土状況(西から)
	2. 6号竪穴建物土層断面(南から)		2. 15号竪穴建物P4(南西から)
	3. 6号竪穴建物貯蔵穴付近土層断面(西から)		3. 16号竪穴建物全景(南西から)
	4. 6号竪穴建物粘土・遺物出土状況(西から)		4. 16号竪穴建物土層断面(北西から)
	5. 7号竪穴建物全景(南西から)		5. 16号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
	6. 7号竪穴建物土層断面(北西から)		6. 16号竪穴建物電(南西から)
	7. 7号竪穴建物遺物出土状況(南西から)		7. 16号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
	8. 7号竪穴建物遺物出土状況(南から)		8. 17号竪穴建物全景(北から)
P.L. 5	1. 7号竪穴建物電(南西から)	P.L. 10	1. 17号竪穴建物扉方全景(北から)
	2. 7号竪穴建物土層断面(東から)		2. 17号竪穴建物遺物土化材出土状況(西から)
	3. 8号竪穴建物全景(西から)		3. 17号竪穴建物土層断面出土状況(南から)
	4. 8号竪穴建物土層断面(西から)		4. 18号竪穴建物全景(南西から)
	5. 8号竪穴建物電(西から)		5. 18号竪穴建物土層断面(南西から)
	6. 8号竪穴建物貯蔵穴(西から)		6. 18号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
	7. 8号竪穴建物P1(西から)		7. 18号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
	8. 9号竪穴建物全景(南西から)		8. 18号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(東から)
P.L. 6	1. 9号竪穴建物扉方全景(南西から)	P.L. 11	1. 18号竪穴建物貯蔵穴(西から)
	2. 9号竪穴建物遺物出土状況(南西から)		2. 18号竪穴建物P1(南から)
	3. 9号竪穴建物電遺物出土状況(南西から)		3. 18号竪穴建物P4(南から)

	4. 19号竪穴建物全量(南西から)		P L. 20	1. 1号方形周溝墓土層断面D-D'(西から)
	5. 19号竪穴建物電(南西から)			2. 1号方形周溝墓遺物出土状況(南から)
	6. 19号竪穴建物電縦方(南西から)			3. 1号方形周溝墓遺物出土状況(南西から)
	7. 19号竪穴建物遺物出土状況(南西から)			4. 1号方形周溝墓遺物出土状況(北西から)
	8. 19号竪穴建物貯蔵穴(西から)			5. 1号方形周溝墓遺物出土状況(南から)
P L. 12	1. 20号竪穴建物全量(西から)			6. 1号方形周溝墓遺物出土状況(西から)
	2. 20号竪穴建物遺物出土状況(西から)			7. 1号方形周溝墓遺物出土状況(西から)
	3. 20号竪穴建物遺物出土状況(北から)			8. 1号方形周溝墓作業風景(南から)
	4. 1号竪穴状遺構全量(北から)	P L. 21	1. 1号溝全量(上が北)	
	5. 1号竪穴状遺構土層断面(北西から)		2. 1号溝全量(北から)	
	6. 2号竪穴状遺構全量(北東から)		3. 1号溝土層断面A-A'(南から)	
	7. 3号竪穴状遺構全量(東から)		4. 1号溝土層断面B-B'(南から)	
	8. 4号竪穴状遺構全量(南西から)		5. 1号溝土層断面C-C'(南から)	
P L. 13	1. 1号・2号竪立柱建物全量(上が南)		6. 1号溝土層断面D-D'(南から)	
	2. 1号竪立柱建物全量(西から)	P L. 22	1. 1号土坑全量(南東から)	
	3. 1号竪立柱建物P 7(西から)		2. 2号土坑全量(南から)	
	4. 1号竪立柱建物P 8(西から)		3. 3号土坑全量(南から)	
	5. 2号竪立柱建物全量(西から)		4. 6号土坑土層断面(東から)	
	6. 2号竪立柱建物P 1(南西から)		5. 7号土坑全量(南から)	
	7. 2号竪立柱建物P 4(南西から)		6. 8号土坑全量(南西から)	
	8. 2号竪立柱建物P 6(西から)		7. 9号土坑全量(北から)	
P L. 14	1. 3号・4号竪立柱建物全量(上が南)		8. 9号土坑土層断面(南から)	
	2. 3号竪立柱建物全量(西から)		9. 10号土坑全量(北から)	
	3. 3号竪立柱建物P 1(北西から)		10. 11号土坑土層断面(南東から)	
	4. 3号竪立柱建物P 6(南から)		11. 12号土坑全量(南から)	
	5. 4号竪立柱建物全量(北から)		12. 13号土坑・7号竪立柱P 5全量(南東から)	
	6. 4号竪立柱建物P 1(南から)		13. 14号土坑土層断面(南東から)	
	7. 4号竪立柱建物P 5(西から)		14. 15号土坑全量(南西から)	
	8. 4号竪立柱建物P 10(南西から)		15. 16号土坑・9号竪立柱P 7全量(南西から)	
P L. 15	1. 5号竪立柱建物全量(上が南)	P L. 23	1. 17号土坑全量(西から)	
	2. 5号竪立柱建物柱断面剥離状況全量(北西から)		2. 17号土坑土層断面(西から)	
	3. 5号竪立柱建物P 3土層断面(西から)		3. 18号土坑全量(西から)	
	4. 5号竪立柱建物P 8土層断面(西から)		4. 19号土坑全量(北西から)	
	5. 5号竪立柱建物P 8掘削状況(西から)		5. 20号土坑遺物出土状況(南東から)	
	6. 5号竪立柱建物P 11土層断面(西から)		6. 20号土坑全量(南東から)	
	7. 6号・7号竪立柱建物全量(上が北西)		7. 21号土坑・347号ビット全量(南から)	
	8. 6号竪立柱建物全量(南西から)		8. 22号土坑全量(北西から)	
P L. 16	1. 6号竪立柱建物P 1(南西から)		9. 22号土坑土層断面(南から)	
	2. 6号竪立柱建物P 5(南西から)		10. 97号ビット全量(南から)	
	3. 7号竪立柱建物全量(南東から)		11. 278号ビット遺物出土状況(南から)	
	4. 7号竪立柱建物P 1(南から)		12. 256号ビット全量(南から)	
	5. 7号竪立柱建物P 11遺物出土状況(南から)		13. 283号ビット全量(南から)	
	6. 8号竪立柱建物全量(上が東)		14. 299号ビット全量(南から)	
	7. 8号竪立柱建物全量(南から)	P L. 24	1. 2区調査区北東側全量(上が西)	
	8. 8号竪立柱建物P 3(南東から)		2. 2区調査区南西側全量(上が北西)	
P L. 17	1. 8号竪立柱建物P 4(南から)	P L. 25	1. 21号竪穴建物全量(北西から)	
	2. 9号竪立柱建物全量(上が南西)		2. 21号竪穴建物遺物出土状況(北西から)	
	3. 9号竪立柱建物全量(南西から)		3. 21号竪穴建物電(北西から)	
	4. 9号竪立柱建物P 5(南西から)		4. 21号竪穴建物電遺物出土状況(北西から)	
	5. 10号竪立柱建物全量(上が北西)		5. 21号竪穴建物土層断面(北西から)	
	6. 10号竪立柱建物全量(南東から)		6. 22号竪穴建物全量(北西から)	
	7. 10号竪立柱建物P 8(南西から)		7. 22号竪穴建物遺物出土状況(北西から)	
	8. 10号竪立柱建物P 9(南西から)		8. 22号竪穴建物電(北西から)	
P L. 18	1. 11号竪立柱建物全量(上が南西)	P L. 26	1. 22号竪穴建物電土層断面(北西から)	
	2. 11号竪立柱建物全量(北から)		2. 22号竪穴建物電・貯蔵穴遺物出土状況(北西から)	
	3. 11号竪立柱建物P 1(南西から)		3. 23号竪穴建物全量(西から)	
	4. 11号竪立柱建物P 4(南西から)		4. 23号竪穴建物土層断面(北から)	
	5. 12号竪立柱建物全量(上が南西)		5. 23号竪穴建物遺物・礎出土状況(西から)	
	6. 12号竪立柱建物全量(南西から)		6. 23号竪穴建物電(西から)	
	7. 12号竪立柱建物P 7(北西から)		7. 24号竪穴建物全量(南西から)	
	8. 12号竪立柱建物P 8(北東から)		8. 24号竪穴建物土層断面(南西から)	
P L. 19	1. 1号方形周溝墓全量(北東から)	P L. 27	1. 24号竪穴建物遺物出土状況(西から)	
	2. 1号方形周溝墓全量(上が南西)		2. 24号竪穴建物電(南西から)	
	3. 1号方形周溝墓土層断面A-A'(南から)		3. 25号竪穴建物全量(北西から)	
	4. 1号方形周溝墓土層断面B-B'(西から)		4. 26号竪穴建物全量(南東から)	
	5. 1号方形周溝墓土層断面C-C'(南から)		5. 27号竪穴建物全量(南から)	

	6. 27号整穴建物土層断面(東から)		8. 47号整穴建物貯蔵穴(南西から)
	7. 27号整穴建物遺物出土状況(南から)	P L. 36	1. 48号整穴建物全層(南西から)
	8. 27号整穴建物電土層断面(東から)		2. 48号整穴建物遺物出土状況(南西から)
P L. 28	1. 28号整穴建物全層(西から)		3. 48号整穴建物電(南西から)
	2. 28号整穴建物遺物出土状況(南西から)		4. 48号整穴建物電石組み状況(南西から)
	3. 28号整穴建物電(西から)		5. 49号整穴建物全層(北東から)
	4. 29号整穴建物全層(南西から)		6. 49号整穴建物層方全層(北東から)
	5. 29号整穴建物土層断面(西から)		7. 49号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	6. 29号整穴建物電(南西から)		8. 49号整穴建物電(北東から)
	7. 29号整穴建物 P 3 (南西から)	P L. 37	1. 50号整穴建物全層(南西から)
	8. 29号整穴建物 P 4 (南西から)		2. 50号整穴建物層方全層(南西から)
P L. 29	1. 30号整穴建物全層(北西から)		3. 50号整穴建物電(南西から)
	2. 30号整穴建物電(西から)		4. 50号整穴建物貯蔵穴遺物出土状況(南西から)
	3. 31号整穴建物全層(南から)		5. 51号整穴建物全層(西から)
	4. 31号整穴建物土層断面(南東から)		6. 51号整穴建物層方全層(西から)
	5. 31号整穴建物土層断面(南から)		7. 51号整穴建物遺物出土状況(西から)
	6. 31号整穴建物貯蔵穴(南西から)		8. 51号整穴建物電(西から)
	7. 32号整穴建物全層(南西から)	P L. 38	1. 52号整穴建物全層(南西から)
	8. 32号整穴建物土層断面(南東から)		2. 52号整穴建物層方全層(南西から)
P L. 30	1. 33号整穴建物全層(西から)		3. 52号整穴建物遺物出土状況(南東から)
	2. 33号整穴建物遺物・礎石出土状況(西から)		4. 52号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	3. 33号整穴建物電土層断面(南から)		5. 52号整穴建物遺物出土状況(南東から)
	4. 34号整穴建物全層(北西から)		6. 52号整穴建物遺物出土状況(南東から)
	5. 34号整穴建物遺物出土状況(北西から)		7. 52号整穴建物電(南西から)
	6. 35号整穴建物全層(南西から)		8. 52号整穴建物電輪石埋込確認状況(南西から)
	7. 35号整穴建物遺物出土状況(北西から)	P L. 39	1. 52号整穴建物電遺物出土状況(南西から)
	8. 35号整穴建物電遺物出土状況(南東から)		2. 52号整穴建物電遺物出土状況(南西から)
P L. 31	1. 36号整穴建物全層(北西から)		3. 52号整穴建物貯蔵穴(西から)
	2. 37号整穴建物全層(西から)		4. 52号整穴建物 P 1 (南西から)
	3. 37号整穴建物電土層断面(南から)		5. 53号整穴建物全層(南西から)
	4. 38号整穴建物全層(西から)		6. 53号整穴建物土層断面(南西から)
	5. 38号整穴建物電土層断面(南から)		7. 53号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	6. 39号整穴建物全層(西から)		8. 53号整穴建物電(南西から)
	7. 40号整穴建物全層(南西から)	P L. 40	1. 54号整穴建物全層(北西から)
	8. 40号整穴建物土層断面(南西から)		2. 54号整穴建物土層断面(南東から)
P L. 32	1. 41号整穴建物全層(南東から)		3. 54号整穴建物層方全層(北西から)
	2. 41号整穴建物層方全層(南東から)		4. 54号整穴建物電(北西から)
	3. 41号整穴建物遺物出土状況(南東から)		5. 55号整穴建物全層(南西から)
	4. 41号整穴建物遺物出土状況(南東から)		6. 55号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	5. 41号整穴建物遺物出土状況(南東から)		7. 55号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	6. 41号整穴建物1号電土層断面(南から)		8. 55号整穴建物電(南西から)
	7. 41号整穴建物2号電全層(南東から)	P L. 41	1. 56号整穴建物全層(西から)
	8. 41号整穴建物貯蔵穴(南西から)		2. 56号整穴建物層方全層(西から)
P L. 33	1. 41号整穴建物 P 1 (南西から)		3. 56号整穴建物遺物出土状況(北西から)
	2. 41号整穴建物 P 2 (南東から)		4. 56号整穴建物電(西から)
	3. 41号整穴建物 P 3 (南東から)		5. 57号整穴建物全層(南西から)
	4. 41号整穴建物 P 4 (南東から)		6. 57号整穴建物層方全層(南西から)
	5. 42号整穴建物全層(南西から)		7. 57号整穴建物電(南西から)
	6. 42号整穴建物土層断面(南から)		8. 58号整穴建物全層(北西から)
	7. 42号整穴建物遺物出土状況(南西から)	P L. 42	1. 58号整穴建物遺物出土状況(北西から)
	8. 42号整穴建物 P 2 遺物出土状況(南西から)		2. 58号整穴建物遺物出土状況(北西から)
P L. 34	1. 43号整穴建物全層(南西から)		3. 58号整穴建物電(北西から)
	2. 43号整穴建物土層断面(南東から)		4. 58号整穴建物電遺物出土状況(北西から)
	3. 44号整穴建物全層(北西から)		5. 59号整穴建物全層(南西から)
	4. 44号整穴建物遺物出土状況(北西から)		6. 59号整穴建物遺物出土状況(東から)
	5. 44号整穴建物電(北西から)		7. 59号整穴建物遺物出土状況(東から)
	6. 44号整穴建物1号貯蔵穴土層断面(北西から)		8. 59号整穴建物1号電(北東から)
	7. 44号整穴建物2号貯蔵穴土層断面(北西から)	P L. 43	1. 59号整穴建物2号電(南西から)
	8. 45号整穴建物全層(南西から)		2. 59号整穴建物1号貯蔵穴(北から)
P L. 35	1. 45号整穴建物遺物出土状況(南西から)		3. 59号整穴建物2号貯蔵穴(南西から)
	2. 45号整穴建物電(南西から)		4. 59号整穴建物 P 1 (西から)
	3. 46号整穴建物全層(南西から)		5. 60号整穴建物全層(南西から)
	4. 46号整穴建物電土層断面(南東から)		6. 60号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	5. 47号整穴建物全層(南西から)		7. 60号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	6. 47号整穴建物遺物出土状況(南西から)		8. 60号整穴建物遺物出土状況(南西から)
	7. 47号整穴建物電埋口前土層断面(南から)	P L. 44	1. 60号整穴建物遺物出土状況(南から)

	2. 60号型穴建物電(南西から)		6. 5号溝土層断面(南西から)
	3. 60号型穴建物電遺物出土状況(南西から)		7. 6号溝全景(北西から)
	4. 60号型穴建物貯蔵穴(南西から)		8. 6号溝土層断面(南西から)
	5. 61号型穴建物電(南西から)	P L. 53	1. 23号土坑全景(南東から)
	6. 61号型穴建物遺物出土状況(南西から)		2. 24号土坑全景(南東から)
	7. 61号型穴建物遺物出土状況(南から)		3. 25号土坑土層断面(南東から)
P L. 45	8. 61号型穴建物電(南西から)		4. 26号土坑全景(東から)
	1. 62号型穴建物全景(西から)		5. 27号土坑土層断面(南東から)
	2. 62号型穴建物土層断面(東から)		6. 28号土坑遺物出土状況(南東から)
	3. 62号型穴建物遺物出土状況(北から)		7. 29号土坑全景(西から)
	4. 62号型穴建物電(西から)		8. 30号土坑全景(西から)
	5. 63号型穴建物全景(南西から)		9. 31号土坑遺物出土状況(南西から)
	6. 63号型穴建物扉方全景(南西から)		10. 32号土坑全景(東から)
	7. 63号型穴建物遺物出土状況(南西から)		11. 33号土坑全景(南西から)
P L. 46	8. 63号型穴建物遺物・炭化材出土状況(南西から)		12. 34号土坑遺物出土状況(東から)
	1. 63号型穴建物電(南西から)		13. 35号土坑全景(西から)
	2. 63号型穴建物 P 1(北西から)		14. 36号土坑全景(北から)
	3. 64号型穴建物全景(北西から)		15. 36号土坑遺物出土状況(東から)
	4. 64号型穴建物電遺物出土状況(北西から)	P L. 54	1. 37号土坑全景(西から)
	5. 65号型穴建物全景(西から)		2. 38号土坑全景(南から)
	6. 65号型穴建物土層断面(南から)		3. 38号土坑遺物出土状況(南西から)
	7. 65号型穴建物遺物出土状況(西から)		4. 39号土坑全景(南西から)
	8. 65号型穴建物電(西から)		5. 40号土坑全景(東から)
P L. 47	1. 66号型穴建物全景(南西から)		6. 41号土坑全景(南東から)
	2. 66号型穴建物遺物出土状況(南西から)		7. 42号土坑全景(南東から)
	3. 66号型穴建物遺物・礫出土状況(南西から)		8. 43号土坑全景(南から)
	4. 66号型穴建物電(南西から)		9. 44号土坑全景(西から)
	5. 66号型穴建物電土層断面(東から)		10. 45号土坑全景(東から)
	6. 67号型穴建物全景(南から)		11. 46号土坑全景(南から)
	7. 67号型穴建物土層断面(南から)		12. 47号土坑全景(西から)
	8. 67号型穴建物 P 2(南から)		13. 48号土坑全景(北西から)
P L. 48	1. 67号型穴建物土層断面(南から)		14. 49号土坑全景(北から)
	2. 67号型穴建物遺物出土状況(南から)		15. 50号土坑全景(北東から)
	3. 67号型穴建物遺物出土状況(東から)	P L. 55	1. 51号土坑全景(南西から)
	4. 67号型穴建物遺物出土状況(南から)		2. 52号土坑全景(南西から)
	5. 67号型穴建物遺物出土状況(南から)		3. 105号土坑全景(南西から)
	6. 5号型穴状遺構全景(北西から)		4. 380号・380号ピット全景(東東から)
	7. 5号型穴状遺構遺物出土状況(北西から)		5. 391号ピット全景(南から)
P L. 49	8. 5号型穴状遺構遺物出土状況(北西から)		6. 458号ピット全景(南から)
	1. 13号孤立柱建物全景(上が西)		7. 464号ピット全景(南から)
	2. 13号孤立柱建物全景(南から)		8. 471号ピット全景(南東から)
	3. 13号孤立柱建物 P 3(南から)		9. 526号ピット全景(南から)
	4. 13号孤立柱建物 P 6(南から)		10. 556号ピット全景(南から)
	5. 14号孤立柱建物全景(上が北)		11. 558号ピット遺物出土状況(南から)
	6. 14号孤立柱建物全景(北から)	P L. 56	12. 1号遺物集中全景(南から)
	7. 14号孤立柱建物 P 1(南西から)		1. 2区北・3区調査区全景(上が東)
	8. 14号孤立柱建物 P 4(南西から)		2. 4区調査区全景(上が北)
P L. 50	1. 15号孤立柱建物全景(上が北)	P L. 57	1. 5区調査区全景(上が東)
	2. 15号孤立柱建物全景(南から)		2. 2区北・3区西側V状遺構全景(上が北)
	3. 15号孤立柱建物 P 2(南西から)	P L. 58	1. 2区北・3区7号柱六列・12号溝全景(上が南東)
	4. 15号孤立柱建物 P 8(南から)		2. 7号柱六列 P 1 全景(東から)
	5. 5号柱六列全景(南東から)		3. 7号柱六列 P 1 土層断面(東から)
	6. 5号柱六列 P 2(南東から)		4. 7号柱六列 P 2 全景(南西から)
	7. 5号柱六列 P 3(南東から)		5. 7号柱六列 P 2 遺物出土状況(南西から)
	8. 6号柱六列全景(東から)		6. 7号柱六列 P 3 全景(南西から)
P L. 51	1. 2号溝北側(北から)		7. 7号柱六列 P 4 全景(南西から)
	2. 2号溝南側(南から)		8. 7号柱六列 P 5 全景(西から)
	3. 2号溝土層断面(北東から)		9. 7号柱六列 P 6 全景(南西から)
	4. 2号溝遺物出土状況(北西から)		10. 7号柱六列 P 7 全景(南西から)
	5. 2号溝遺物出土状況(北西から)	P L. 59	1. 7号柱六列 P 8 全景(南西から)
	6. 2号溝遺物出土状況(西から)		2. 7号柱六列 P 9 全景(南西から)
P L. 52	1. 3号溝全景(北西から)		3. 7号柱六列 P 10 全景(南西から)
	2. 3号溝土層断面(南東から)		4. 7号柱六列 P 11 全景(南西から)
	3. 4号溝全景(北東から)		5. 7号柱六列 P 12 全景(南西から)
	4. 4号溝土層断面(南西から)		6. 7号柱六列 P 13 全景(南西から)
	5. 5号溝全景(上が北東)		7. 7号柱六列 P 14 全景(南西から)



8. 7号柱六列P 15全景(南西から)
9. 7号柱六列P 16上層断面(東から)
10. 7号柱六列P 16遺物出土状況(東から)
11. 7号柱六列P 16遺物出土状況(東から)
12. 7号柱六列P 17全景(南西から)
13. 7号柱六列P 18全景(南東から)
14. 7号柱六列P 19全景(南東から)
15. 7号柱六列P 20全景(南西から)
- P L. 60
1. 7号柱六列P 21全景(南から)
2. 7号柱六列P 22全景(南から)
3. 7号柱六列P 23全景(南西から)
4. 7号柱六列P 24全景(南西から)
5. 7号柱六列P 24断割り(南西から)
6. 7号柱六列P 25全景(南西から)
7. 7号柱六列P 25断割り(南西から)
8. 7号柱六列P 26全景(南西から)
9. 7号柱六列P 27全景(南西から)
10. 7号柱六列P 28全景(南西から)
11. 7号柱六列P 29全景(南から)
12. 7号柱六列P 30全景(南西から)
13. 7号柱六列P 30上層断面(南西から)
14. 7号柱六列P 31全景(南西から)
15. 7号柱六列P 32全景(南西から)
- P L. 61
1. 2区北12号溝・7号柱六列全景(北西から)
2. 12号溝上層断面 1-1' (南東から)
3. 12号溝上層断面 m-m' (南東から)
4. 12号溝上層断面 n-n' (南東から)
5. 3区12号溝上層断面 o-o' (南東から)
6. 12号溝上層断面 p-p' (南西から)
7. 12号溝上層断面 q-q' (南西から)
8. 12号溝上層断面 v-v' (南から)
- P L. 62
1. 18号竪立柱建物全景(上北東)
2. 18号竪立柱建物全景(南西から)
3. 18号竪立柱建物P 1(北東から)
4. 18号竪立柱建物P 1柱東側の状況(南東から)
5. 18号竪立柱建物P 2・P 3(南東から)
6. 18号竪立柱建物P 4(南西から)
7. 18号竪立柱建物P 4上層断面(南西から)
8. 18号竪立柱建物P 5(南西から)
9. 18号竪立柱建物P 6(南西から)
10. 18号竪立柱建物P 6柱東側の状況(南西から)
11. 18号竪立柱建物P 7(南から)
12. 18号竪立柱建物P 8(南から)
- P L. 63
1. 18号竪立柱建物P 8上層断面(西から)
2. 18号竪立柱建物P 9(南から)
3. 18号竪立柱建物P 10(西から)
4. 18号竪立柱建物P 11(南西から)
5. 18号竪立柱建物P 12(北東から)
6. 18号竪立柱建物P 12上層断面(北西から)
7. 18号竪立柱建物P 13(南西から)
8. 18号竪立柱建物P 13(南東から)
9. 18号竪立柱建物P 14(南西から)
10. 18号竪立柱建物P 15(南西から)
11. 18号竪立柱建物P 16(南西から)
12. 18号竪立柱建物P 16上層断面(南東から)
13. 18号竪立柱建物P 17(南東から)
14. 18号竪立柱建物P 18(南西から)
15. 18号竪立柱建物P 18柱東側の状況(南東から)
- P L. 64
1. 19号竪立柱建物全景(上北東)
2. 19号竪立柱建物P 1・7号柱六列P 17(北から)
3. 19号竪立柱建物P 1上層断面(東から)
4. 19号竪立柱建物P 2(西から)
5. 19号竪立柱建物P 3(西から)
6. 19号竪立柱建物P 4(西から)
7. 19号竪立柱建物P 5(西から)
8. 19号竪立柱建物P 6(西から)
9. 19号竪立柱建物P 7(西から)
10. 19号竪立柱建物P 8・P 16上層断面(南西から)
11. 19号竪立柱建物P 9・P 18(北東から)
12. 19号竪立柱建物P 10(南西から)
13. 19号竪立柱建物P 11・P 22(北東から)
14. 19号竪立柱建物P 11上層断面(南西から)
15. 19号竪立柱建物P 12・P 24(南西から)
16. 19号竪立柱建物P 13・P 27(南西から)
17. 19号竪立柱建物P 14・P 29(南西から)
18. 19号竪立柱建物P 14・P 29上層断面(南西から)
19. 19号竪立柱建物P 15・P 32(南西から)
20. 19号竪立柱建物P 17(南西から)
21. 19号竪立柱建物P 19上層断面(南東から)
22. 19号竪立柱建物P 20上層断面(南東から)
23. 19号竪立柱建物P 21(北東から)
24. 19号竪立柱建物P 22上層断面(南東から)
- P L. 66
1. 19号竪立柱建物P 23(南西から)
2. 19号竪立柱建物P 24上層断面(南西から)
3. 19号竪立柱建物P 25・P 26(北西から)
4. 19号竪立柱建物P 28(北西から)
5. 19号竪立柱建物P 30・P 31(南東から)
6. 19号竪立柱建物P 33(南東から)
7. 19号竪立柱建物P 34(北西から)
8. 19号竪立柱建物P 35(南東から)
9. 19号竪立柱建物P 36(南東から)
10. 19号竪立柱建物P 36上層断面(南東から)
11. 19号竪立柱建物P 37(北西から)
12. 19号竪立柱建物P 37上層断面(南東から)
13. 19号竪立柱建物P 38(南東から)
14. 19号竪立柱建物P 39(南東から)
15. 19号竪立柱建物P 40(北西から)
- P L. 67
1. 2区北68号竪穴建物全景(西から)
2. 68号竪穴建物上層断面(西から)
3. 68号竪穴建物遺物出土状況(西から)
4. 68号竪穴建物電(西から)
5. 3区69号竪穴建物全景(北東から)
6. 69号竪穴建物地上上層断面(南東から)
7. 69号竪穴建物上層断面(南東から)
8. 69号竪穴建物P 1上層断面(南西から)
- P L. 68
1. 70号竪穴建物全景(西から)
2. 70号竪穴建物遺物出土状況(西から)
3. 70号竪穴建物電(西から)
4. 70号竪穴建物地上上層断面(南から)
5. 6号竪穴状遺構全景(南から)
6. 6号竪穴状遺構遺物出土状況(西から)
7. 7号竪穴状遺構全景(北から)
8. 7号竪穴状遺構2号上土坑遺物出土状況(北から)
- P L. 69
1. 16号・17号竪立柱建物全景(上北東)
2. 16号竪立柱建物全景(東から)
3. 16号竪立柱建物P 1(南西から)
4. 16号竪立柱建物P 2(南西から)
5. 16号竪立柱建物P 3(南西から)
6. 16号竪立柱建物P 4(南から)
7. 16号竪立柱建物P 5(南西から)
8. 16号竪立柱建物P 5(南西から)
- P L. 70
1. 16号竪立柱建物P 7(南西から)
2. 16号竪立柱建物P 8(南西から)
3. 17号竪立柱建物全景(東から)
4. 17号竪立柱建物P 1(南西から)
5. 17号竪立柱建物P 2(南東から)
6. 17号竪立柱建物P 3(南東から)
7. 17号竪立柱建物P 3上層断面(南西から)
8. 17号竪立柱建物P 4(南東から)
- P L. 71
1. 20号竪立柱建物全景(東から)
2. 20号竪立柱建物P 1(南から)

	3. 20号独立柱建物P 3(南から)		P L. 80	1. 3区56号土坑全景(北から)
	4. 20号独立柱建物P 4土層断面(南から)			2. 57号土坑全景(北から)
	5. 20号独立柱建物P 7(南から)			3. 58号土坑全景(東から)
	6. 20号独立柱建物P10(南から)			4. 59号土坑全景(北から)
	7. 20号独立柱建物P14土層断面(南から)			5. 60号土坑土層断面(南東から)
	8. 20号独立柱建物P18(南から)			6. 104号土坑土層断面(南から)
P L. 72	1. 14号溝全景(南から)			7. 4区53号土坑全景(南から)
	2. 14号溝土層断面(南から)			8. 9号溝・54号土坑土層断面(南から)
	3. 15号溝検出状況(西から)			9. 10号溝・55号土坑土層断面(南から)
	4. 16号溝全景(南から)			10. 61号土坑土層断面(南から)
	5. 37号溝全景(東から)			11. 62号土坑遺物出土状況(南から)
	6. 37号溝土層断面(東から)			12. 62号土坑土層断面(南から)
	7. 17号溝全景(南から)			13. 63号土坑全景(西から)
	8. 16号・17号溝土層断面(南から)			14. 64号～66号・71号土坑全景(南から)
P L. 73	1. 20号溝全景(南から)			15. 64号土坑土層断面(南から)
	2. 20号・28号溝土層断面(南から)		P L. 81	1. 65・66・71号土坑土層断面(南から)
	3. 28号・35号溝全景(東から)			2. 67号土坑全景(南から)
	4. 35号溝土層断面(東から)			3. 68号土坑全景(南から)
	5. 21号溝全景(南から)			4. 69号土坑全景(北から)
	6. 21号溝底面ビットP 4(西から)			5. 70号土坑全景(東から)
	7. 22号溝全景(南から)			6. 72号土坑全景(東から)
	8. 21号・22号溝土層断面(南から)			7. 72号土坑土層断面(東から)
P L. 74	1. 27号溝全景(北から)			8. 73号土坑全景(南から)
	2. 27号溝底面ビット(北から)			9. 73号土坑土層断面(東から)
	3. 27号・36号溝全景(南から)			10. 74号土坑全景(東から)
	4. 36号溝土層断面(南から)			11. 75号土坑全景(東から)
	5. 23号溝全景(南から)			12. 97号・98号土坑全景(南から)
	6. 23号溝土層断面(北から)			13. 97号・98号土坑土層断面(南から)
	7. 13号溝全景(南から)			14. 99号土坑全景(南から)
	8. 19号溝全景(南から)			15. 99号土坑土層断面(南から)
P L. 75	1. 3・4区7号～11号・24号～26号・29号～33号溝全景(上が東)		P L. 82	1. 76号・77号土坑全景(南東から)
	2. 24号溝全景(南から)			2. 76号・77号土坑土層断面(南東から)
	3. 24号溝土層断面(南から)			3. 78号土坑全景(南から)
	4. 25号・26号溝全景(南東から)			4. 79号土坑・874号ビット全景(南から)
	5. 25号・26号溝土層断面(北西から)			5. 79号土坑・874号ビット土層断面(東から)
P L. 76	1. 29号溝全景(南から)			6. 80号土坑全景(南西から)
	2. 29号溝土層断面B-B'(南から)			7. 80号土坑土層断面(南東から)
	3. 30号溝全景(西から)			8. 81号土坑全景(南東から)
	4. 30号溝土層断面D-D'(東から)			9. 82号土坑全景(南東から)
	5. 31号溝全景(東から)			10. 83号土坑全景(南東から)
	6. 29号・31号溝土層断面C-C'(南から)			11. 84号土坑全景(南東から)
	7. 32号溝全景(西から)			12. 84号土坑土層断面(南東から)
	8. 33号溝全景(南から)			13. 85号土坑全景(南東から)
P L. 77	1. 3区7号溝全景(北から)			14. 86号土坑全景(南から)
	2. 3区9号溝全景(南から)		P L. 83	15. 87号土坑全景(南から)
	3. 4区7号・8号溝全景(南から)			1. 88号土坑全景(南西から)
	4. 4区7号・8号溝土層断面(南から)			2. 89号・90号土坑全景(南西から)
	5. 4区9号溝・54号土坑土層断面(南から)			3. 91号土坑全景(南西から)
	6. 3区10号溝全景(南から)			4. 92号土坑・884号ビット全景(南から)
	7. 4区10号溝全景(南東から)			5. 92号土坑・884号ビット土層断面(南から)
	8. 4区10号・11号溝土層断面(南から)			6. 93号土坑全景(南西から)
P L. 78	1. 38号溝全景(南から)			7. 94号土坑全景(南から)
	2. 38号溝土層断面(南から)			8. 95号土坑土層断面(南から)
	3. 46号溝全景(南から)			9. 96号土坑全景(南東から)
	4. 46号溝土層断面(南から)			10. 100号土坑全景(南から)
	5. 47号溝全景(東から)			11. 101号土坑全景(南から)
	6. 47号溝土層断面(北西から)			12. 101号土坑土層断面(南東から)
P L. 79	1. 4区41号～45号・49号溝全景(上が北)			13. 102号土坑土層断面(南から)
	2. 41号・42号溝全景(南から)			14. 103号土坑全景(南から)
	3. 41号・42号溝土層断面(北から)			15. 103号土坑土層断面(南から)
	4. 43号～45号・49号溝全景(南から)		P L. 84	1区1号・2号(1)型穴建物出土遺物
	5. 43号～45号・49号溝土層断面(南から)		P L. 85	1区2号(2)・3～5号・7号型穴建物出土遺物
	6. 5区48号溝全景(上が北)		P L. 86	1区6号・8号・9号型穴建物出土遺物
	7. 48号溝遺物出土状況(南から)		P L. 87	1区10号型穴建物出土遺物
	8. 48号溝土層断面(北から)		P L. 88	1区11号・12号(1)型穴建物出土遺物
			P L. 89	1区12号(2)・13号型穴建物出土遺物

- P.L. 90 1区14号・15号・16号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 91 1区16号(2)型穴建物出土遺物
- P.L. 92 1区16号(3)・17号・18号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 93 1区18号(2)型穴建物出土遺物
- P.L. 94 1区19号・20号型穴建物・2号型穴状遺構・7号掘立柱建物出土遺物
- P.L. 95 1区1区1号方形周溝墓・1号・2号・17号土坑・256号ピット・1区遺構外出土遺物
- P.L. 96 2区21号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 97 2区21号(2)型穴建物出土遺物
- P.L. 98 2区22号型穴建物出土遺物
- P.L. 99 2区23号・24号型穴建物出土遺物
- P.L. 100 2区25号～28号型穴建物出土遺物
- P.L. 101 2区29～34号・35号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 102 2区35号(2)・37号～39号・41号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 103 2区41号(2)・42号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 104 2区42号(2)・43号・44号型穴建物出土遺物
- P.L. 105 2区45号～48号型穴建物出土遺物
- P.L. 106 2区49号～51号・52号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 107 2区52号(2)型穴建物出土遺物
- P.L. 108 2区52号(3)・53号～56号・58号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 109 2区58号(2)・59号・60号(1)型穴建物出土遺物
- P.L. 110 2区60号(2)型穴建物出土遺物
- P.L. 111 2区60号(3)型穴建物出土遺物
- P.L. 112 2区61号～65号型穴建物出土遺物
- P.L. 113 2区66号・67号型穴建物・5号型穴状遺構・15号掘立柱建物・2号溝・25号土坑出土遺物
- P.L. 114 2区27号・29号・34号・36号・38号(1)土坑出土遺物
- P.L. 115 2区38号(2)・47号・50号土坑・390号・558号ピット・1号遺物集中(1)出土遺物
- P.L. 116 2区1号遺物集中(2)・2区遺構外(1)出土遺物
- P.L. 117 2区遺構外(2)・3区7号柱穴列・2区北68号型穴建物(1)出土遺物
- P.L. 118 2区北68号型穴建物(2)出土遺物
- P.L. 119 2区北68号(3)・3区70号型穴建物・21号溝出土遺物
- P.L. 120 3区24号溝・32号溝・3・4区9号・10号・4区49号溝出土遺物
- P.L. 121 4区43号溝出土遺物
- P.L. 122 4区44号溝出土遺物
- P.L. 123 5区48号(1)溝出土遺物
- P.L. 124 5区48号(2)溝出土遺物
- P.L. 125 4区62号・72号土坑・837号ピット・2区北・3区・4区・5区遺構外出土遺物
- P.L. 126 1. 1区旧石器8号トレンチ石器出土状況(南西から)  
2. 1区旧石器8号トレンチ石器出土状況(南西から)  
3. 1区旧石器8号トレンチ確集(西から)  
4. 1区旧石器8号トレンチ土層セクション(西から)  
5. 1区旧石器9号トレンチ(南から)  
6. 1区旧石器10号トレンチ(南から)  
7. 1区旧石器11号トレンチ(南から)  
8. 1区旧石器12号トレンチ(南から)
- P.L. 127 1. 1区旧石器14号トレンチ拡強部(西から)  
2. 1区旧石器14号トレンチ拡強部の確集中検出状況(西から)  
3. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(南から)  
4. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(南から)  
5. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(西から)  
6. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(北から)  
7. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(南から)  
8. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(西から)
- P.L. 128 1. 1区旧石器14号トレンチ確密集部(炭化物の試料採取)  
2. 1区旧石器14号トレンチ確密集部・土層セクション(南西から)  
3. 1区旧石器14号トレンチ・土層セクション  
4. 1区旧石器14号トレンチ・土層セクション(南から)  
5. 1区旧石器14号トレンチ西壁のAs-BPG炭化物(東から)  
6. 同左・拡大
7. 1区旧石器14号トレンチ拡強③(西から)  
8. 1区旧石器14号トレンチ拡強④(AT直上炭化物検出状況)
- P.L. 129 1. 1区旧石器14号トレンチ拡強②(西から)  
2. 1区旧石器14号トレンチ拡強③(西から)  
3. 1区旧石器14号トレンチ拡強④(西から)  
4. 1区旧石器14号トレンチ拡強⑤(西から)  
5. 1区旧石器14号トレンチ拡強⑥(西から)  
6. 1区旧石器15号トレンチ(南から)  
7. 1区旧石器16号トレンチ(南から)  
8. 1区旧石器17号トレンチ(南から)
- P.L. 130 1. 2区旧石器20号トレンチ(南から)  
2. 2区旧石器20号トレンチ確集中(南から)  
3. 2区旧石器20号トレンチ確集中(西から)  
4. 2区旧石器20号トレンチ確集中(南から)  
5. 2区旧石器20号トレンチ確集中(西から)  
6. 2区旧石器20号トレンチ確集中(南から)  
7. 2区旧石器20号トレンチ確集中(南から)  
8. 2区旧石器20号トレンチ確集中の調査
- P.L. 131 1. 2区旧石器20号トレンチ確集中の確(1)  
2. 2区旧石器20号トレンチ確集中の確(2)  
3. 2区旧石器22号トレンチ(南から)  
4. 2区旧石器25号トレンチ(南から)  
5. 2区旧石器26号トレンチ(南から)  
6. 2区旧石器26号トレンチ(南から)  
7. 2区旧石器26号トレンチの溝  
8. 2区旧石器28号トレンチ(南から)
- P.L. 132 1. 3区旧石器20号トレンチ全景(南から)  
2. 3区旧石器40号トレンチ(東から)  
3. 3区旧石器43号トレンチ(東から)  
4. 3区旧石器43号トレンチ(南から)  
5. 3区旧石器46号トレンチ(東から)  
6. 3区旧石器46号トレンチ(南から)  
7. 5区旧石器55号トレンチ(南から)  
8. 5区旧石器55号トレンチ(東から)
- P.L. 133 1区・2区出土石器、1区旧石器8号・14号トレンチ確集中(1)
- P.L. 134 1区旧石器14号トレンチ確集中(2)・確密集部
- P.L. 135 2区旧石器20号・22号トレンチ確集中

## 第5章 考察

## 第5章 考察

### 第1節 囲い状遺構と多田山東遺跡

#### 第Ⅱ地点の概要

2区北と3区で確認した囲い状遺構は、遺構全体の南東の部分にあたる範囲と考えられる。そこでは、遺構を区画する溝と柱穴列、その内部に位置する掘立柱建物2棟を確認したが、その北西の範囲や遺構全体の性格など、不明な点が残されている。そこで本節では、遺構の全体像をとらえるために2区北と3区で確認された遺構と共に、その北西に位置し、囲い状遺構の内側と考えられる範囲を含む多田山東遺跡第Ⅱ地点(平成11年度赤堀町教育委員会<sup>1)</sup>の調査内容も併せて検討したい。

多田山東遺跡第Ⅱ地点の出土物の実測・観察と各遺構については、伊勢崎市教育委員会のご協力<sup>2)</sup>を得た。記して感謝の意を表したい。

#### 1. 囲い状遺構内の施設

##### (1) 12号溝(第341図)

12号溝は、囲い状遺構を囲繞する溝と考えられるが、幅は20cm～50cm、深さは3cm～12cmである。後世の削平を考慮しても浅く幅の狭い溝である。したがって、単に区画することを目的としたものではなく、区画内と外部とを遮断する目的で、溝の内側に位置する柱を支えとして設置された柵などの下部の補強のため掘削されたものと考えられる。7号柱穴列P13～P22付近と、東隅にあたるP27とP28間では溝が検出されないうところがあった。これは出入り口など、構築当初から柵や溝のない構造の箇所も想定されるが、その場合も一部に限られると考えられる。溝が検出されなかったのは、後世の削平によって当時の地表面が失われていたためで、当初は連続していたものと考えられる。

##### (2) 7号柱穴列(第341図)

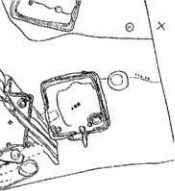
7号柱穴列の各柱穴の間隔は、他の柱穴に比べ規模の小さいP3・P4付近と、攪乱を受けている範囲を除き2.60m～3.55mで、いずれも12号溝の内側に接する位置

で平行している。柱が溝の中ではなく内側にあることから、渋川市金井下新田遺跡の綱代垣のような柱の両側を綱代で挟むような構造ではなく、何らかの垣状のものを柱の外側に固定した構造であったと考えられる。更に、金井下新田遺跡の綱代垣を支えていた柱の地表面からの深さはほとんどが1mを超えており、地上に立っていた柱の高さは3m程で、柱間は全て1.8mであったことが明らかになっている。一方、7号柱穴列の各柱穴の深さは1mを超えるものもあるが、多くは40cm～80cm程である。後世の削平があるため、実際の深さはやや深くなると考えられるが、全ての柱の深さが1mに及ぶ可能性は低い。さらに、柱間は2.60m～3.55mと長めであることから、各柱にかかる荷重の少ない構造であったと考えられる。したがって、垣状のものは、金井下新田遺跡の3mに及ぶ3層構造の綱代垣と比較すると、低くシンプルな構造であった可能性が高い。

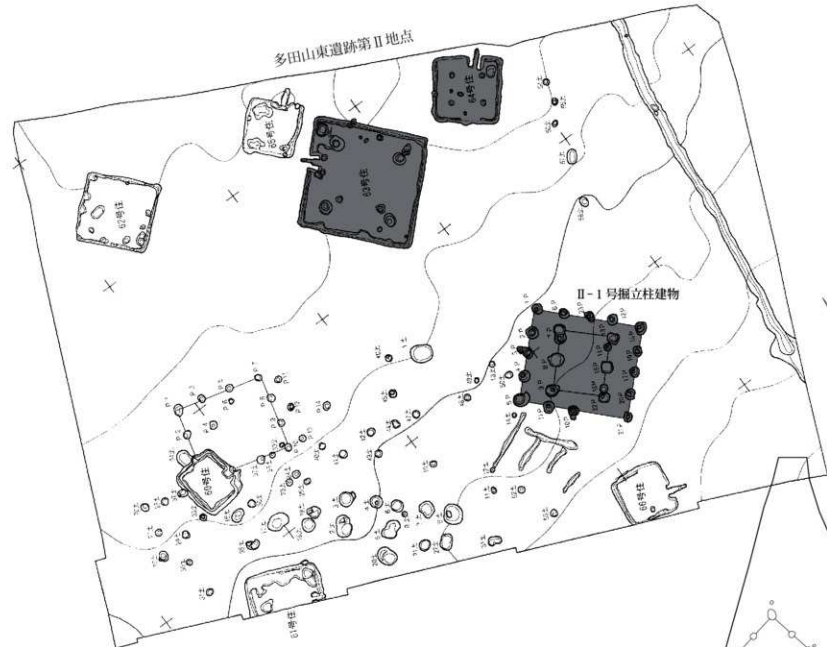
##### (3) 18号掘立柱建物(第341・342図)

2区北に位置する18号掘立柱建物は、各柱穴の規模や位置関係から屋内棟持柱をもつ高床で寄棟の構造であると考えられる。屋内棟持柱をもつ建物の例としては、県内では伊勢崎市三軒屋遺跡39号掘立柱建物、高崎市三ツ寺1遺跡2号掘立柱建物、県外では奈良県上之宮遺跡SB06、同県阿部丘陵中山地区遺跡SB01、鳥根県芝原遺跡SB01などが挙げられる。いずれも古墳時代後期の豪族居館や奈良・平安時代の豪族住宅に関わる建物、官衙施設の一部と考えられる建物である。

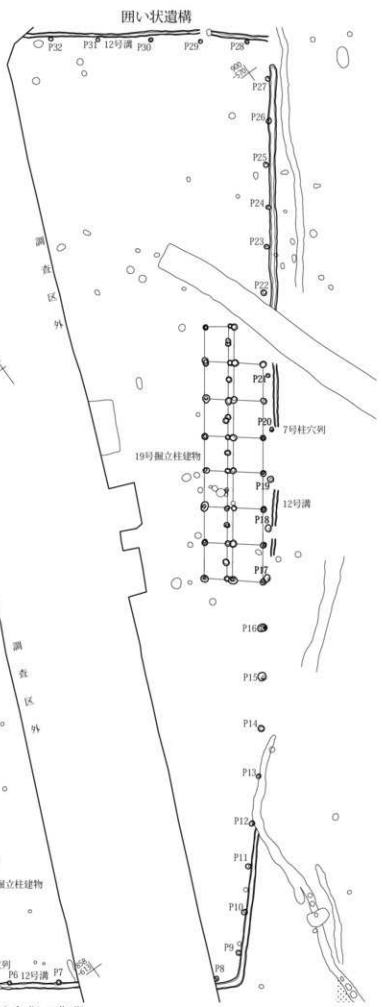
伊勢崎市三軒屋遺跡39号掘立柱建物は建物の東側が調査区外にあり、桁行の規模は不明であるが、桁行3間以上、梁行2間(6.9m)の東西に棟を取る側柱建物と考えられている。桁行の柱間は2.4mである。柱穴は80cm×70cmほどの楕円形状のものを主体とし、確認面から60cm～70cmほど掘り込まれている。棟持柱は建物内部で妻側中央柱筋には通っているが、平側柱延長からはややずれた位置にある。柱穴は75cm×60cmの楕円形で、深さ57cmほどである。三軒屋遺跡は伊勢崎市上植木本町に位置しており、佐位郡正倉院であることが明らかになった遺跡



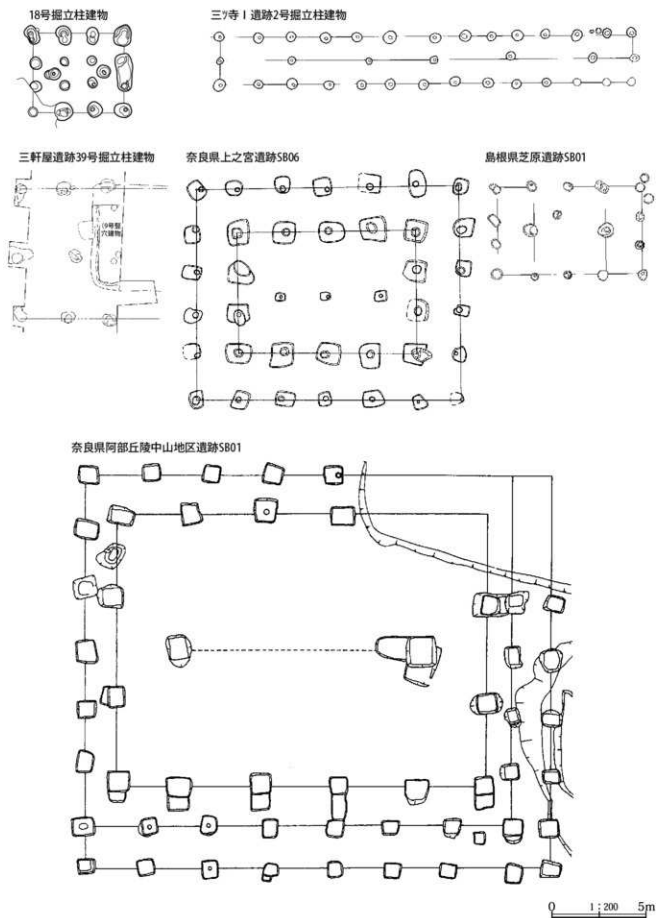
多田山東遺跡  
第三地点



0 1:250 10m



第341図 圓い状遺構と多田山東遺跡第Ⅱ地点・第三地点(赤堀町委2000「平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報」挿図7、同2001「町内遺跡発掘調査報告」挿図9を合成して作成)



第342図 屋内棟持柱のある掘立柱建物

である。正倉院に関連する数多くの遺構が検出されているが、39号掘立柱建物は、正倉ではなく工房と考えられている。

高崎市三ツ寺1遺跡2号掘立柱建物は5世紀後半から6世紀初頭の豪族居館を構成する建物で、館の外周にめぐる柵列(西辺第5列)に持たせ架けた状態で造られている。桁行13間(21.74m)、梁行2間(2.55m)で棟持柱7本をもつ細長い建物である。柱間は桁行方向1.31m～2.35m、梁行方向1.27m～1.33m、棟持柱間2.19m～4.32mである。

島根県芝原遺跡SB01は、桁行4間(7.2m)、梁行3間(4.2m)の東西に棟を取る側柱建物である。柱間は桁行1.8m前後、梁行1.15m～1.6mである。西側柱から1間目と3間目の梁間中央にそれぞれ棟持柱がある。柱穴は径35cm～60cmの円形で、深さ17cm～55cmを計る。豪族居宅に関わる建物で間仕切り壁をもつと考えられている。

18号掘立柱建物は、規模や構造が芝原遺跡SB01に近いが、柱穴の規模が大ききことや東柱を有していることなどから、屋内棟持柱のある建物の中でも稀な構造で頑強な作りと考えられる。これに対して、奈良県上之宮遺跡SB06や同県阿部丘陵中山地区遺跡SB01などの、官衙の一部と考えられている建物とは規模や構造が全く異なっている。例に挙げたそれぞれの建物の時期には差があるものの、18号掘立柱建物は、柱穴の規模や建物の構造から、古墳時代の豪族居館や奈良・平安時代の豪族居宅内の建物に見られる構造に類すると考えられる。棟持柱があることで建物の内部に柱が通る形となることから、屋内の使用の仕方にも制限が出てくると考えられ、倉庫など居住以外の用途が想定される。

#### (4) 19号掘立柱建物(第341・343～345図)

3区に位置する19号掘立柱建物も第1分冊第3章で述べたように稀な形態の建物で、東隅の擾乱を受けている範囲に1基の柱穴が存在していたと仮定して、7間×2間の総柱の建物と考えられる。全体の形状から、居住以外の目的で使用された建物と考えられる。このような規模と形状の建物の例としては、神奈川県南殿治山遺跡4\_S10106、静岡県横山遺跡SH223、佐賀県吉野ヶ里遺跡SB0677などが挙げられる。いずれも古墳時代の豪族居館や奈良・平安時代の官衙あるいは豪族居宅に伴う厩舎と

考えられているものである。

県内におけるこのような建物の例として挙げられるのが、渋川市黒井峯遺跡C-76号家畜小屋、C-77号家畜小屋、同市西組遺跡B-93号平地式建物である。黒井峯遺跡と西組遺跡は6世紀初頭のHr-FA及び6世紀中頃のHr-FPIによって被災し、当時の状況を示す様々な遺構が確認された遺跡である。黒井峯遺跡C-76号家畜小屋は、桁行4間(7m)、梁行2間(3.3m)の掘立柱建物である。中央の東西に並ぶ5基の柱穴を境にして、北側は硬化した通路、南側には浅い堅穴が2基設けられている。2基の堅穴はそれぞれ2つの房に分かれており、両堅穴は西にゆるく傾斜している。4つの房の深さは、東側から22cm、12cm、25cm、12cmである。4つの房全てに板敷きが設けられているが、その下に尿溜めが設けられていた可能性が高い。C-77号家畜小屋は、桁行3間(5.9m)、梁行2間(4m)の掘立柱建物である。建物は南北に2等分され、通路と3つの房に分かれている。3つの房は深さ5cm～10cmの浅い堅穴で、すのこ状に板が敷かれている。西端の房の板敷下に80cm×40cm、深さ20cmの長楕円形の尿溜めがあることが確認された。他の房すべてにも設けられていた可能性が高い。黒井峯遺跡C-76号家畜小屋、C-77号家畜小屋、西組遺跡B-93号平地式建物は、いずれも馬の飼育が行われていたと考えられている建物である。

このような類例から19号掘立柱建物についても、その形態から用途の1つとして厩舎を挙げることができる。ただし他の厩舎と考えられる建物の例に見られないのが、建物の中央に並ぶP16～P32の柱穴である。近接するP8～P15に比べ規模が小さく、柱間が1/2である。P8～P15に近接していることから東柱の可能性は低く、建物を支えるための他の柱とは異なる設置目的と考えられ、仕切りなどの用途が想定される。

厩舎としての19号掘立柱建物の構造を考えると、P1～P15と、建物の東隅に存在した可能性のある1本を合わせた16本の柱によって7つの馬房、その馬房とP33～P40の間の範囲が通路、P16～P32は、その規模や位置から各馬房と通路を仕切る柵の柱であることが想定できる。各柱穴の位置と現代の一般的な厩舎の構造をもとに、一例として想定した柵と他の柱について、上屋などを省略しイメージしたのが第345図である。古墳時代～平安時代の馬小屋・厩舎と考えられる前述の例につい

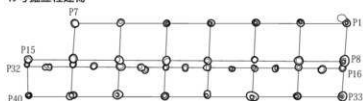


て篠崎謙治氏が『馬小屋の考古学』の中で馬小屋・厩舎の判断基準として挙げているのは、竪穴状の建物であること、床面が傾斜していること、尿溜めがあること等である。本遺構ではいずれも検出されていないが、遺跡全体において後世の削平によって当時の地表面が失われていることから、かつては床面の傾斜や尿溜めが存在していた可能性がある。

また、同書で上記判断基準に当てはまらない厩舎の例として、平城宮西方官衙の発掘調査で検出された奈良時代初期から後半の厩舎の例を挙げている。検出された厩舎に竪穴や尿溜めが見当たらない理由として、大量の糞

や尿などを吸収した敷き藁は、長期間留め置かれず、短期間のうちに厩外に搬出され、清掃されたであろうということを挙げている。馬が嫌う湿気を除いて清潔さを保つと同時に、いつでも有事に備えて出撃できる態勢を整えておく、あるいはさまざまな儀式に出られるようにしておくなどの背景があったと論じている。平城宮西方官衙の厩舎とは時期や、施設の性格、規模が異なるが、19号掘立柱建物での馬の所有目的や方法において共通する点があるとすれば、後世の削平によって失われたのではなく、当初から竪穴や尿溜めなどは存在していなかったとも考えられる。

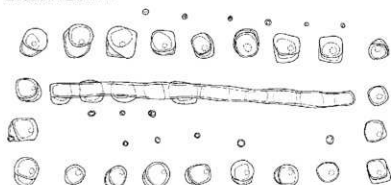
## 19号掘立柱建物



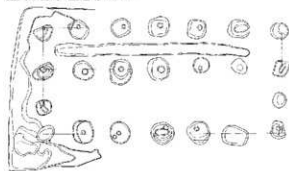
## 神奈川県南飯治山遺跡4\_S10106



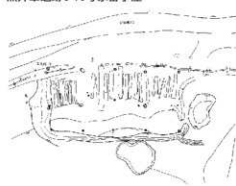
## 静岡県横山遺跡SH223



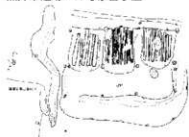
## 佐賀県吉野ヶ里遺跡S80677



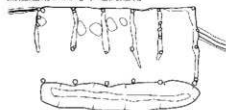
## 黒井峯遺跡C-76号家畜小屋



## 黒井峯遺跡C-77号家畜小屋



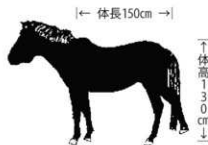
## 西組遺跡B-93号平地式建物



0 1:200 5m

第343図 厩舎に類すると考えられる掘立柱建物

古墳時代に国内にいた馬は、現在生息している木曾馬とほぼ同等の体格<sup>13)</sup>であることがわかっている。木曾馬は体高130cm、体長150cm程の中型馬である。建物の東側を7つの馬房と考えた場合、構成するP1～P15の柱間は梁行方向が1.94m～2.00m、桁行方向が2.25m～



第344図 木曾馬の平均的な体格

2.50mである。また、P16～P32の柵までが馬房の範囲と考えた場合、各馬房は概ね一辺が2.4m程の正方形となり、木曾馬と同等の体格の馬に適する規模である。

19号掘立柱建物を含む囲い状遺構と同時期に築造された周辺の古墳には、本遺跡の300m程西に位置する多田山古墳群や粕川町の白藤古墳群内の古墳があり、それぞれ複数の古墳から馬形埴輪が出土している。このうち、白藤古墳群のV-4号墳(5世紀後半)、同P-6号墳(5世紀末)、多田山4号墳(6世紀前半)から出土した馬形埴輪の特徴に目を向けてみると、白藤古墳群のV-4号墳の埴輪は作りが単純で、目が正面にあるなど、実際の馬体とはやや差がある形状であるのに対し、P-6号墳で出土した埴輪や多田山4号墳から出土した埴輪では、馬具の細かい表現が見られるなど馬形埴輪の制作技術に進化が認められる。こうした進化を伴い、5世紀後半から6世紀前半にかけて馬形埴輪が連続的に樹立されることから、この地域においても馬が人々の目に触れる機会が増えていった時期であることが窺われる。また、榛名山北東麓の渋川市金井下新田遺跡では、6世紀初頭

のHr-FAによって被災した仔馬などが出土し、それ以前から同遺跡周辺の地域で馬の飼育や生産が行われていたことが明らかになっている。こうしたことから、多田山東遺跡周辺においても馬の存在は想定し得る。

#### (5) 囲い状遺構と2棟の建物

多田山東遺跡で検出された2棟の建物と囲いの関係について考えてみると、18号掘立柱建物の梁方向の中軸は、囲い南西辺のP3とP4のはぼ中央を通る位置関係にある。この位置関係とP3、P4が他の柱より規模や柱間が小さいことから、囲い状遺構の出入り口などの構造が想定されるが、囲い状遺構の囲いが内部と外部を遮断することを目的としていたとすれば、出入り口と18号掘立柱建物の間には、開閉時の視界を遮る施設の存在が考えられる。しかし、そのような痕跡は確認されなかったことから、出入り口と考えることは難しい。18号掘立柱建物との関りのある何らかの構造と考えられる。

19号掘立柱建物と7号柱穴列の柱間は異なるものの、19号竪穴建物の柱穴と7号柱穴列の柱穴が近接する地点のそれぞれの位置関係(19掘立P2と7柱穴列P18の位置と19掘立P7と7柱穴列P21の位置関係、19掘立P4と7柱穴列P19の位置と19掘立P5と7柱穴列P20の位置関係)はそれぞれ近似している。したがって、19号掘立柱建物の東側にあたる位置では、擾乱によって柱穴を確認することができなかったが、19号掘立柱建物P1と7号柱穴列P17の位置関係に近似する19号掘立柱建物と7号柱穴列の柱穴が存在していた可能性がある。

また、7号柱穴列の各柱穴の位置について計測値をまとめてみた。(角にあたる位置に柱穴がないため、角に近い柱穴から角までを0.5間とした。)多少ばらつきはあるものの、南東辺が21間で62.3m、南西辺が7.5間で25.25m、北東辺が4.5間で14.25mであった。全ての柱



第345図 19号掘立柱建物 柵と柱のイメージ

間の平均は3.08mとなり、10尺間隔の規格で柱が立てられていると考えられる。その他、19号掘立柱建物の柱間は2.4m(8尺)、18号掘立柱建物の側柱の柱間は1.5m(5尺)、18号掘立柱建物と7号柱穴列の距離は3.6m(12尺)に近い計測値となっており、囲い状遺構とその内部の遺構は、1尺30cmの規格に基づき、人念な計画によって設置されていると考えられる。

## 2. 多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要

多田山東遺跡の本格的な調査が初めて行われたのは昭和56年度(当時は赤堀村教育委員会)である。1区・2区の西方100m程に位置する3,500m程の範囲の調査が行われ、縄文時代～平安時代までの竪穴建物59棟などが確認された。その後、赤堀町教育委員会による平成11年度の第Ⅱ地点の調査に続き、平成12年度に第Ⅲ地点の調査が行われた。第Ⅲ地点は第Ⅱ地点から市道を挟んだ北側に位置しており、古墳時代～平安時代の竪穴建物16棟などが確認されている。

多田山東遺跡第Ⅱ地点は、今回調査された囲い状遺構の西側に隣接する調査区である。古墳時代の竪穴建物3棟、奈良時代の竪穴建物4棟、掘立柱建物2棟などが確認された。第Ⅱ地点の調査では、囲い状遺構の区画と考えている12号溝と7号柱穴列に対応する遺構は検出されていない。一方、北側区画の西側延長上に位置する第Ⅲ地点でも区画は検出されていないことから、必然的に西側の区画は第Ⅱ地点と第Ⅲ地点の間に想定される。したがって、第Ⅱ地点で検出された遺構の多くは囲い状遺構の内部に位置していることになり、囲い状遺構を構成する施設の可能性がある。そこで伊勢崎市教育委員会の協力のもと、「平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報」に報告された各遺構について検討を行った。その内、囲い状遺構を構成する施設の可能性がある建物の概要と作成した図等は以下のとおりである。

### 63号住居(第341・347図、写真2・4)

調査区北側に位置する主軸方位をN-30°-Wとする正方形の建物で、規模は長軸7.60m、短軸7.50mの調査区内最大の竪穴建物である。竈は北西壁の北寄りの位置に設置しており、粘土とローム質土を用いて構築している。貯蔵穴は建物の北隅にある。規模は長径80cm、短径65cm

の長方形、深さ53cmである。主柱穴と考えられるピット4基と、南西側2つの主柱穴付近で小規模なピットが確認されている。建物構築材と考えられる炭化材や、焼土が検出されており、焼失した建物と考えられている。1～9の遺物が床面直上、貯蔵穴、埋没土中から出土している。この建物の時期は出土遺物から5世紀末から6世紀初頭と考えられ、囲い状遺構に伴う遺構と判断できる。

### 64号住居(第341・347～349図、写真2・4・5)

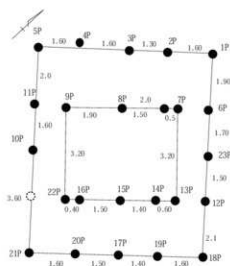
調査区北側にある。主軸方位がN-44°-Eの正方形の建物で、規模は長軸4.42m、短軸4.37mである。

竈は北東壁の東寄りの位置に設置しており、焚口に石を据えて構築している。貯蔵穴は建物の東隅にあり、長径68cm、短径55cmの長方形で深さ60cmである。主柱穴は4基で床面は柱穴内部、竈前を中心に硬くしまっていた。床面直上や埋没土中から遺物が多数出土しており、これらの遺物から、この建物の時期は5世紀第4四半期から6世紀第1四半期と考えられ、囲い状遺構に伴う遺構と判断した。

### Ⅱ-1号掘立柱建物(第341・346図、写真3)

調査区南側にある。平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報では「3. 掘立柱建物遺構」において「66号の北側に発見した遺構」と表記され、伊勢崎市教育委員会の諸記録では「1号掘立柱建物」として扱われているため、本遺跡1区の調査でも「1号掘立柱建物」の遺構名を使用していることから、ここでは「Ⅱ-1号掘立柱建物」と表記した。

桁行方位がN-45°-Eの桁行4間:6.10m、梁行4間:7.30mの建物で、4間×4間の側柱と2間×1間の入側柱があり、桁行2間、梁行1間の身舎四面に廂がつく四面廂建物と考えられる。12号溝、7号柱穴列、18号・19号掘立柱建物とはやや方位が異なるが、7号柱穴列P16と同様な形態の須恵器模倣土師器杯が出土している64号住居と同様の方位であることから、囲い状遺構を構成する遺構の可能性が高い。



第346図 II-1号掘立柱建物柱間模式図

赤堀町教育委員会発行「平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報」をもとにした囲い状遺構を構成する施設の可能性がある建物についての概要は以上のとおりである。各遺構について記した通り、63号住居、64号住居、II-1号掘立柱建物は囲い状遺構の内部施設と判断できる。

この3棟を加えた建物の構成で、多田山東遺跡の囲い状遺構について検討していく必要がある。(山中 豊)

注

- 注1 平成17年1月1日の市町村合併により現在は伊勢崎市教育委員会となっているが本文中では調査時の名称を用いている。
- 注2 遺物の借用と実測の許可、遺構断面図・遺構写真の提供及び本報告書への掲載許可をいただいた。
- 注3 渋川市白井遺跡群の発掘調査で6世紀中頃のⅡ-FPに埋もれた無数の馬の蹄跡が確認され、その蹄跡に基づく比較研究から、古墳時代に生息していた馬が現在長野県地方を中心に生息している日本在来馬の木曾馬に近い体格であったことが明らかになった。

参考・引用文献

赤堀町教育委員会 1982『多田山東遺跡発掘調査概報』

赤堀町教育委員会 2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』

赤堀町教育委員会 2001『平成12年度 町内遺跡発掘調査報告』

奈良文化財研究所 2003『古代の宮内道跡 Ⅰ遺構編』

桜井市教育委員会 1988『奈良県桜井市上之宮遺跡第三次発掘調査概報』

桜井市教育委員会 1986『阿部丘陵遺跡群・中山地区の調査』

宮本長二郎 1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版

伊勢崎市教育委員会 2013『三軒屋遺跡—総括編—』

群馬県教育委員会 1988『三ツ寺1遺跡』

松江市教育委員会 1989『芝原遺跡』

公益財団法人いわき市教育文化事業団 2010『榎草遺跡(第12次)』

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2021『金井下新田遺跡(古墳時代以降編)』

篠崎謙治 2010『馬小屋の考古学』

静岡市教育委員会 1984『横山遺跡』

藤沢市教育委員会 2017『南殿治山遺跡発掘調査報告書第13巻：古代9』

佐賀県教育委員会 1994『吉野ケ里遺跡』

北群馬郡子持村教育委員会 1990『黒井峯遺跡発掘調査報告書』

石井克己 1990『黒井峯遺跡の集落構造研究(1)—榛名火山の爆發で埋もれた西組遺跡—』『ぐんま考古学手帳 Vol.1』群馬上忍観会

群馬県立歴史博物館 2017『海を渡って来た馬文化—黒井峯遺跡と群る馬—』

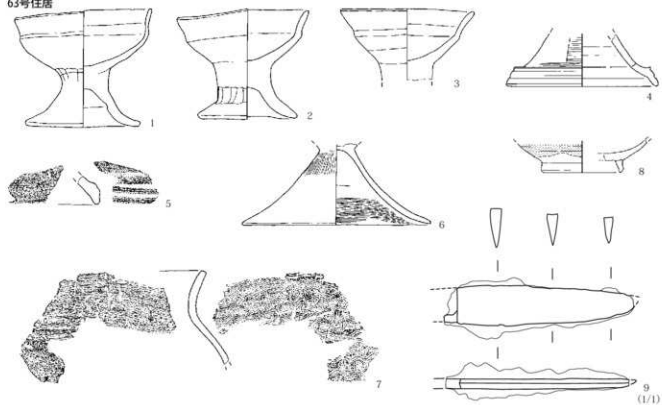
井上昌英・坂口 一 2004『古墳時代馬の体高推定—群馬県子持村・白井遺跡群出土のウマの蹄跡からの分析—』『研究紀要22』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004『多田山古墳群』

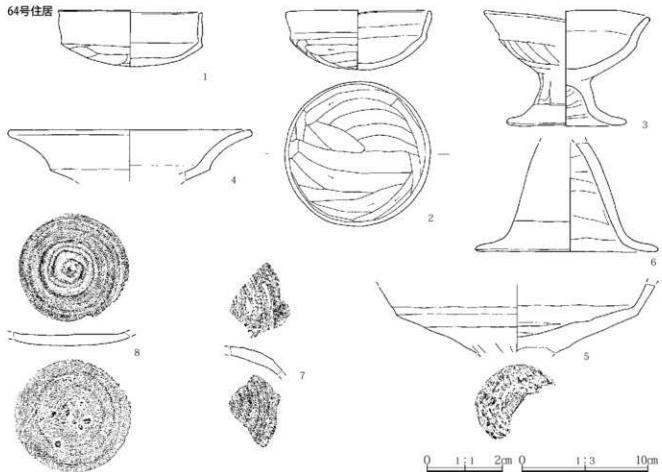
勢多郡船川村教育委員会 1989『白藤古墳群』

藤野一之 2019『群馬県における古墳時代須恵器編年』『古墳時代の須恵器と地域社会』株式会社六一書房

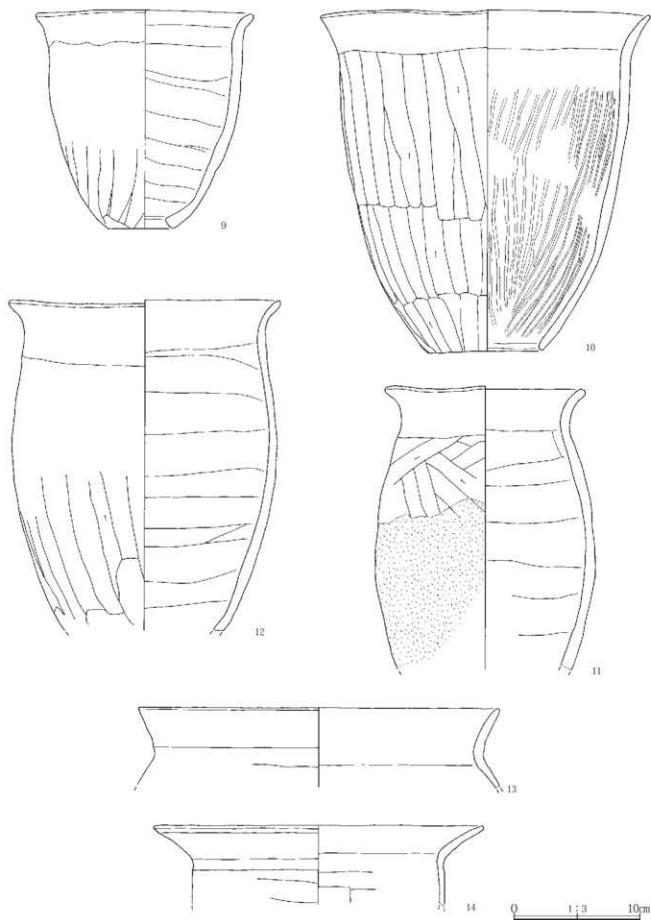
63号住居



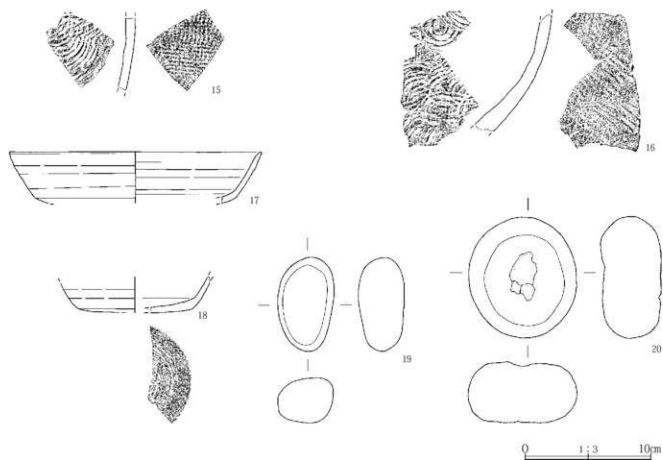
64号住居



第347図 第Ⅱ地点63号住居・64号住居出土遺物(1)



第348图 第Ⅱ地点64号住居出土遺物(2)



第349図 第Ⅱ地点64号住居出土遺物(3)

## 第5章 考察

第42表 多田山東遺跡第Ⅱ地点遺物観察表

63号住居

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第347図 写真4	1	土師器 高杯	ほぼ完形	口 10.7 脚 8.8 口径 10.2 高さ 9.3	細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、杯部はナデ、底部はヘラ削りか。脚部はヨコナデ。	杯部は須恵器 杯蓋模倣
第347図 写真4	2	土師器 高杯	貯蔵穴底部 3/4	口 10.1 脚 7.5 口径 9.0 高さ 8.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、杯部から底部はナデ。脚部は柱状部上半がナデ、下半はヘラナデ。基部はヨコナデ。	杯部は須恵器 杯蓋模倣
第347図 写真4	3	土師器 高杯	貯蔵穴内 杯部～脚部上位	口径 10.3 脚 8.3	細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、杯部から脚部はヘラナデ。	
第347図 写真4	4	須恵器 高杯	床面直上 脚部下位片	脚 11.8	細砂粒/酸化塩/に ぶい黄橙	ロクロ整形。回転は右回り。脚端部に2条の凹線。柱部はナメ。脚部に方形の透孔を3方に穿つ。	
第347図 写真4	5	須恵器 高杯	床面直上 脚部端部片		細砂粒/酸化塩/灰 黄	ロクロ整形。回転は右回りか。脚端部に2条の凹線が通る。	
第347図 写真4	6	土師器 高杯	脚部片	脚 14.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部上位にハケメ(1cm当たり7本)が残る。ハケメ下位はミガキか。内面は横方向ハケメ。	混入品、古墳 時代前期
第347図 写真4	7	土師器 高杯	口縁部～脚部上位 片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	残存部は口縁部から脚部に6～7段の波状文。内面はハケメ後部分的にナデ。	混入品、古墳 時代前期
第347図 写真4	8	灰釉陶器 椀	底部～体部片	口径 6.5 脚 6.0	微砂粒/還元塩/灰 白	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ。高台は貼付。撫輪方法は潰け掛り。	混入品、大原 2号窯式期
第347図 写真4	9	鉄製品 ミニチュア 刀子	刃長上 4/5	長さ 1.0 刃厚 0.9 刃幅 0.3	(5.1) 刃厚 1.0	小型の刀子。茎が一部欠損している。実用というより祭祀用と考えたほうが良い。	

64号住居

種目 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第347図 写真4	1	土師器 杯	床面直上 4/5	口 11.4 高 4.4 口径 11.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ。椀下部から底部は手持ちヘラ削り。口縁部は若干窪みをもつ平坦面を作る。	須恵器杯蓋 模倣
第347図 写真4	2	土師器 杯	完形	口径 11.4 高 4.7 口径 10.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はヨコナデ。椀下部から底部は手持ちヘラ削り。口縁部は平坦面を作る。	
第347図 写真4	3	土師器 高杯	床面直上 3/4	口 12.9 脚 9.5 口径 10.8 高さ 9.1	細砂粒/良好/橙	杯部と脚部の接合状態不明。杯部は口縁部がヨコナデ、杯部はヘラ削り。脚部は柱状部がヘラナデ。基部がヨコナデ。内面は脚部柱状部にヘラナデ。	
第347図 写真4	4	土師器 高杯	床面直上 杯部片	口径 19.0 脚 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部はヨコナデ。	
第347図 写真4	5	土師器 高杯	杯部底部片	脚 19.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	脚部は杯部に貼付するように接合。杯部底部に縦刻を複数入れる。杯部は下はヘラ削り後ナデ。内面はヘラナデ。	
第347図 写真4	6	土師器 高杯	脚部片	脚 14.1	細砂粒/良好/明赤 褐	脚部柱状部はヘラナデ。基部はヨコナデ。内面は柱状部にヘラ削りに近いヘラナデ。	
第347図 写真4	7	須恵器 蓋杯の蓋	天井部片		細砂粒/還元塩・ 橙/黒	ロクロ整形。回転方向不明。天助部は回転ヘラ削り。内外面とも模倣成。	
第347図 写真4	8	須恵器 蓋杯の身	底部		細砂粒/還元塩・ 橙/黒	ロクロ整形。回転は左回り。底部は回転ヘラ削り。内外面とも模倣成。	
第348図 写真5	9	土師器	ほぼ完形	口径 16.9 高 17.2 口径 5.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。上半は器面磨滅のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図 写真5	10	土師器		口径 25.8 高 27.0	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部に腹方向ヘラナデ。	
第348図 写真5	11	土師器		口径 15.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。中位から下位に粘土付着のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図 写真5	12	土師器		口径 17.4 口径 20.8	細砂粒/良好/にぶ い赤橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。上半は器面磨滅のため単位不明。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図	13	土師器	口縁部～胴部上位 片	口径 28.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第348図 写真5	14	土師器	口縁部～胴部上位 片	口径 26.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はヨコナデ。胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第349図 写真5	15	須恵器 須恵器	胴部片		細砂粒/還元塩/灰	胴部は甲き締め成形。外面は格子目状甲き組、内面は同心円状アテ目状甲き組が残る。	混入品
第349図 写真5	16	須恵器 須恵器	胴部片		細砂粒/還元塩/灰	胴部は甲き締め成形。外面は格子目状甲き組、内面は同心円状アテ目状甲き組が残る。	混入品、7世 紀末～8世紀 前半
第349図 写真5	17	須恵器 杯	口縁部～体部片	口径 19.8	細砂粒/良好/灰	ロクロ整形。回転は右回り。有台形壺か。	混入品、7世 紀後半
第349図 写真5	18	須恵器 杯	底部～体部片	口径 9.0	細砂粒/還元塩/灰	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第349図 写真5	19	石製品 小型棒状物	完形	長さ 7.5 厚 3.6 幅 4.5 重 157.6	粗粒輝石安山岩	左側面に磨り磨かれた面が残る。	
第349図 写真5	20	石製品 凹石	完形	長さ 9.6 厚 4.6 幅 8.6 重 454.1	粗粒輝石安山岩	上面中央にわずかな窪みが、みられる。	





1. 第Ⅱ地点調査区全景(東から)



2. 第Ⅱ地点調査区より多田山丘陵を望む(東から)



1. 63号住居(東から)



2. 63号住居土層断面(南から)



3. 63号住居遺物出土状況(南西から)



4. 63号住居竈(南東から)



5. 64号住居(南西から)



6. 64号住居土層断面(南から)



7. 64号住居遺物出土状況(南西から)



8. 64号住居竈(南西から)



1. 1号掘立柱建物1P土層断面



2. 1号掘立柱建物2P土層断面



3. 1号掘立柱建物4P土層断面



4. 1号掘立柱建物6P土層断面



5. 1号掘立柱建物9P土層断面



6. 1号掘立柱建物10P



7. 1号掘立柱建物12P



8. 1号掘立柱建物13P土層断面



9. 1号掘立柱建物14P



10. 1号掘立柱建物17P土層断面



11. 1号掘立柱建物19P土層断面



12. 1号掘立柱建物20P土層断面



13. 1号掘立柱建物21P土層断面



14. 1号掘立柱建物22P土層断面



15. 1号掘立柱建物23P

63号住居



64号住居(1)



63号・64号(1)住居出土遺物



64号(2)住居出土遺物

## 第2節 多田山東遺跡の囲い状遺構について

### 1. はじめに

多田山東遺跡は赤城山小沼を水源とする粕川の右岸、多田山丘陵の東の台地に立地する。この台地の東側は粕川が形成した比較的広い低地で、西側には多田山丘陵との間に狭いながらも水田可耕地の低地が存在し、農耕集落が形成されるには適した台地である。集落の範囲はおおよそ南北500m、東西270mとみられ、古墳時代から平安時代前期にかけての竪穴建物が密な状態で展開していることが、今回の発掘調査及び赤堀町教育委員会による発掘調査<sup>21</sup>によって明らかになった。その中でも特に古墳時代中期から後期にかけては竪穴建物28棟(今回の報告分)と盛行していた。そうしたなか、集落の北東にあたる場所から、柱穴列と溝による区画内部に掘立柱建物と竪穴建物が配置された囲い状遺構<sup>22</sup>が検出され、首長層の居館の可能性がでてきた。ここでは赤堀町教育委員会の実施した多田山東遺跡(平成11年度、平成12年度)の成果<sup>23</sup>を含めて検討を行うこととした。

### 2. 区画施設の遺構

囲い状遺構の区画施設は、第1分冊第238図に示したように、小規模な柱穴からなる7号柱穴列と柱穴列の外側10cmほどの間隔をあけて幅20cm～50cm、深さ3cm～12cmの小規模な溝(12号溝)である。

発掘調査範囲では、北辺(第3章第4節1. 囲い状遺構では北東辺と呼称しているが、ここでは北辺、南は南辺、東は東辺と同様に簡略した。)が北東角から西へ16.50m、東辺62.50m、南辺が南東角から西へ現道を挟んで28.75mを検出している。なお、12号溝からの計測ではあるが北東角は90°と直角に近い角度であるのに対して南東角は97°とやや鈍角である。これは東辺の12号溝は19号掘立柱建物の東側でわずかに屈曲し方向を変えていることによる。なお、溝は南辺と北辺ではほぼ切れ間なく確認されているが、東辺では北半は比較的良好な状態で検出されたが、南半の7号柱穴列P12からP17の間は確認されていないが、これはもともと掘り込まれてい

たとみられる。

柱穴列を構築している柱穴はP16～P32間が小規模な柱穴が連続しているが、全体では確認面で径22cm～63cm、深さ22cm～117cmを測る。深さの平均は65cmと比較的深い。柱穴間の間隔は0.7m～3.55mを測るが、平均では3mほどである。なお、南北角と東西角にあたる箇所から柱穴は確認されていない。土層断面の観察では単一土や2～4による複数の土砂による水平堆積が確認されている。柱痕は確認できないことから抜き取られた可能性が高い。また、底面の状態から柱の断面は円形を呈し、径5cm～10cmほどの丸太材が使用されたと推定される。

区画施設の遺構の西側は平成11年度(多田山東遺跡第Ⅱ地点)と平成12年度(多田山東遺跡第Ⅲ地点)に実施された赤堀町教育委員会の発掘調査では確認されていないことから北辺は直線的に西へ延び、多田山東遺跡第Ⅱ地点調査範囲と多田山東遺跡第Ⅲ地点調査範囲の約10m間に西辺が存在すると想定できる。この想定からは北辺71m～74mほどとみられる。なお、南辺は北辺の長さと同様とみられるが、北西角が南東角と同様な角度であれば北辺と同様に71m～74m、直角であればやや短くなると想定できる。

柱穴列と溝の方位は北辺と南辺がN-54°-W、東辺N-36°-42°-Eを指す。

前述のように溝は柱穴列によって構築される欄と接している箇所と10cmほどの間隔がある箇所が存在している。こうしたことから欄を構築する柱に横木を渡してそこに網代や板など内部を遮蔽するものを取り付け、その下端を溝に埋め込んだ可能性がある。

7号柱穴列や12号溝からの出土遺物は少なく、図示できた遺物は第244図に掲載されている須恵器杯蓋模倣の土師器杯2点(1・2)、土師器杯1点(3)、土師器壺1点(4)、土師器小型甕1点(12溝-1)の5点だけであった。このうち、土師器杯(3)はその形態から8世紀末から9世紀初頭の年代観が与えられ、他の土師器とは大きく年代が離れたもので後の混入とみられる。須恵器杯蓋模倣の土師器杯(1・2)は口縁部がほぼ直立し、口唇端部が内側に傾斜する面を作っており、古い様相を呈している。しかし、2は稜下体部をヘラ削りではなくナデですませており、やや年代が下る様相がみられる。このため、7号柱穴列と12号溝の年代観は本文所見(第1分冊

289頁)にもあるように5世紀後半から6世紀初頭とやや幅広い時期に比定するに留まっている。

### 3. 内部施設の遺構

今回の発掘調査範囲の中では柱穴列と溝に区画された内部には18号掘立柱建物と19号掘立柱建物が存在していたと考えている。両掘立柱建物とも出土遺物がほとんどなく、未掲載遺物を含めても出土遺物からの判断は躊躇せざるを得ないが、建物の方位は南辺を区画する柱穴列や溝、東辺を区画する柱穴列や溝と同様な方位であることから、区画施設と併存していたと判断した。

18号掘立柱建物は南辺の柱穴列や溝とほぼ同方位のN-52°-Wを指す桁行3間、梁行3間の掘立柱建物で、東辺から18.7m、南辺から3.6mの位置で南辺に平行して配置されている。建物についての詳細は第1分冊297~300頁に記載されているように桁行3間、梁行3間の総柱建物で内側に配置された柱の東西に棟持柱を立てる特殊な建物である。こうした建物内部に棟持柱を立てる建物は屋内棟持柱付建物とされ、宮本長二郎氏によると縄文時代晩期末、弥生時代中期末から古墳時代にかけても類例を見ることができるが、一般的に大型の建物<sup>14</sup>が多い。さらに宮本氏は「屋内棟持柱付建物」の分析を行い、棟持柱の位置から屋内中央1カ所に棟持柱を立てるA形式、棟通りの両妻側寄りの2カ所に棟持柱を立てるB形式、屋外近接棟持柱と屋内棟持柱が一体となって棟木を支持するC形式の三通りに区分<sup>15</sup>されている。B形式の棟持柱付建物は大型建物が多く梁行3間、桁行5間を超す建物が目立つとされている<sup>16</sup>。なお、古墳時代の上毛野では棟持柱付建物は三ツ寺1遺跡2号掘立柱建物<sup>17</sup>(C形式)、伊勢崎市原之城遺跡2号掘立柱建物(C形式)、3号掘立柱建物<sup>18</sup>(C形式)が検出されており、18号掘立柱建物のようなB形式に分類される「屋内棟持柱建物」は確認されていない。

なお、18号掘立柱建物は内部の柱穴が側柱の柱穴に比べ小規模なことや棟持柱とみられる柱穴の存在から総柱の高床建物と判断できる。こうした総柱建物については倉庫としての用途が想定される。しかし、18号掘立柱建物の西側が未調査のため断定はできないが、倉庫であれば複数の同様な建物が存在していた可能性が高いことから別な用途も考慮する必要がある。

19号掘立柱建物は東辺中ほど北辺から21.2m、南辺から27.5mの間隔で東辺の柱穴列に接する位置で検出されている。規模は桁行7間、梁行2間の規模をもつ。この建物も総柱建物であるが、棟の通し柱は側の柱とほぼ同規模であり、この通し柱に付随するようにもう一列の柱穴列が検出され、このもう一列の柱穴列は通し柱の柱穴間にも柱穴が検出されている。こうした、柱の存在や建物の状態から渋川市西組遺跡<sup>19</sup>や渋川市黒井峯遺跡<sup>20</sup>で検出されている家畜小屋と同様な建物と想定した。特に囲い状遺構であることを考慮すると馬小屋<sup>21</sup>であった可能性が高い。多田山東遺跡では当時の地表面は後の耕作によって攪拌を受けており、西組遺跡のような馬房の痕跡や糞尿ためなどを検出することはできなかった。しかし、19号掘立柱建物では東側に区画施設を設けているため、西組遺跡で復元された馬小屋のように通路の外側に糞尿ためを設けることは可能である。前節で編集者山中が指摘しているように梁行方向では東側と西側の幅が異なり馬房の前に通路を設けたとみられる。また、糞尿ためについては黒井峯遺跡の家畜小屋と報告されているものを見ると複数の設置方法がみられることから多田山東遺跡でも馬房の後ろにこだわる必要性はないとみられる。

なお、区画施設に接近した桁行の長い掘立柱建物には三ツ寺1遺跡2~4号掘立柱建物<sup>22</sup>、栃木県宇都宮市西下谷田遺跡SB16・SB17掘立柱建物<sup>23</sup>などの報告例をみる事が可能であるが、平面形態での構造が異なることからここでは列挙するにとどめる。

この他、区画施設内部に位置する多田山東遺跡第II地点<sup>24</sup>では出土した土器や方位から多田山東遺跡II-1号掘立柱建物(赤堀町教育委員会が発掘調査を実施した多田山東遺跡第II地点は以下遺構名称の前に「II-」のみを付けて表記する)、II-63号住居(竪穴建物)、II-64号住居(竪穴建物)が囲い状遺構を構成していたと想定できる。

II-1号掘立柱建物は前記のように桁行2間、梁行1間の身舎の4面に廂を設けた四面廂建物と想定できる。この建物は、東辺から身舎中央まで36mの位置に建てられており、推定される区画では東西のほぼ中央に位置している。こうした位置関係と四面廂建物であることから主屋と想定できる。さらに南側廂の柱は東南側柱穴21P

とどの西側柱穴10Pの間は北側廂の柱穴と比較すると柱穴1本が欠落している。II-1号掘立柱建物の廂柱穴は身舎柱穴ほどではないが発掘調査時の土層断面図では70cm~100cmの深さが記録されており、調査時に見落とすことはないと思われる。こうしたことから廂柱穴10Pと21P間にはもともと柱穴が設けられておらず、ここが主たる出入口であった可能性が高くこの建物が南面していたと想定できる。

II-63号住居、II-64号住居はともに竪穴建物である。II-63号住居の竪は西壁、II-64号住居の竪は北壁に構築されているなど相違点はあるが、前記のように出土遺物から同時期に存在していた竪穴建物である。なお、両竪穴建物は出土している土器からは5世紀末から6世紀第I四半期に比定できることから囲い状遺構も同様な時期まで存続時期を絞ることが可能とみられる。また、両竪穴建物の間では面積で3倍近い開きがあり、主従関係や機能的な相違が想定できる。

#### 4. 周辺の豪族居館・首長居館と囲い状遺構

多田山東遺跡周辺では古墳時代前期に大きな勢力を有していた豪族・首長の存在は窺えないが、5世紀中葉になると北西700mほどに帆立貝式古墳で全長70mほどの伊勢崎市赤堀茶臼山古墳<sup>21)</sup>が存在する。赤堀茶臼山古墳からは多くの形象埴輪が出土し、その中には家形埴輪8個体、圓形埴輪1個体が含まれており、家形埴輪の配置から豪族の館を表現しているとして、その後の研究<sup>22)</sup>に大きな影響を与えている。さらに多田山丘陵を挟むが西1.8kmほどには前橋市大室古墳群<sup>23)</sup>が存在する。その中には6世紀初頭から後半代にかけて築造された前方後円墳で全長90mほどの前二子古墳、全長111mの中二子古墳、85mの後二子古墳が存在する。

遺跡地の西側に存在していた多田山丘陵上にも6世紀~7世紀にかけて築造された中小の古墳から形成される伊勢崎市多田山古墳群<sup>24)</sup>、さらにその周辺には第353図に示したように多くの古墳群が存在しており、こうした古墳の存在からもこの地域には5世紀以降に多くの豪族居館や首長居館の存在を窺うことが可能である。

こうした状況の中で周囲・周辺では伊勢崎市毒島城跡で赤堀茶臼山古墳の被葬者の居館が存在していたと橋本博文氏によって想定されている。さらに粕川と荒砥川間

では東から伊勢崎市今井学校遺跡、前橋市梅木遺跡、前橋市荒砥荒子遺跡、前橋市丸山遺跡で5世紀から6世紀前半の豪族居館・首長居館<sup>25)</sup>の一部が検出されている。さらに南へ5kmには南北170m、東西110mの長方形を呈する範囲に幅10m~20m、深さ1m~1.5mの濠を巡らした6世紀後半に比定される豪族居館の原之城遺跡<sup>26)</sup>が存在している。

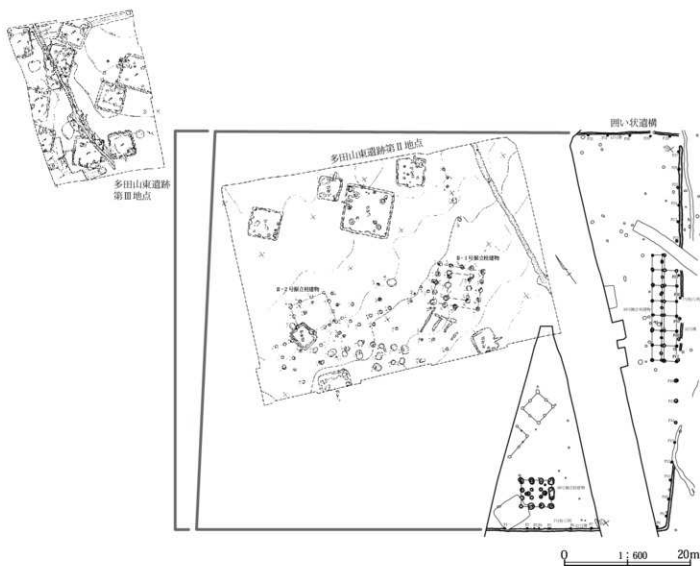
多田山東遺跡の囲い状遺構は70mほどの区画であることからこれと近い様相を呈するものや周辺の伊勢崎市毒島城跡、伊勢崎市今井学校遺跡、前橋市梅木遺跡、前橋市荒砥荒子遺跡、前橋市丸山遺跡の豪族居館・首長居館と比較検討することとした。これらの豪族居館・首長居館の概要は以下のとおりである。

**毒島城跡<sup>27)</sup>** 遺跡は多田山東遺跡の北500mに位置することから概要を記述する。この遺跡は赤城南麓に立地する独立丘に存在する。赤堀茶臼山古墳からの視認が容易であることから橋本博文氏によって赤堀茶臼山古墳の被葬者の居館と推定されている。遺跡は中世に城館が築造されているため本来の地形が改変されている。古墳時代の居館に伴う遺構は検出されていないが、赤堀茶臼山古墳と同様な5世紀代和泉式の土師器が多く出土しており居館の存在が窺えることされている。

**今井学校遺跡<sup>28)</sup>** 遺跡は多田山東遺跡の南750mと毒島城跡と同様に至近距離にある。今井学校遺跡の立地は多田山東遺跡と同様に赤城南麓斜面地形が平野部へ移行する付近で南流する粕川右岸の台地縁辺である。そのため、南辺側は粕川の浸食によって失われた可能性がある。発掘調査は赤堀町教育委員会と新潟大学などで数次にわたって実施され、北東部側の調査が進んでいる。新潟大学の発掘調査によって居館範囲の南西角が検出され、2019年の伊勢崎市教育委員会より北辺西の堀が検出され全体の規模が把握されている。

居館は南北84m、東西90mの範囲を幅5.7m~6.6m、深さ0.8m前後を測り、断面形状が逆台形を呈する堀で囲まれている。堀は全周するとみられるが、北辺の中ほどで土橋状に残された箇所も検出されている。堀から約6.7m内側を柵で区画されているが、全周するかどうかは不明である。内部施設として13棟の竪穴建物が検出され、うち2棟は5世紀末から6世紀初頭、3棟が6世紀前半で居館に伴う存在とみられるが、配置に規則性が窺





第350図 多田山東遺跡囲い状遺構と範囲想定

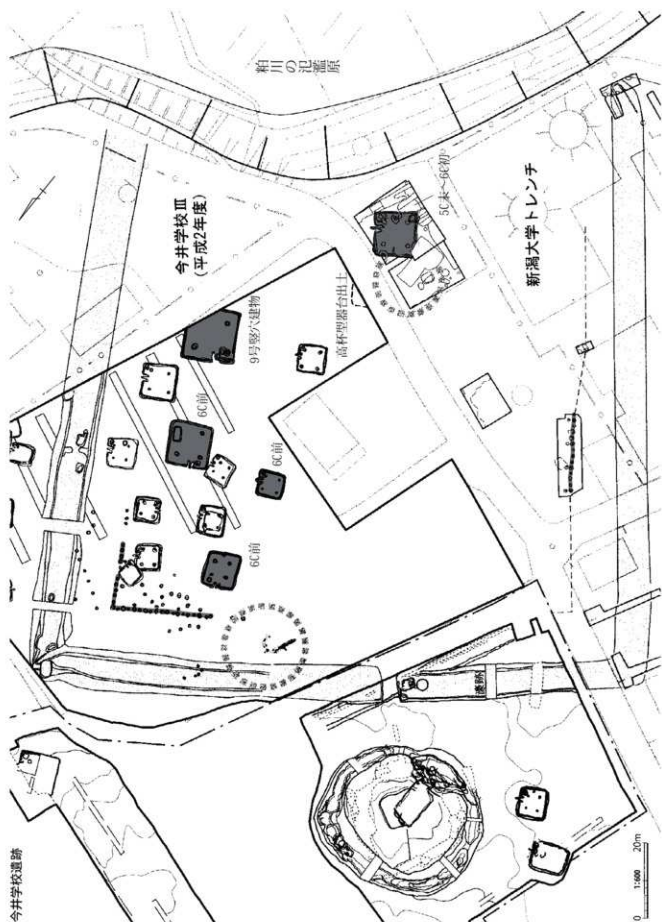
えないことからすべて同時期に存在した可能性は低い。こうしたことから検出されている竪穴建物の間には変遷が想定される。竪穴建物の中では9号竪穴建物が燃焼部から煙道がほぼ直角に曲がるL字状のカマドを構築し、焚口には両袖に門柱状に筒形土製品を立てその上に同様の土製品を架けたものが検出され半島の影響<sup>21,22</sup>が窺える。

居館内では掘立柱建物や祭祀遺構は検出されていないが、平成2年度に調査された20号竪穴建物付近では須恵器大型高杯形器台が複数出土しており、調査が及んでいない箇所には祭祀遺構の存在が窺える。

居館の時期については出土している土器から5世紀末から6世紀前半の年代観が与えられている。

**梅木遺跡<sup>23</sup>** 遺跡は赤城南麓が平野部に移行する付近、多田山丘陵の西側、赤城山山麓を源とする桂川右岸の微高地上に立地する。遺跡地の西側には前二子古墳をはじめとする大室古墳群が存在する。多田山東遺跡とは多田山丘陵を挟んで西北西2kmほどである。

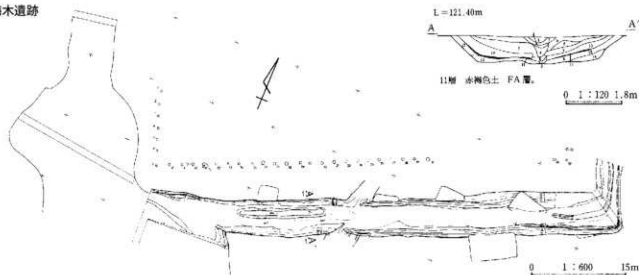
居館は当初の発掘調査で南辺を区画する堀と、その内側で堀が検出されているだけであるが、その後住宅予定地や道路建設などの発掘調査、農地や民家の庭での確認調査を実施しており、その西辺に相当する堀と堀を検出し一部に張り出しが造られていることも確認している。居館の規模は不明であるが、南辺の堀は63mを測り、ほぼ東西方向の規模を表しているとみられる。堀は幅4.0m～6.6m、深さ1.0m～1.2mを測り、断面形状は逆台



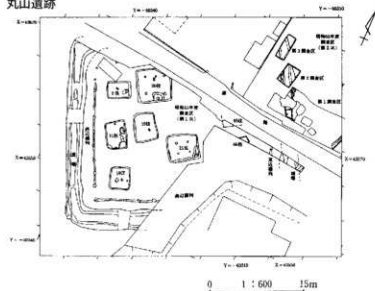
第351図 多田山東遺跡周辺の豪族邸前・首長居館(1)(永井2021の図を編集)

第2節 多田山東遺跡の囲い状遺構について

梅木遺跡



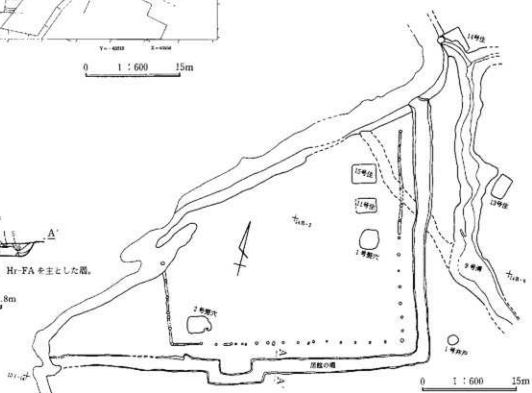
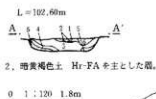
丸山遺跡



梅木遺跡全体想定図



荒砥荒子遺跡



第352図 多田山東遺跡周辺の豪族居館・首長居館(2) (中沢2000の図を編集)

形状を呈している。堀の内側3.0m～6.0mには柵が設けられている。

内部施設は検出されていない。居館の時期は堀の埋没土下位にHr-FAの一次堆積が観察できることや重複する竪穴建物が5世紀前半代のものであることから5世紀後半から6世紀初頭に比定できる。

居館内部では掘立柱建物や祭祀遺構は検出されていない。また、祭祀が行われたと想定できる遺物も内部や堀から出土していない。

なお、前述のように梅木遺跡は大家古墳群と至近距離にあり、大家古墳群の被葬者と関係する地域を掌握する豪族の居館であった可能性が高い。

**荒砥荒子遺跡<sup>125</sup>** 遺跡は赤城山山麓が平野部に移行する付近、多田山丘陵の西側、赤城山山麓を源とする江竜川の左岸微高地上に立地するが、この地は河川による浸食が激しいところである。多田山東遺跡からは西南西へ4kmほどである。

居館は北側を河川による浸食で失っているが、南辺と東辺の堀、その内側に設置された柵、内部施設の竪穴建物など約1/3が検出されている。囲い状遺構・居館全体の様相は不明であるが、南北43m以上、東西59m以上の規模を有しているとみられる。

区画施設としては周囲に堀を巡らしている。南辺を区画する堀では南東角から西へ25m地点に小規模な張り出しが造られている。堀の内側2.0mに柵が設けられているが、南東角から36.5mで北へ走向を変えている。そのため、堀の内部は柵で囲繞された範囲と柵が設けられていない範囲の東と西に二分されている。柵は一部で柱穴間が布張り状であることから金井下新田遺跡で検出された網代垣や塼が設けられていたことが窺える。

柵で囲まれた範囲には竪穴建物2棟が存在していたとみられるが、柵で囲まれていない範囲では遺構は検出されていない。

堀からは多くの土師器が出土しており、100点近い土器が図示されている。図示されている土器の9割以上は5世紀前半代の年代観が与えられることから居館も同時期に比定される。また、出土土器の器種のうちでは高杯31点、埴10点、甕1点、手捏ね土器1点がみられ、高杯には垂下突帯付高杯(三ツ寺型高杯)<sup>126</sup>が2点含まれている。こうした出土遺物の多くは東辺から南辺の張り出

しにかけて多く出土しており居館南東部で祭祀が行われたことが窺える。

**丸山遺跡<sup>127</sup>** 遺跡は赤城山山麓が平野部に移行する付近、多田山丘陵の西側、赤城山山麓を源とする荒砥川の左岸微高地上に立地する。多田山東遺跡からは西北西5.5kmほどである。

居館は西辺側を中心に発掘調査が行われているが、東辺側もトレンチ調査で検出している。その結果、居館の範囲は南北36.7m、東西30.5mであることが判明している。この範囲に幅2.7m前後、深さ0.8m～1.2mを測る堀が巡らされ、その内側1.0m～1.5mに柵が設けられている。

内部施設としては竪穴建物6棟が存在していたとみられる。これらの竪穴建物は火処が穿<sup>128</sup>であり、出土している土器は5世紀前半の年代観が与えられる。

居館の時期は堀の上層にHr-PPやHr-FAを含む土層が堆積しており、6世紀前半代にはほぼ埋没したとみられる。内部の竪穴建物は出土土器から5世紀前半の年代観が与えられることから、居館も同様の5世紀前半代に比定できる。

居館内部では掘立柱建物や祭祀遺構は検出されていない。また、祭祀が行われたと想定できる遺物も内部や堀から出土していない。

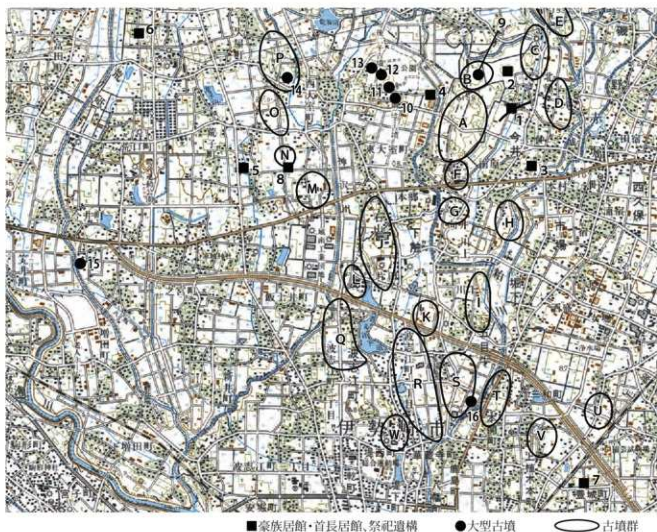
## 5. 豪族居館・首長居館・囲い状遺構の比較・検討

多田山東遺跡周辺での5世紀前半から6世紀前半にかけての豪族居館・首長居館を列挙したが、毒島城跡は居館の遺構が検出されていないため、ここでは今井学校遺跡以下4遺跡を比較・検討の対象とする。梅木遺跡と荒砥荒子遺跡は隣接する河川の浸食により規模や全貌が不明である。多田山東遺跡を含めた5遺跡では今井学校遺跡の南北84m、東西90m、多田山東遺跡の南北62m、東西71m～74m、次いで梅木遺跡の東西65m、荒砥荒子遺跡の南北43m+a、東西59m+a、丸山遺跡の南北25m、東西36mであり、面積比では今井学校遺跡は丸山遺跡の8倍、多田山東遺跡と比べると1.5倍となる。囲い状遺構・居館の占有する面積の違いが階層差や財力などを表現するかは判然としないが、5世紀前半の囲い状遺構・居館に比べ6世紀代では規模が大きくなった傾向が窺える。

区画施設は多田山東遺跡を除く4遺跡とも堀と柵によって圍繞されている。堀の規模は丸子遺跡2.7m、荒砥荒子遺跡1.8m～3m、梅木遺跡4m～6.6m、今井学校遺跡5.7m～6.6mとそれぞれ異なる。さらに柵の位置も今井学校遺跡では堀の内側から6.7m、梅木遺跡3m～6m、荒砥荒子遺跡2.2m～2.4m、丸山遺跡1m～1.5mほど堀と柵の間隔がある。堀と柵の間隔からみると今井学校遺跡と梅木遺跡では堀と柵の間の間隔から土塁を

設けていた可能性が窺える。また、このことは梅木遺跡の堀土層断面で内側からの土砂流入が多いことから裏付けられる。堀と柵の間隔が狭い荒砥荒子遺跡と丸山遺跡では柵の柱穴間に布振り状の浅い溝が確認されており、丸太だけで構築した柵ではなく、丸太に板などを取り付けて外と内とを遮蔽するための柵であった可能性が高い。

内部施設は梅木遺跡では調査範囲での掘立柱建物や堅



1. 多田山東遺跡 2. 毒島城跡 3. 今井学校遺跡 4. 梅木遺跡 5. 荒砥荒子遺跡 6. 丸山遺跡 7. 原之城遺跡  
8. 西大室丸山遺跡(祭祀) 9. 赤堀茶白山古墳 10. 前二子古墳 11. 中二子古墳 12. 後二子古墳 13. 小二子古墳  
14. 伊勢山古墳 15. 今井神社古墳 16. 五目牛二子山古墳

- A. 多田山古墳群 B. 三騎堂古墳群 C. 吉ヶ峯・轟山古墳群 D. 北原古墳群 E. 神社丘古墳群 F. 田向古墳群 G. 向山古墳群 H. 南原古墳群 I. 洞山古墳群 J. 石山片田・庚塚古墳群 K. 八幡林古墳群 L. 牛伏古墳群 M. 天神山古墳群  
N. 丸山古墳群 O. 阿久山古墳群 P. 伊勢山古墳群 Q. 波志江沼西古墳群 R. 蟹沼東古墳群 S. 地藏山古墳群 T. 関山古墳群  
U. 書上古墳群 V. 高山古墳群 W. 台所山古墳群

第353図 周辺の古墳時代中・後期遺跡の分布図(国土地理院地図5万分の1『前編』(平成10年3月1日発行)を使用)

穴建物の検出に至っていないが、今井学校遺跡、荒砥荒子遺跡、丸山遺跡ではそれぞれ竪穴建物を複数伴っている。その中で今井学校遺跡では半島の影響を受けたカマドの構築や付随する土製品が出土している竪穴建物が検出されており朝鮮半島の影響が窺える。荒砥荒子遺跡では堀から多く祭祀に使用されたとみられる高杯を中心とした土師器が出土しており、居館内、中でも柵で囲繞された内部で祭祀が執り行われていたことが想定される。

多田山東遺跡と周辺の居館を比較すると区画された施設があること、梅木遺跡以外では竪穴建物を併存していることなど大雑把な点が共通しているが、区画施設では多田山東遺跡に堀が設けられておらず、直接柵・堀で囲われている点が大きく異なるが、今井学校遺跡や梅木遺跡では比較的広い堀と堀の内側に土塁が想定され防御性の高い設備で囲まれている。これに対して荒砥荒子遺跡と丸山遺跡では柵とみられる柵が設けられていたとすれば多田山東遺跡の内部を遮蔽していた点では共通するが、今井学校遺跡や梅木遺跡より小規模な堀ではあるが堀の存在は大きな相違点である。

しかし、区画施設では多田山東遺跡以外の4遺跡で堀と柵を併設させているのに対して多田山東遺跡では極小規模な溝は検出されているものの基本的に柵に伴うものであり、外観では他の遺跡に比べ劣る可能性がある。しかし、内部施設では四面廂の建物が存在しており他の遺跡より優れた点もみることができ、簡単に優劣は決められない。

なお、多田山東遺跡周辺の古墳分布を概観すると律令期に多田山丘陵を境界として佐位郡と勢多郡を区分した郡域<sup>128</sup>と異なり、東西は粕川から荒砥川の領域が地域首長の領域とみることができ、この領域での首長墓とみられる古墳をその規模から概観すると5世紀前半に墳長125m、長持型石棺が使用されたとみられる前方後円墳の伊勢崎市お富士山古墳<sup>129</sup>、5世紀前半～中頃に赤堀茶白山古墳<sup>130</sup>、墳長71mの前方後円墳である前橋市今井神社古墳<sup>131</sup>、6世紀前半から後半には大室古墳群の前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳、この3古墳は墳長93m、104m、85mの前方後円墳である。そして6世紀後半には原之城遺跡の居館の首長が埋葬されたと想定される墳長100mの前方後円墳である伊勢崎市五日牛

二子山古墳<sup>132</sup>がみられる。

こうした古墳の様相をみると6世紀前半期の地域首長は大室古墳群周辺に存在したと想定され、実際、大室古墳群の東に梅木遺跡が存在している。こうした状態から多田山東遺跡の囲い状遺構の居住者は大室古墳群の首長に従属する立場にあったことが想定される。

なお、多田山東遺跡囲い状遺構の居住者であるが、出土遺物には地位や権威を示すものはみられないが、囲い状遺構の区画施設が方形を呈していることや内部の掘立柱建物に四面廂建物や棟持柱建物がみられる点では農民層との階層差<sup>133</sup>が窺われる。

## 6. まとめ

多田山東遺跡で検出した囲い状遺構は赤堀町教育委員会が発掘調査した分を含め約2分の1の範囲のため全貌解明には至らないが、囲い状遺構内部に馬小屋を設けている点は注目される。古墳時代の馬小屋については西組遺跡や黒井峯遺跡でみつまっている。さらに西組・黒井峯遺跡では一世帯と想定される農民世帯が複数みつかり、その中には馬小屋を併設する世帯が複数ある。このうち馬小屋での馬房数が最も多いのが西組遺跡でみつまっているB-77号竪穴建物などを中心とする世帯である。ここでは大型の竪穴建物とその北西に南北36m、東西40mの範囲を不整形ではあるが垣根で囲み、その内部に複数の平地建物、円形平地建物、高床建物と馬小屋と想定されているB-93号平地建物が存在する。この馬小屋を含めた平地建物や高床建物を圍繞する垣根は完全に遮蔽するものではないようである。

こうした西組遺跡や黒井峯遺跡の馬小屋を伴う世帯と同じ馬小屋を併設する囲い状遺構では囲い状の範囲規模や囲いの構造などとともに主屋となる建物が異なる。

これは、今まで首長層が農民に馬の飼育を行わせていたとみられていたのが、小範囲を統治する首長が囲い状遺構内部に馬小屋を設け、直接飼育していたことが想定できる。こうした馬については騎乗や植輪馬にみられる儀礼用の装飾を施す馬であった可能性が想定できる。しかし、今回の調査範囲や赤堀町教育委員会による発掘調査で馬具の出土は確認されていないことから断定までには至らない。なお、馬具については囲い状遺構の主が亡くなり、古墳に埋葬されるときに副葬されたことは容易

に想像されるが、副葬される馬具は19号掘立柱建物の馬房で飼育されていた馬全ての方ではなく、儀礼用の馬具など一部に限定され、残りの馬具は次世代の主に引き継がれていったと想定される。

多田山東遺跡の囲い状遺構では今まで発見されている囲い状遺構・居館で見られた政・祭、居住の要素以外の馬飼育の可能性が確認された。今まで馬の飼育は西組遺跡や黒井峯遺跡で検出されている家畜小屋の様相から農民による飼育だけでなく、首長の囲い状遺構で直接行っていた可能性が窺えたことは大きな成果である。

また、多田山東遺跡で検出した囲い状遺構が首長層の居住に関わる施設であるとすれば、当然死後の埋葬施設としての古墳が注目される。地域首長が埋葬された古墳については前述したとおりであるが、多田山東遺跡周辺では西の多田山丘陵上に存在する多田山古墳群、北に吉沢峯・轟山古墳群、北東に北原古墳群など多くの古墳群が存在している。そのうち、6世紀前半代に築造され70m四方を有する囲い状遺構の規模の首長が埋葬されるのに相応しい古墳は轟山古墳群や多田山古墳群で確認されている。

轟山古墳群では轟山A古墳<sup>13)</sup>が石室の形態が無袖型横穴石室であることから6世紀前半代に築造されたとみられ、全長36mの前方後円墳で時期や規模から首長層が埋葬された古墳にふさわしいとみられる。なお、轟山A号古墳の発掘調査は実施されているが詳細は不明で、多田山東遺跡の囲い状遺構からも至近距離にあり、前方後円墳である点から後述する多田山古墳群19号墳とともに埋葬地としての可能性は高い。

多田山古墳群は丘陵全体が開発により発掘調査されており22基の古墳が発掘されている。そのうち、6世紀代に比定される古墳は12基<sup>14)</sup>である。そのうち、馬形埴輪や馬具が出土している古墳は多田山2号墳、4号墳、6号墳、9号墳、19号墳の5基を上げることができる。これらの古墳は初期群集墳に位置付けられており、2号墳、4号墳、6号墳、9号墳の埋葬施設は竪穴式石室(石槨)や木棺、粘土床であるのに対して19号墳は無袖横穴式石室である。こうした状態から報告者は前者と後者の間では時間差があることを指摘している。

多田山東遺跡の囲い状遺構の年代を5世紀後半から6世紀初頭に比定していることからみると、多田山古墳群

を埋葬地と仮定するならば19号古墳が最も適していると思定される。

以上、多田山東遺跡の囲い状遺構について検討を行ったが、今まで報告されている囲い状遺構や居館ではみることができなかった施設内での馬の飼育が想定された。このことは律令期に官衙で馬を飼育しているように地域首長のもとで、配下の首長は様々な業務を分担していたことが想定される。

多田山東遺跡の囲い状遺構については全体の発掘調査に至っていないため解明できていない点もあるが、古墳時代中期から後期前半にかけての広域を統治する首長の配下で中小規模地域を統治する首長の在り方を提示するものとする。(神谷佳明)

## 注

注1 赤堀町教育委員会が3次にわたり発掘調査を行っている。その結果、古墳時代～平安時代の竪穴建物73棟、掘立柱建物2棟を検出し調査している。赤堀町教育委員会1982「多田山東遺跡発掘調査報告」、赤堀町教育委員会2000「平成11年度埋蔵文化財発掘調査報告」、赤堀町教育委員会2001「町内遺跡発掘調査報告」

注2 囲い状遺構の名称は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021「金井下新田遺跡 古墳時代以降編」本文編1の235頁に「圍繞する副代垣および内部施設を含めた遺構群で一連の構造物として把握できるものをいう。」と定義されているもので、豪族居館、首長居館とは防御機能が乏しいなど異なる点がある施設である。多田山東遺跡でも副代垣ではないが金井下新田遺跡と同様に防御機能に乏しい垣(柱六列)、小規模な溝で遊蔽された内部に複数の掘立柱建物と竪穴建物が併存することが確認されていることからこの遺構名称を使用している。

注3 赤堀町教育委員会2000「平成11年度埋蔵文化財発掘調査報告」赤堀町文化財調査報告56による。

注4 宮本長二郎1996「第5章第5節 棟持柱」『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版による。

注5 宮本長二郎1996「第5章第5節 棟持柱 屋内棟持柱」『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版による。同書184頁11表に屋内棟持柱建物遺構の一覧が掲載されており、これを引用した。

注6 B形式の棟持柱を持つ大型掘立柱建物には奈良県桜井市阿部丘陵遺跡群S801掘立柱建物や静岡県袋井市古新田遺跡S83-1掘立柱建物、S83-4掘立柱建物などがあげられている。これらは豪族の邸宅や富農農民の居住施設を構成する建物とされている。

注7 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988「三ツツ1遺跡」、2号掘立柱建物は梁行3間、桁行3間の長大な建物で、内部に5本の柱穴を有している。宮本長二郎氏はこの柱穴を棟持柱と指摘している。

注8 伊勢崎市教育委員会1987「原之城遺跡」、2号掘立柱建物は梁行4間、桁行4間の建物で、内部5号住居(竪穴建物)と重複する柱穴が棟持柱とみられる。3号掘立柱建物は梁行2間、桁行2間の身舎に梁行4間、桁行5間の廂を持つ建物で、身舎内部のピットが棟持柱とみられる。

## 第5章 考察

- 注9 石井克己1990『黒井家遺跡の集落構造研究(1)―極小火山の爆発で埋もれた内堀遺跡―』『群馬考古学手帳Vol.1』群馬県立歴史博物館による。
- 注10 石井克己1990『復元された遺構と遺物 2. 昭和60～62年度発掘調査A・I・Ⅱ家畜飼いの家単位群』『黒井家遺跡』子持村教育委員会。
- 注11 深沢敦仁2017『「群れる馬」の姿を追う』『海を渡って来た馬文化―黒井家遺跡と群れる馬―群馬県立歴史博物館などによる。』
- 注12 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『三ツ寺1遺跡』2号掘立柱建物は梁行3間、桁行13間の長大な建物で、Ⅱ期西辺横(報告書では欄間と呼称)から2mほど5号槽に持たせ架けた状態で建てられている。
- 注13 宇都宮教育委員会2007『西下谷田遺跡―古代編1―』。南北157m、東西85m以上を櫓で区画し、その内部を南北に3分割している施設、内部には複数の掘立柱建物や大型型穴建物が見出されている。梁行2間、桁行6期の長大な掘立柱建物S816・17が東辺の櫓から2～3mの位置で存在する。
- 注14 赤堀町教育委員会2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』群馬県佐波郡赤堀町調査報告56、本報告書487～497頁(第5章第1章2、多田山東遺跡第Ⅱ地点の概要)による。
- 注15 後藤守一1933『上野国佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳』皇室博物館による。
- 注16 後藤守一1933『上野国佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳』皇室博物館、小笠原好彦1985『家形墳輪の配置と古墳時代の居館』『考古学研究』第31号4号 考古学研究会などによる。
- 注17 前橋市教育委員会1992『後二子古墳・小二子古墳』、1993『前二子古墳』、前橋市教育委員会2015『古代東国文化シンポジウム 東アジアから見た前二子記録集・資料集』による。
- 注18 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群 今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡―古墳時代編―』、深沢敦仁2004『多田山の唐三彩が語る歴史』『群馬の遺跡4 古墳時代1古墳』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 注19 『豪族居館』という用語は三ツ寺1遺跡の発掘調査によって広まっている。明確な定義はされていないようであるが、橋本博文氏によると「築、欄などの外郭施設に守られ、あるいは区画された方形を基調とした平面形をもった敷地内に、大型の建物や祭祀遺構を配置し、時には内部で手工業生産活動を伴う、有力者の居住の場、兼地域支配の拠点」とされている。しかし、すべての遺構がこの定義に当てはまらなことから『首長居宅』・『首長居館』の用語が使用されているとある。橋本博文2018『古墳時代豪族居館研究総論』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会 注20 豪族居館は南北170m、東西110mの範囲を幅10～20mの濠で囲繞しており、居館の南北辺には三ツ寺1遺跡の居館のような張り出し部が造られている。内部には複数の型穴建物や掘立柱建物が存在し、須恵器大型高形器台や手捏ね土器、石製椀蓋などが出土していることから祭祀が行われたことが想定されている。伊勢崎市教育委員会1987『原之城遺跡』、加部二生2018『原之城遺跡』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 注21 橋本博文1987『古墳時代における首長層の居宅と奥津城』『考古学雑誌』第72巻4号 日本考古学会、加部二生1998『鳥島遺跡』『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・
- 群馬県考古学研究所、橋本博文他2007『鳥島城遺跡発掘調査報告』『新潟大学考古学研究室調査研究所』7 新潟大学人文学部、加部二生2018『鳥島遺跡』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 注22 赤堀町教育委員会1991『平成2年度埋蔵文化財発掘調査概報』、加部二生1998『今井学校遺跡』『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、新潟大学考古学研究室2008『新潟大学考古学研究室調査研究所』8、新潟大学考古学研究室2009『新潟大学考古学研究室調査研究所』9 新潟大学人文学部新潟大学考古学研究室2010『新潟大学考古学研究室調査研究所』10 新潟大学人文学部、加部二生2018『今井学校遺跡』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会山下工業株式会社2021『今井学校遺跡7―古墳時代後期「豪族居館と集落」終末期古墳の調査―』伊勢崎市文化財調査報告書
- 注23 大塚昌彦2017『居館内大型型住居の特質なカマド構造―今井学校遺跡9号住居のL字形カマド構造―』『利根川』39号利根川同人で刊行にて分析、考察を行っている。
- 注24 前橋市文化財調査報告1986『梅木遺跡』、前橋市教育委員会1988『内堀遺跡群』、加部二生1998『梅木遺跡』『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、加部二生2018『梅木遺跡』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 注25 加部二生1998『筑紫荒子遺跡』『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、加部二生2018『筑紫荒子遺跡』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 注26 高杯のなかで杯部の機から口縁部が上に立ち上がる形態の機に断面三角形の小凸部が造られているもの。主に三ツ寺1遺跡をはじめ祭祀遺構で見ることができ。前原豊2020『三ツ寺型高杯について―極小山東南麓に集する重下突部高杯を探る―』『利根川』42、利根川同人会
- 注27 群馬県教育委員会1994『丸山・北原』、群馬県教育委員会1988『丸山・北田下・中畑・村主・中山B遺跡』、加部二生1998『丸山遺跡』『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所、加部二生2018『丸山遺跡』『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 注28 古代、郡郷(評里)制が行われて以降では多田山丘陵は佐波部に属していたと想定されている。これは多田山丘陵に築造されている終末期古墳が輪前部氏の奥津城と想定されることからである。このことは深沢敦仁2004『多田山の唐三彩が語る歴史』『群馬の遺跡4 古墳時代1古墳』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団に詳しい。
- 注29 広瀬川の右岸、伊勢崎地に立地する。周辺にはお富土山古墳群が形成されていたが現在は消滅している。
- 注30 注15と同じ
- 注31 筑紫川の左岸低地に立地する。主体部は型穴で組み合わせた石箱が覆われている。



- 注32 五日午二子山古墳は戦後に造成され消滅しており調査が行われていないが、『上毛古墳総覧』に記録が残る。赤堀村教育委員会1977『赤堀村地域蔵山の古墳1』赤堀村文化財調査報告7、白石太一郎1992『関東の後期大塚型前方後円墳』『国立歴史民俗博物館研究報告』第44集 国立歴史民俗博物館
- 注33 黒井塚遺跡や西組遺跡で見つかった縄文層民の竈穴建物や平地建物を囲む垣根で構成される遺構群を石井克己氏は一世帯ととらえている。ここでは不正形の範囲を垣根で囲んでいる。
- 注34 群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』148頁499に轟山古墳について全長36m、前方後円墳で主体部は袖無横穴式石室との記載。赤堀村教育委員会1986『吉野塚古墳群発掘調査概報』赤堀村文化財報告21にも記載あり。
- 注35 深沢敦仁2004『結び』『多田山古墳群 今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡—古墳時代編—』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によると古墳の築造は4期に区分されている。各期の年代観は明示されていないがI期・II期は6世紀代と判断できる。

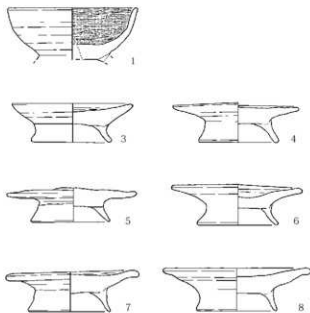
## 参考・引用文献

- 阿部義平1990『宮殿と豪族居館』『古墳時代の研究』2 雄山閣出版
- 石井克己1990『黒井塚遺跡の集落構造研究(1)—権名火山の爆発で埋もれた西組遺跡—』『群馬考古学手帳』Vol.1 群馬県上野新聞会
- 大久久貴2020『首長居館』研究の課題と展望』『考古学集刊』第16号 明治大学文学部考古学研究室
- 大久久貴2021『古墳時代「四面廂建物」の平面設計と伝播』『考古学集刊』第76号 明治大学文学部考古学研究室
- 小笠原好寿・阿部義平他1991『特集古代の豪族居館』『季刊考古学』第36号 雄山閣出版
- 加部二生・橋本博文1996『上野の前方後円墳』『第1回東北・関東前方後円墳会東北・関東における前方後円墳の編年と両側 発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会
- 中沢信2000『荒子・丸山・梅木遺跡の居館について』『荒砥荒子遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 永井智教2018『勢多郡と佐位郡ができる頃の赤城南麓～神沢川と桂川地域の遺跡と古墳の動向を中心に～』『大家古墳の教室 考古学講演会・講座の記録3』前橋市教育委員会
- 永井智教2021『第IV章総括 第1節「豪族居館」を構成する遺構群』『今井学校遺跡7—古墳時代後期「豪族居館と集落」・終末期古墳の調査—』山下工業株式会社
- 橋本博文1985『古墳時代首長居館の構造とその性格』『古代探叢Ⅱ—早稲田大学考古学会創立35周年記念論集—』早稲田大学出版部
- 橋本博文2007『古墳時代の首長居館からみた古代豪族居宅』『古代豪族居宅の構造と機能』独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
- 深沢敦仁2011『豪族居館』『季刊考古学 別冊』第17号 雄山閣出版
- 石島和夫監修、青柳泰介・康早直人・菊池大樹・中野咲・深沢敦仁・丸山真人編集2019『馬の考古学』雄山閣
- 宮本長二郎1996『日本原始古物の住居建築』中央公論美術出版
- 榊沢良一2016『古墳時代の豪族の館』『大家古墳の教室 考古学講演会・講座の記録2』前橋市教育委員会
- 赤堀村教育委員会1982『多田山東遺跡発掘調査概報』赤堀村文化財調査報告7
- 赤堀町教育委員会1991『平成2年度埋蔵文化財発掘調査概報』
- 赤堀町教育委員会1998『町内遺跡発掘調査概報』群馬県佐波郡赤堀町文化財調査報告50
- 赤堀町教育委員会2000『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』赤堀町文化財調査報告56
- 赤堀町教育委員会2001『町内遺跡発掘調査概報』群馬県佐波郡赤堀町調査報告58
- 伊勢崎市教育委員会1985『原之城遺跡—古墳時代の階梯跡—』
- 伊勢崎市教育委員会1988『原之城遺跡』
- かみつけの里博物館1999『よみがえる5世紀の世界 かみつけの里博物館常設展示解説書』
- かみつけの里博物館2011『第208回特別展 馬と共に生きる～馬具から見た古墳時代～』
- 子持村教育委員会1990『黒井塚遺跡』
- 群馬県教育委員会1994『丸山・北原』
- 群馬県教育委員会1988『丸山・北田下・中畑・村主・中山B遺跡』
- 群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』
- 群馬県立歴史博物館2017『海を渡って来た馬文化—黒井塚遺跡と群れる馬—』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『三ツ寺1遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『荒砥荒子遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『多田山古墳群 今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡—古墳時代編—』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『金井下新田遺跡 古墳時代以降編』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『金井下新田遺跡 古墳時代以降編 分析・論考編』
- 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2012『第158回古代官衙・集落研究会報告書 四面廂建物を考える』
- 新潟大学考古学研究室2007『新潟大学考古学研究室調査研究所』7 新潟大学人文学部
- 新潟大学考古学研究室2008『新潟大学考古学研究室調査研究所』8 新潟大学人文学部
- 新潟大学考古学研究室2009『新潟大学考古学研究室調査研究所』9 新潟大学人文学部
- 新潟大学考古学研究室2010『新潟大学考古学研究室調査研究所』10 新潟大学人文学部
- 東北・関東前方後円墳研究会2018『第23回東北・関東前方後円墳研究会大会 シンポジウム古墳と「豪族」発表要旨資料』
- 東日本埋蔵文化財研究会群馬実行委員会・群馬県考古学研究所1998『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』
- 前橋市文化財発掘調査団1986『梅木遺跡』
- 前橋市教育委員会1988『内堀遺跡群』
- 前橋市教育委員会1994『内堀遺跡群VI』
- 山下工業株式会社2021『今井学校遺跡7—古墳時代後期「豪族居館と集落」・終末期古墳の調査—』伊勢崎市文化財調査報告書

### 第3節 多田山東遺跡2号竪穴建物 出土遺物について

#### 1. はじめに

多田山東遺跡は、伊勢崎市北東部に位置する集落遺跡である。発掘調査では竪穴建物、掘立柱建物、柵、溝、土坑など多くの遺構が検出され、なかでも古墳時代中期末の首長居館とみられる囲い状遺構や掘立柱建物等は注目されている。竪穴建物は5世紀から9世紀までの時期に比定できるが、発掘調査区内では継続性は確認できていない。こうした状況の中、10世紀代の竪穴建物が皆無であるが、11世紀前半に突然2号竪穴建物が単独で構築されている。この2号竪穴建物からは、生活一般で使用される須恵器椀や鉢、甕、羽釜などの土器の他に口縁部が小径の須恵器小型有台皿が6点出土している。この土器は第12図3～8に図示したものであるが、その形態から日常の食膳具としては用途を想定することは難しい。特に内面が底面から口縁部まで平坦であることや浅いことから所謂「かわらけ」とは異なり液体を入れての使用は困難であるとみられ、1の黒色土器小型椀を載せる台や供物を載せる器として使用されたと想定することができる。



第354図 多田山東遺跡2号竪穴建物出土小型椀・皿

き、非日常の器が想定できる。

この須恵器有台皿は大きさが口径9.2cm～10.6cm、底径5.2cm～5.7cm、高台径6.0cm～6.2cm、器高2.7cm～3.3cmとほぼ近い値を示す。形態は高台がややハの字に開くように貼付され、皿部の状態からA・Bの二形態に分類できるA形態とするのは皿底部から体部口縁部がわずかに傾きを持って立ち上がる。B形態は底部から口縁部がほぼ水平なものである。A形態とするのは3・6・8、B形態とするのは4・5・7が該当する。

なお、2号竪穴建物からは小型有台皿の上に乗せることが可能とみられる椀は1の黒色土器有台椀が該当する。椀は高台部が欠損しているが、比較的残存率が高い。大きさは口径10.0cm、底径4.0cm、椀の器高は3.2cmである。整形は口ロク整形で内面のみ黒色処理が施され、内面は全面ヘラミガキが施されている。

こうした須恵器小型皿や黒色土器小型椀は一見すると密教法具の六器を窺わせるが、六器は本来なら金属器によって作られ、代替品も青白磁や施釉陶器であった。今回の多田山東遺跡から出土した粗製の須恵器や黒色土器によるものが代替品としてあり得るかを含め検討を行うことにした。

#### 2. 須恵器小型有台皿の類例・集落

10世紀後半、特に第4四半期から11世紀代にかけての食膳具は、それ以前より小型化が進むとともに出土量が減少傾向にある。小型化の要因については明確でないが、減少については木器の供給量増加が想定されるが、木器は集落が営まれる乾燥した場所では腐食が進み残存が難しいため断定には至っていない。また、10世紀後半から11世紀代の竪穴建物は10世紀前半に比べ減少傾向にあり、奈良時代や平安時代初期から継続する遺跡にあってもその割合は低い、さらに10世紀後半以降に新たに営まれている集落遺跡はごくわずかである。

こうした条件の中で、多田山東遺跡2号竪穴建物出土の須恵器有台皿と同様なものは極僅かしか出土例を見ることができない。今日、群馬県内でも発掘調査は各地で実施され、それに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書も約4,000冊が公表されており、すべてを網羅することは難しいため、10世紀後半以降の竪穴建物が数多く検出されている遺跡などを中心に検索した。

その結果、10世紀後半以降に新たに集落が営まれた吉岡町沼南遺跡、渋川市万蔵寺廻り遺跡や8世紀後半から新たに集落が営まれ、9世紀から10世紀にかけて繁栄した吉岡町清里・陣場遺跡、吉岡町十日町遺跡、前橋市荒砥上川久保遺跡では多田山東遺跡2号竪穴建物から出土した須恵器小型有台皿の出土を確認することはできなかった。

須恵器小型有台皿の出土を確認できた集落遺跡は前橋市鳥羽遺跡と前橋市荒砥天之宮遺跡がある。

鳥羽遺跡は前橋市の西部、上野国府城の西に隣接しており、神社や大規模な鍛冶遺構が検出され官衙関連遺跡と想定されている。

須恵器小型有台皿は、K20号竪穴建物(報告では住居跡を使用、本文では住居跡、竪穴住居は竪穴建物と表記する)から1点(報告書図Fig296-2)出土している。大きさは口径8.7cm、底径5.6cm、器高3.0cmと多田山東遺跡より出土したものの小型である。なお、載せたと想定できる小型有台椀は出土していない。

荒砥天之宮遺跡は前橋市の東部、赤城山南麓末端の荒砥川と宮川に挟まれた低台地に立地している。

須恵器小型有台皿は、F区12号竪穴建物、F区39号竪穴建物、D区22号土坑から出土している。

F区12号竪穴建物とF区39号竪穴建物からは各1点、D22号土坑からは2点が出土している。

F区12号竪穴建物の1点(報告書図237図2)の大きさは口径10.1cm、器高2.2cmで、底部から口縁部は僅かに情報に向けて開く。この竪穴建物からは有台皿に載せることが可能な椀(報告書図237図4)が出土している。

F区39号竪穴建物の1点(報告書図267図39住-4)の大きさは口径9.2cm、器高2.3cmで、底部から口縁部までほぼ水平である。

D区22号土坑の2点(報告書図292図7・8)の大きさはNo7が口径10.0cm、器高2.5cm、No8が口径10.1、器高2.4cmである。掲載No7は底部と口縁部の間でわずかに屈曲してやや上方に開く、No8は底部から口縁部にかけてほぼ水平である。

このように集落遺跡からの須恵器小型皿の出土例は単独または2点の出土しか確認できず、多田山東遺跡の例はやや特異な事例と言える。

#### 鳥羽遺跡 K20号竪穴建物



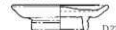
#### 荒砥天之宮遺跡 F区12号竪穴建物



#### F区39号竪穴建物



#### D区22号土坑



第355図 集落遺跡から出土した須恵器小型皿・椀

### 3. 須恵器小型有台皿・椀の類例・寺院

そうしたなか、寺院跡である前橋市宇通遺跡からまとまった出土をみることができる<sup>31)</sup>。

宇通遺跡は赤城山麓の粕川(左岸)と大猿川間の標高670m~700mの尾根上に立地する。遺跡は12棟の礎石建物と多くの竪穴建物(報告では住居跡)が検出されている。竪穴建物は9世紀後半に構築が始まるが、礎石建物は10世紀になってから構築され、12世紀には廃絶したとされている。礎石建物のなかには八角形の建物や東西方向に長い主屋に南北方向の細長い建物が付随する特殊な建物が存在する。遺跡の性格は検出した礎石建物や出土物から山岳寺院と想定されている。須恵器小型皿や須恵器・黒色土器小型椀の出土は礎石建物A、礎石建物1、A-1号竪穴建物、A-2号竪穴建物、F-1号竪穴建物、平成2年度調査東尾根地区第5トレンチ1号竪穴建物からである。

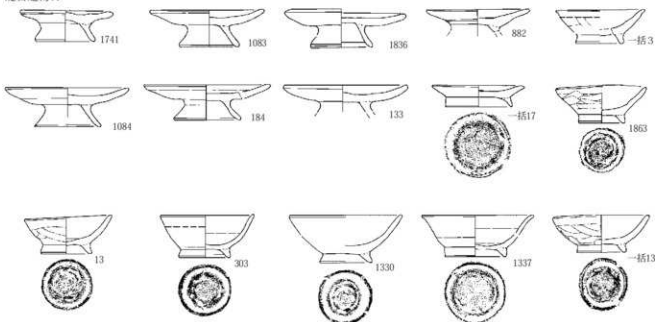
礎石建物Aは3間×3間(桁長9.76m、梁長8.1m)の建物で基壇は簡易な版築が行われている。出土遺物には小金銅女神像・経軸端・塑像片、須恵器杯・椀・羽釜・甕・把手付壺、緑釉陶器椀(黒笹90号室式期)・段皿(黒笹14号室式期か)、灰釉陶器皿・椀・小瓶・長頸壺・花瓶、襷羽口と多くの瓦などがある。このうち、須恵器羽釜や襷羽口は下層で確認されている鍛冶遺構に伴うものと判断されている。

須恵器小型有台皿(報告書では盤と表記)は8点(報告書図43-1741・1083・1836・184・1084・133・882・図49一括17)、須恵器・黒色土器小型有台椀は7点(図43一括3・1863・13・303・1330・1337・図49一括13、アンダーラ

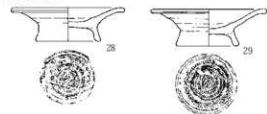
イン付は黒色土器)をみることができる。

礎石建物1は5間×4間(桁行13.8m、梁行11.6m)の建物で、基壇は斜面を造成したものである。建物の周囲では雨落溝が検出され、間層を挟んで浅間B軽石の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器皿、杯、椀、灰釉陶器椀(大原2号窯式期)、輪羽口、釘をはじめとする金属器、瓦片などがある。

このうち、須恵器小型有台皿は3点(報告書図6-28・29・30)、須恵器小型有台椀2点(図6-10・63)をみるこ  
礎石建物A



礎石建物1



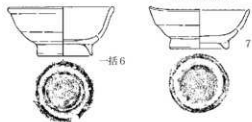
A-1号竪穴建物



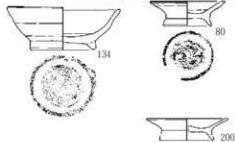
A-2号竪穴建物



F-1号竪穴建物



5トレンチ1号竪穴建物



とができる。

A-1号竪穴建物は礎石建物Aの東に隣接して検出されている。出土遺物には須恵器杯・椀・羽釜、灰釉陶器小瓶、長頸壺、緑釉陶器三足段皿(黒笹14号窯式期)、瓦、釘などがある。出土遺物は9世紀前半から11世紀前半まで幅広い年代のものが見られるが、須恵器羽釜は10世紀前半の年代観が与えられることから竪穴建物の年代もこの時期と想定できる。

須恵器小型有台椀は1点(報告書図36-7)をみるこ

第356図 宇通遺跡出土の小型皿・小型椀図

ができる。

A-2号竪穴建物はA-2号竪穴建物の東で検出されている。出土遺物には須恵器杯・椀・羽釜、土師器甕、瓦などがある。出土遺物はおおむね11世紀前半にまとまりが見られることから、竪穴建物の時期も同様の年代と想定できる。

このうち、須恵器小型有台椀は2点(報告書図41—一括5・一括6)をみることができる。

F-1号竪穴建物は礎石建物Fの身舎に取り付く廊下状の建物が腐絶した後に構築されている。埋没土中位に浅間B軽石の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器杯・椀、土師器甕、瓦などがある。出土遺物のうち、瓦は礎石建物Fに伴うものとみられるが、出土した土器類はおおむね10世紀後半から11世紀前半の年代観が与えられる。

このうち、須恵器小型有台椀は2点(報告書図55-7・134)をみることができる。

東尾根地区第5トレンチ1号竪穴建物は長辺6.5m、短辺4.6mとこの時期としてはやや大型の竪穴建物で、壁溝が南辺を除き巡る。東辺に2基のカマドが検出されているが、掘り込み粘土による構築カマドから石組カマドに変化したとされている。また、埋没土下に浅間B軽石の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器杯・椀・長頸甕・羽釜、土師器杯甕、瓦、金属器などがある。出土した土器類はおおむね10世紀後半から11世紀前半の年代観が与えられる。

このうち、須恵器小型有台皿は2点(報告書図70-80・200)をみることができる。

宇通遺跡から出土した須恵器小型有台皿は11点、須恵器または黒色土器小型有台椀は13点である。これらの大きさは皿が口径9.3～11.3cm、平均10.3cm、椀は口径9.3～11.9cm、底径(高台径)4.8～7.0cm、平均5.3cmを測り、多田山東遺跡2号竪穴建物出土の須恵器小型有台皿・黒色土器小型有台椀と同様の大きさである。なお、皿の形態は口縁部が水平なB形態は礎石建物Aから出土している43図1741だけでその他は口縁部がやや上方に開くA形態である。

#### 4. 密教具六器について

密教具は大きく4種類に区分されている<sup>12</sup>。1と

して煩惱の賊を打ち滅ぼすことを象徴する金剛杵・羯磨・輪宝。2として振り鳴らし、音を発することによって諸尊を覚覚・歡喜させるとともに人間が本来持っている仏性を呼び醒ます金剛鈴など。3として身にこびりついた俗塵を焼き払うことによって、本来の清浄な心身を表し示すことを象徴とする護摩壇・護摩が・護摩杓などの護摩具。4として供養具がある。供養具は金剛杵をもって煩惱を打ち切り、金剛鈴で人間の本来持っている仏性を呼び醒まし、護摩によって清浄な心身を保つための修法に際し、道場を浄めて荘厳し、そこに降臨する諸尊を供養するための多彩な法具。この法具に火舎・六器・花瓶・飲食器・灑水器・塗香器があり、これらの供養具に供物を盛って諸尊を供養する。

六器は高台付鉢に台皿を備えて六個を一具として使用するため「六器」と呼称されている。壇上では火舎香炉の左右両側に3個ずつ配置し、圓筒・塗香・花鬘を盛って仏や菩薩を供養するものとされている。

なお、六器の成立は平安時代後期の経塚の遺物に確認されているのが最も古いとみられ、成立もこれに近い時期と想定されている。

#### 5. 六器の土器・陶器への代替

仏具としての金属器を土器に移す行為は7世紀を前後する頃には行われている。その代表的なものとして食膳具を中心にその形態を土師器杯や須恵器杯、椀、盤などが写したものに变化している<sup>13</sup>。その中で、仏具として金属器を写したものとしては8世紀代の香炉<sup>14</sup>や仏鉢などが知られている。六器はその成立が平安時代後期と想定されているが、施釉陶器の中には平安時代前半には六器を彷彿させる形態や六個体ではないが複数の個体を揃えた状態での出土をみることができる。

施釉陶器の中でも緑釉陶器を密教具の代用として使用されている例としては前川 要氏や高橋昭彦氏、大西遼氏によって指摘<sup>15</sup>されている。さらに灰釉陶器については桐原 健氏によって指摘<sup>16</sup>されている。

こうした施釉陶器による密教具六器の代用の出土例は県内でも山王廃寺から出土した緑釉陶器、町田十二原遺跡、神戸宮山遺跡から出土した灰釉陶器に見ることができる。

## 山王廃寺

山王廃寺<sup>17</sup>は前橋市総社町山王地区に所在する白鳳寺院である。六器の代用とみられる緑釉陶器は山王廃寺の寺域東南部から出土している。この方向は寺域の裏の方向にあたることから祭祀遺構と推定されている。出土状態は遺構の中央に据えた円盤状の台石の周りに小礫を配し、さらにその周囲を方形に小礫を配している。そして台石上に緑釉陶器椀3点を入れ子状に重ね、さらに銅鏡を上から重ねて伏せた状態で置き、その周囲から緑釉陶器水注1点、段皿2点、皿2点と須恵器有台椀(酸化焙焼成、報文中は椀)2点、無台椀(酸化焙焼成、報文中は杯)2点が置かれていた。このうち、緑釉陶器段皿と緑釉陶器小型椀各2点は緑釉陶器による六器の代用品として使用されていたものの一部が祭祀に転用されたことが窺える。

## 神戸宮山遺跡

神戸宮山遺跡<sup>18</sup>は高崎市神戸町字宮山に所在する平安時代10世紀後半から11世紀前半にかけての小規模な集落遺跡である。六器の代用とみられる灰釉陶器は8号竪穴建物から出土している。この竪穴建物からは黒色土器椀、須恵器杯・椀、土師器小型甕、須恵器小型羽釜・羽釜などの日常具とともに灰釉陶器段皿3点、椀4点、小瓶、花瓶各1点が出土している。このうち、やや小型の灰釉陶器椀1点(第357図3)と段皿3点(第357図7~9)は丸石2号窯式期、やや大型の椀3点(第357図4~6)は虎渓山1号窯式期の製品である。小瓶は胴部が細くなる形態から虎渓山1号窯式期~丸石2号窯式期とみられる。花瓶は生産地での出土も少なく、変遷の推移をみることができないが、形態から10世紀以降<sup>19</sup>と判断できる。

こうした灰釉陶器の出土から8号竪穴建物には在野の僧侶が居住したとみられ、仏事に際して灰釉陶器を祭祀具として使用したと想定できる。

六器の代用と使用された灰釉陶器は小型の椀、段皿、花瓶、小瓶が想定できる。

## 町田十二原遺跡

町田十二原遺跡<sup>20</sup>は沼田市町田町字十二原・小沢に所在する集落遺跡である。発掘調査はほ場整備事業に伴って行われたため道路敷が対象範囲のため限定されているが、周辺の戸神諏訪遺跡他の成果<sup>21</sup>から8世紀後

半から11世紀前半にかけて開発された比較的大規模の大きな集落の一角を占めている。

六器の代用とみられる灰釉陶器は16号竪穴建物から出土している。この竪穴建物からは須恵器椀や鉄鏡・鉄製紡錘車とともに灰釉陶器段皿1点、皿2点、輪花段皿1点、椀7点、小瓶1点が出土している。なお、これらの灰釉陶器は形態や椀内面口唇部に凹線が巡ることから虎渓山1号窯式期のもつと判断できる。また、図示されていないが、皿や椀の小片が多数出土しているのも特徴である。

こうした灰釉陶器の出土から16号竪穴建物には戸神諏訪遺跡で検出された「宮田寺」<sup>22</sup>は10世紀前半に廃絶しているが、隣接地には別な堂宇<sup>23</sup>が存在していたとみられ、この寺院に帰属する僧侶が在野に居住したと想定され、日常の仏事に際して灰釉陶器を祭祀具として使用したと想定できる。

六器の代用と使用された灰釉陶器は皿・段皿(第357図9~12)、大型の深椀(第357図2・4・5・7・8)などを除く椀(第357図3・6)、小瓶(第357図1)が想定できる。

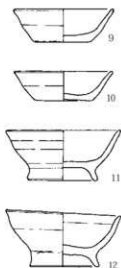
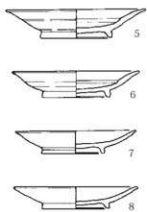
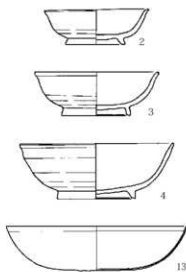
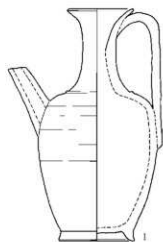
以上、3遺跡から本来金属器が使用されるべき六器に代わって緑釉陶器や灰釉陶器が使用されている例をみることができたが、これら施釉陶器は比較的金属器を写しているのと上級貴族層の関心の薄れたとはいえ以前高級食器として位置付けは変わるものではないことから、仏事に使用する六器として使用されることは納得がいくことである。

そこに多田山東遺跡2号竪穴建物や宇通遺跡から出土した一般的には雑器に近い須恵器有台皿や小型椀が六器として使用されることには疑問が生じる。

こうした、背景として想定できることは灰釉陶器の搬入量が大幅に減少することがあげられる。灰釉陶器の古代上野国への搬入は東遺古窯跡群での生産が始まる9世紀後半の光ヶ丘1号窯式期から急激に増加し、10世紀前半の大原2号窯式期に最も増加がみられ、その後の10世紀後半から11世紀初頭の虎渓山1号窯式期にやや減少、そして11世紀前半の丸石2号窯式期には大幅に減少していることがわかっている<sup>24</sup>。こうした11世紀前半代の灰釉陶器の搬入が大幅に減少は生産地での生産量の激減が大きな要因である。そのため、10世紀後半に施釉陶器が六器の代替品として入手可能であったのが困難にな

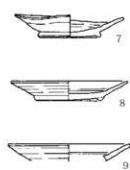
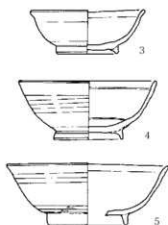
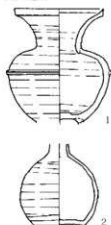
第3節 多田山東遺跡2号竪穴建物出土土物について

山王廃寺



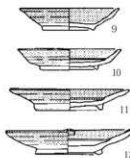
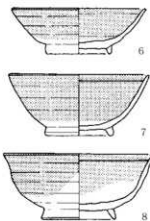
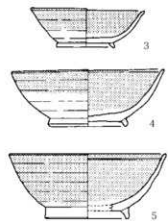
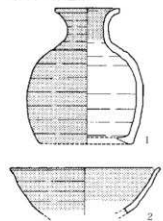
- 1 緑釉陶器 水注  
2~4 緑釉陶器 鉢  
5~8 緑釉陶器 段皿・皿  
9~12 須恵器 鉢  
13 瀬戸

神戸宮山遺跡



- 1 灰釉陶器 花瓶  
2 灰釉陶器 小瓶  
3 灰釉陶器 小鉢  
4~6 灰釉陶器 鉢  
7~9 灰釉陶器 段皿

町田十二原遺跡



- 1 灰釉陶器 小瓶  
2~8 灰釉陶器 鉢  
9~12 灰釉陶器 皿・段皿・  
輪花段皿

第357図 山王廃寺・神戸宮山・町田十二原の施釉陶器の図

り須恵器に代替えを求めたとみられる。その代替えにあっても須恵器工人に対して大きさや形態などの注文がなされ、日常食器として使用に向かない形態のものが生産されたことが窺える。

## 6. おわりに

以上のように多田山東遺跡2号竪穴建物から出土した須恵器有台皿、小型椀について検討を行ってきた。その結果、当初より想定していた密教法具6器の代替え品として使用されたものの一部が残存したことが窺えた。また、県内の出土状況から赤城山麓に展開した古代山岳寺院であった宇通遺跡との繋がりが想定され、宇通遺跡での寺院で修業した僧侶が在野で布教活動の拠点としてこの地に居を構えた可能性が強いとみられる。しかし、今回の多田山東遺跡や南に隣接する柳川遺跡、西に隣接する今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡<sup>注15</sup>では、2号竪穴建物が存在した時期の竪穴建物の存在が確認されており、布教する対象が存在していないことなど解決を必要とする事項もある。

今回の多田山東遺跡の事例は遺構や遺物の検出及び出土例が少なくなる11世紀代の様相を考える上では重要な調査例であり、今後さらなる調査成果が増えることでこの時期の仏事の様相や社会様相が解明されることを期待する。(神谷佳明)

注

注1 宇通遺跡については粕川村教育委員会より1985年～1991年に発掘調査が行われ、1991年に「宇通遺跡—発掘調査報告 資料編—」が刊行されている。多田山東遺跡2号竪穴建物から出土した須恵器小型皿や椀については宇通遺跡の発掘調査担当の小島純一氏より胎土、形態が近いものであるとのご教示を受けた。

注2 奥田宗彦 1989「密教法具」日本の美術No.282 至文堂発行、31～75 p「密教法具の種類」より引用

注3 6世紀末葉からの畿内での土器の変化については西弘海により「新たに出現した土師器杯C類や須恵器台付椀の形態から明らかのように、六世紀末葉、朝鮮三国の仏教文化の一要素としてわが国に到来された。佐波理論を主とする金属製容器の直接的模倣によって成立したものであった。」(西弘海 1986「土器様式の成立とその背景」真興社)とされている。この畿内での土器変化は7世紀中頃には東国の土器にも影響を与え、それ以前の須恵器杯模倣から畿内の金属製容器模倣土器を写した形態に変化をみせている。

注4 神奈川県横浜市長岡地蔵跡から土師器香炉が出土している。出土した遺物は8世紀後半の竪穴建物でそれと共存するものとみられている。また、香炉蓋には「岡本寺」と墨書されており、香炉はこの岡本寺

にかかわるものと想定されている。

注5 前川優 1987「平安時代における東海系緑釉陶器について」『中近世土器の基礎研究』III 日本中近世土器研究会刊行、高橋照彦 1994「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集 国立歴史民俗博物館刊行にて指摘、代表例として静岡県修善寺町修善寺裏山で発見された一括遺物に金剛製捺鉢杯、香炉、花瓶とともに緑釉陶器輪花杯と段皿含まれていた。修善寺裏山については望月肇弘 1981「伊豆修善寺発見の密教法具」『三浦古文化』第26号に報告されている。最近では、大西達 2022「平安のやきもの400年のうつろい—平安のやきもの—その姿、うつろいゆく—」愛知県陶磁美術館刊行でも平安前期に大いに発展した緑釉・灰釉陶器は平安時代中期以降、量産による粗製化や平安京の上級貴族層の関心の薄れから器形や装飾の豊富さを失っていった。・・・中略・・・一方で、祭祀や儀礼などでは不可欠な器として、施釉陶器需要対象や形を変えて継続していった。例えば平安時代前期に空海や最長によってもたらされた密教の祭祀において緑釉陶器が使用されることがあったと指摘されている。

注6 榎原健 1976「土城出土の緑釉陶器の性格」『信濃』第38巻9号 信濃史学会のなかで長野県内の出土例や「永久五年新雨日記」などの史料をもとに指摘している。

注7 山王座寺については1976～1980「山王座寺第2次—第7次調査報告概観」前橋市教育委員会、2007「山王座寺—平成18年度調査報告書—」2009「山王座寺—平成19年度調査報告書—」2010「山王座寺—平成20年度調査報告書—」2012「山王座寺—平成22年度調査報告書—」などの概観、報告書が刊行されている。

注8 神戸宮山遺跡については北陸新幹線建設に伴って発掘調査が行われ、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000「高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸宮山遺跡」として刊行されている。

注9 灰釉陶器花瓶の出土例は少なく、年代観を与えるのは難しいが、奈良県藤原寺西僧房出土の9世紀後半代に比定されている花瓶に比べ、胴部が短くなることから10世紀代の年代観が与えられる。

注10 調査報告は沼田市教育委員会 1993「沼田北部地区遺跡群Ⅱ(奥田十二原遺跡)」として刊行されている。発掘調査の成果では54棟の竪穴建物が検出され、縄文時代や古墳時代の竪穴建物も検出されているが、ほとんどが9世紀から10世紀の竪穴建物である。

注11 閑越自動車道に伴う戸神諏訪遺跡、石黒遺跡の発掘調査以降、隣接地の工業団地造成、周辺の工場整備事業などで広範囲に多くの遺跡が発掘調査されている。

注12 閑越自動車道と工業団地造成に伴う戸神諏訪遺跡で区画調査に開かれた中に堂宇とみられる擬立柱建物と複数の擬立柱建物も検出され、「宮田寺」、「造像」などと墨書された土器や総尾が載った瓦葺期の建物を模倣した鉢車が出土しており、寺院名が判明している数少ない古代寺院である。

注13 戸神諏訪遺跡では「南院」と墨書された須恵器椀も出土しており、別院が存在した可能性も窺える。

注14 竪穴建物が10世紀後半から11世紀前半に最盛期を迎える万載寺廻り遺跡や沼南遺跡では丸石2号窯式期の製品が多く出土しているが、古代上野国全体では虎尻山1号窯式期の製品の3割以下に減少していることが筆者の今までの出土灰釉陶器の分析からわかっている。1998「下東清水土遺跡出土の施釉陶器について」『下東清水土遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、1999「出土施釉陶器について」



### 第3節 多田山東遺跡2号竪穴建物出土遺物について

『下芝五反田遺跡—奈良平安時代以降編—財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』。

注15 柳田遺跡は古墳時代を主体とした集落、現在、整理が進められている。今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡では古代の遺構は7世紀から9世紀にかけての竪穴建物、灰窯、製鉄関連の形骸が・精錬設備遺構、火葬墓が調査され 2005『今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡—歴史時代編—財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団として報告されている。なお、今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡が立地する多田山丘陵の西側には11世紀の集落である荒砥上川久保遺跡が存在している。

#### 引用文献

愛知県埋蔵美術館 2022『平安のやきもの—その姿、うつろいゆく—』  
磯部武男 2006『密教法具「六器」をめぐる問題』『考古学の諸相Ⅱ』坂添秀一先生古希記念会編  
梅沢重明 2012『前橋市能仕町山王出土の緑釉陶器と共伴遺物』『山王院寺—平成22年度調査報告—』前橋市教育委員会  
大西遼 2022『平安のやきもの400年のうつろい』『平安のやきもの—その姿、うつろいゆく—』愛知県埋蔵美術館  
相原健 1976『土壇出土の緑釉陶器の性格』『信濃』第38巻9号 信濃史学会  
考古学から古代を考える会 2000『古代仏教系遺物—関東—考古学の新たな開拓をめざして—』  
古代の上野研究会 1994『東国の緑釉陶器』『古代の上野研究—律令的土器様式の西・東3編—』古代の上野研究会  
阪田宗彦 1989『密教法具』日本の美術No.282 至文堂  
高橋照彦 1994『近江産緑釉陶器をめぐる諸問題』『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集 国立歴史民俗博物館  
斎藤孝正 2000『越前窯青磁と緑釉・灰釉陶器』日本の美術6 No.409 至文堂  
帝京大学山梨文化財研究所・山梨県考古学協会 2003『遺跡の中のカミ・ホトケ 資料集』  
西弘海 1986『土器様式の成立とその背景』真岡社  
前川要 1987『平安時代における東海系緑釉陶器について』『中近世土器の基礎研究』Ⅲ 日本中近世土器研究会  
三浦京子 1993『宮田寺について』『戸神諏訪Ⅲ遺跡』沼田市教育委員会

横浜市歴史博物館 2008『古代のムラの神と・仏』  
神谷佳明 1998『下東西清水上遺跡出土の緑釉陶器について』『下東西清水上遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
神谷佳明 1999『出土緑釉陶器について』『下芝五反田遺跡—奈良平安時代以降編—』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
神谷佳明 2001『緑釉陶器にみる古代上野国』『研究紀要』19号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
神谷佳明 2021『緑釉陶器』『米山遺跡』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
神谷佳明 2022『糸井宮ノ前遺跡出土の灰釉陶器について』『糸井宮ノ前遺跡』昭和村教育委員会  
船川村教育委員会 1991『宇通遺跡』  
神奈川県立埋蔵文化財センター 1989『東耕地遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981『清里—陣場遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982『荒砥上川久保遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988『荒砥天の宮遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988『鳥羽遺跡1・J・K区』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990『戸神諏訪遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999『沼南遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000『高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『今井三木騎堂遺跡・今井見切塚遺跡—歴史時代編—』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011『阿久津遺跡・万蔵寺廻り遺跡・桑原田遺跡・十二廻り遺跡・中町遺跡・半田常法院遺跡』  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013『十日町遺跡・住道跡・千代田南遺跡・千代田北遺跡・舞台遺跡』  
奈良文化財研究所 1987『藤原寺発掘調査報告書』  
沼田市教育委員会 1990『町田小沢遺跡』  
沼田市教育委員会 1992『沼田北部地区遺跡群1：戸神諏訪11遺跡』  
沼田市教育委員会 1993『沼田北部地区遺跡群2：町田十二原遺跡』  
沼田市教育委員会 1995『戸神諏訪3遺跡』  
前橋市教育委員会 2007『山王院寺—平成18年度調査報告書』  
前橋市教育委員会 2009『山王院寺—平成19年度調査報告書』  
前橋市教育委員会 2010『山王院寺—平成20年度調査報告書』  
前橋市教育委員会 2012『山王院寺—平成22年度調査報告書』



2号竪穴建物から出土した須恵器有台皿、小型椀

## 第4節 古墳時代以降の集落の変遷

多山山道遺跡において確認された古墳時代以降の竪穴建物と囲い状遺構について、調査区ごと、時期ごとの分布に着目し、集落の変遷について検討する。なお、縄文時代前期の67号竪穴建物が検出されているが、ここでは記述の対象からはずした。

### 1. 集落の概要

1区で調査した竪穴建物は20棟で、時期は古墳時代から平安時代である。調査区のほぼ全域で確認されたが、古墳時代の建物は7棟で、調査区西側北寄りの範囲に集中している。7棟のうち6棟は全て6世紀代の建物であるが、1棟のみ3世紀末～4世紀初頭と考えられる建物があり、完形に近い弥生土器も出土した。奈良・平安時代の建物は広い範囲に分布しているが、13棟のうち8棟は調査区の中央よりやや北側に集中している。8世紀～9世紀前半の建物がほとんどであるが、11世紀前半の建物を1棟確認した。規模には幅があり、最大は一辺6m余りの正方形、最小は一辺が3m未満の長方形である。

2区で調査した古墳時代から平安時代までの竪穴建物は46棟で、調査区のほぼ全域で確認された。古墳時代の建物の大半は、1区同様に調査区の西側に位置しており、6世紀後半の建物が多い。奈良・平安時代の建物は広範囲に分布しているが、調査区の南側に特に多く、8世紀後半の建物が目立っている。規模や形状は1区同様に、一辺が7m程の正方形の建物から、短軸が3mに満たない小規模な長方形の建物まで様々である。

2区北～3区の北西部にわたる範囲で、コの字状に並ぶ溝と柱穴、その内部の掘立柱建物2棟で構成される囲い状遺構が確認された。5世紀後半～6世紀初頭の遺構と考えられる。

2区北から5区において調査した竪穴建物は3棟である。全て2区北と3区に位置しており、4区・5区では検出されなかった。時期は3区西側の1棟が6世紀後半で、同調査区東側の1棟と2区北の1棟は8世紀代である。規模はいずれも一辺4m前後の小規模な建物である。

本遺跡の竪穴建物は囲い状遺構周辺以南の範囲に分布し、2区南西部に最も多く見られる。大型の建物が存在

するのもその周辺である。

### 2. 集落の変遷

本遺跡の1区～3区で確認した竪穴建物と囲い状遺構の時期について、1期～VI期に分けてまとめたのが第43表、時期ごとの遺構の位置を色分けして示したのが第358～360図である。

本遺跡で確認された1期の建物は、3世紀末～4世紀初頭の10号竪穴建物に限られているが、10号竪穴建物の南方40mでは3世紀末～4世紀初頭の方形周溝墓が確認されている。本遺跡周辺地域に、この時期の集落が存在していた可能性がある。その後、古墳時代後期のII期に入ると、2区北と3区、さらにその西側の調査区外へと続く囲い状遺構が出現し、この時期から徐々に建物の数が増加していき、奈良時代のIV期にかけて最多となる。しかし、平安時代のV期、更にVI期へと時期が進むにつれて、その数は急激に減少していき、12世紀以降の建物は確認されなかった。

この竪穴建物の分布状況について考えてみると、囲い状遺構の構築された5世紀後半～6世紀初頭という時期は、集落の形成において大きな転機であったということが言えそうである。囲い状遺構の構築以降と考えられるII期の建物は、1区の北西部と2区の南西部で5棟が確認されている。5棟の内、2棟(44号・59号竪穴建物)は囲い状遺構とはほぼ同時期の建物で、他の3棟(7号・33号・52号竪穴建物)はその後に建てられた建物である。59号竪穴建物は本遺跡最大の建物と考えられ、その付近に点する他の4棟は中～小規模で、5棟の規模は様々である。その後、III期に入ると一気に建物の数が増加しているが、その多くはII期の5棟付近で、その範囲が建物の密集する地域となっている。数棟の建物は、やや離れた地点に位置しているが、いずれも小規模な建物で、大規模

第43表 時期別竪穴建物集計表

時期	1区	2区	2区北	3区	計	
I	4世紀以前	1			1	
II	5世紀後半～6世紀前半	1	4	※囲い状遺構	5	
III	6世紀後半～7世紀後半	5	17		1	23
IV	7世紀末～8世紀後半	8	20	1	1	30
V	8世紀末～9世紀	4	4			8
VI	10世紀～11世紀	1	1			2
計		20	46	1	2	69

(續)

模な建物はその密集する範囲内にある。

Ⅱ期からⅢ期にかけては、建物の規模の違いだけでなく、竈の作りや出土遺物、作業の痕跡など、特徴のある建物も見られるようになっていく。建物を使用した人物や、その使用の仕方も様々であったと考えられる。また、西側が調査区外にある建物が数多くあり、本遺跡の西側にも集落が続いていたと考えられる。その集落の範囲は不明であるが、150m程西に位置する昭和56年度赤堀村教育委員会調査の多田山遺跡でも同時期と考えられる建物が多数確認されており、その範囲を含めた大集落の存在も想起される。少なくとも、5世紀後半から7世紀後半にかけて、2区の南西部及びその西側にあたるこの地域で集落が成立していたと考えられる。囲い状遺構の出現以降、このように集落が継続していったと考えられる。囲い状遺構の存在はこの地域にとって特別な意味を持ち、その後、様々な立場の人々がこの地に集住したと考えられる。

一方、本遺跡西の多田山丘陵に位置する多田山古墳群には、この時期に多くの古墳が築造されている。これらの古墳の築造との関りは明らかではないが、西方の丘陵に古墳が築造されていく姿を、集落に住む多くの人々が目の当たりにしていたことが想起される。前節において神谷が仮定したように、囲い状遺構の居住者の埋葬地が多田山古墳群内にあるとすれば、集落内の多くの人々が直接その築造に関わっていたとも考えられる。上記のように特徴のある建物が見られるようになっていくことから、この時期に古墳の築造に関わる作業が行われていた可能性もあると考える。

Ⅳ期に入り、遺跡内の建物の数は更に増加するが、その様相は変わっていく。2区南西部に集中していた建物が、1区の北側から2区の中央よりやや北の範囲まで、ほぼ全域に広がっている。また、規模は中～小規模の建物が多く、比較的規模の大きい建物は1区北側の東寄りの地点で確認した3棟のみである。集落の範囲が東方へと広がり、その中心は1区の北側あるいは、その南東方向へと移動した可能性がある。5世紀後半から続いていた2区南西部周辺を中心とした集落の形成に、何らかの変化が起こったことが伺われる。そして、Ⅴ期、Ⅵ期へと時期が進むにつれて、集落がさらに南側に移動していくことで、建物の数が急激に減少していったと考えられ

る。

Ⅴ期以降の急激な建物の減少は、自然災害との関係も考えられる。西暦818年(弘仁9年)に群馬県・埼玉県を中心とした関東地方に大地震が起こっている。この地震によるものと考えられる地割れや噴砂の痕跡が本遺跡周辺の多くの地域で確認されており、本遺跡68号竈穴建物でもこの時期に起こった可能性のある地割れを検出している。この地震と集落の関係については、本遺跡の周辺地域を含む各地において、9世紀前半に急激に竈穴建物の棟数が減少し、9世紀後半には再び増加<sup>[1]</sup>している状況が明らかになっている。本遺跡においては、9世紀後半以降に再び増加する状況は見られないが、この地震がその後の集落の形成に大きく影響したと考えることもできる。

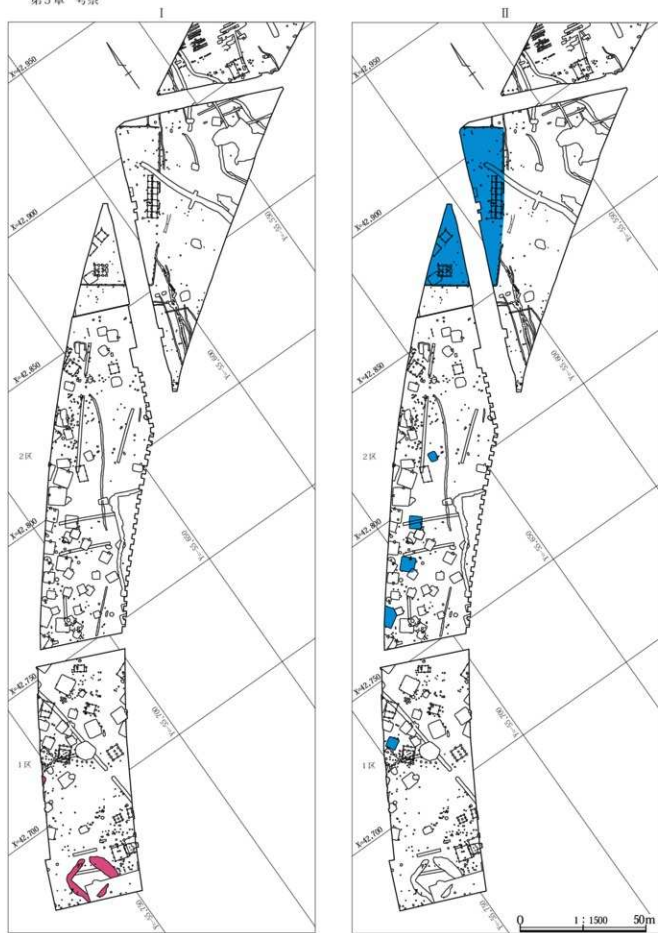
このように本調査は、赤城山南麓、多田山丘陵東側の集落の形成を考える上で貴重な資料となった。今後更に調査成果が増えることで、本遺跡を含む周辺地域の様相がより明らかになることを期待する。(山中 豊)

#### 注

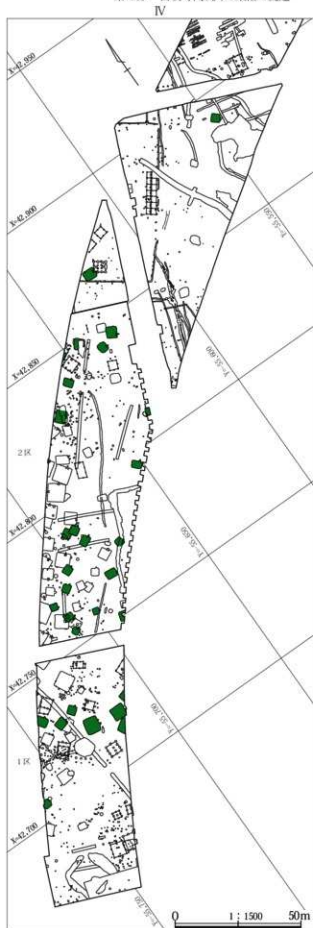
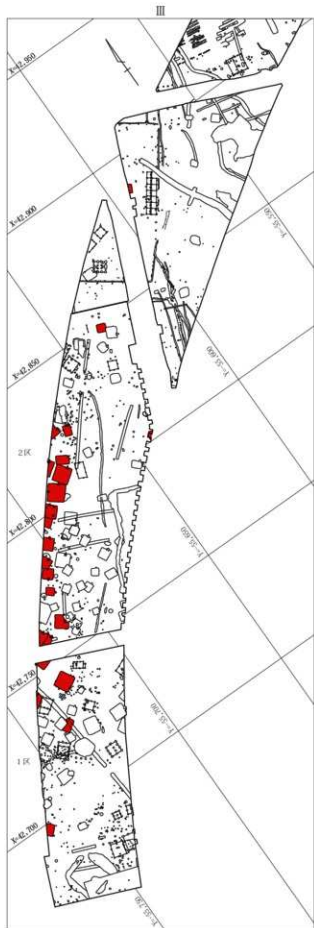
注1 桜岡正信氏が下記文献の中で、筑城地域、国府・国分寺周辺、渋川市周辺、尾島・堺地域を集計したグラフと共に芳賀東部団地遺跡(前橋市)の例を挙げ、「9世紀前半に突如として竈穴住居棟数が減少し、9世紀後半には再び増加しているのである」と論じている。

#### 参考・引用文献

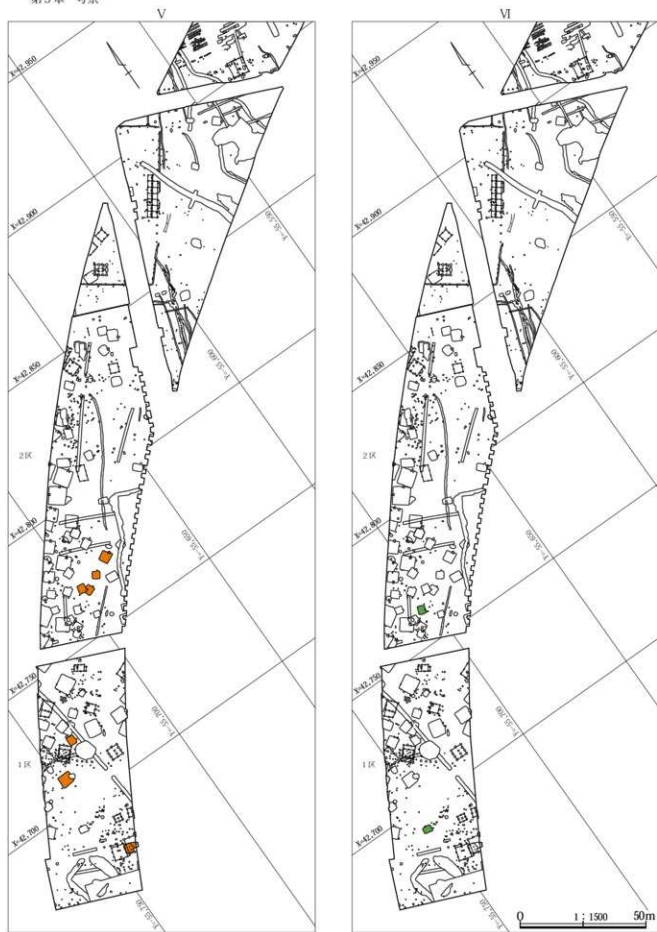
赤堀村教育委員会 1982『多田山遺跡発掘調査概報』  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004『多田山古墳群』  
桜岡正信 2013『弘仁の大地震・赤城山麓の地震災害』  
『自然災害と考古学』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



第358図 時期別竪穴建物・圓い状遺構分布図(1)



第359図 時期別竪穴建物・圓い状遺構分布図(2)



第360図 時期別竪穴建物・圓い状遺構分布図(3)

# 写真図版







1. 1区調査区全景(上が西)



2. 1号竪穴建物全景(南西から)



3. 1号竪穴建物土層断面(北東から)



4. 1号竪穴建物竈(南西から)



5. 1号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)



1. 2号竪穴建物全景(西から)



2. 2号竪穴建物土層断面(東から)



3. 2号竪穴建物遺物出土状況(西から)



4. 2号竪穴建物遺物出土状況(西から)



5. 2号竪穴建物遺物出土状況(西から)



6. 2号竪穴建物竈(西から)



7. 3号竪穴建物全景(西から)



8. 3号竪穴建物竈(西から)



1. 4号竪穴建物全景(西から)



2. 4号竪穴建物土層断面(西から)



3. 4号竪穴建物竈(西から)



4. 5号竪穴建物全景(西から)



5. 5号竪穴建物土層断面(南から)



6. 5号竪穴建物遺物出土状況(南から)



7. 5号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 5号竪穴建物竈(西から)



1. 6号竪穴建物全景(西から)



2. 6号竪穴建物土層断面(南から)



3. 6号竪穴建物貯蔵穴付近土層断面(西から)



4. 6号竪穴建物粘土・遺物出土状況(西から)



5. 7号竪穴建物全景(南西から)



6. 7号竪穴建物土層断面(北西から)



7. 7号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 7号竪穴建物遺物出土状況(南から)



1. 7号竪穴建物竈(南西から)



2. 7号竪穴建物旧竈土層断面(東から)



3. 8号竪穴建物全景(西から)



4. 8号竪穴建物土層断面(西から)



5. 8号竪穴建物竈(西から)



6. 8号竪穴建物貯蔵穴(西から)



7. 8号竪穴建物P1(西から)



8. 9号竪穴建物全景(南西から)



1. 9号竪穴建物掘方全景(南西から)



2. 9号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



3. 9号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



4. 10号竪穴建物全景(北東から)



5. 10号竪穴建物掘方全景(北東から)



6. 10号竪穴建物土層断面(東から)



7. 10号竪穴建物遺物出土状況(北東から)



8. 10号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



1. 11号竪穴建物全景(北西から)



2. 12号竪穴建物全景(北西から)



3. 12号竪穴建物遺物出土状況(西から)



4. 12号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



5. 12号竪穴建物竈(西から)



6. 13号竪穴建物全景(西から)



7. 13号竪穴建物遺物出土状況(西から)



8. 13号竪穴建物竈(西から)



1. 13号竪穴建物旧電土層断面(西から)



2. 14号竪穴建物全景(西から)



3. 14号竪穴建物電(西から)



4. 14号竪穴建物P 2(北西から)



5. 15号竪穴建物全景(西から)



6. 15号竪穴建物掘方全景(西から)



7. 15号竪穴建物電(西から)



8. 15号竪穴建物貯蔵穴(西から)





1. 15号竪穴建物遺物出土状況(西から)



2. 15号竪穴建物P 4(南西から)



3. 16号竪穴建物全景(南西から)



4. 16号竪穴建物土層断面(北西から)



5. 16号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



6. 16号竪穴建物竈(南西から)



7. 16号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)



8. 17号竪穴建物全景(北から)



1. 17号竪穴建物掘方全景(北から)



2. 17号竪穴建物遺物炭化材出土状況(西から)



3. 17号竪穴建物掘出土状況(南から)



4. 18号竪穴建物全景(南西から)



5. 18号竪穴建物土層断面(南西から)



6. 18号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



7. 18号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 18号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(東から)



1. 18号竪穴建物貯蔵穴(西から)



2. 18号竪穴建物P 1(南から)



3. 18号竪穴建物P 4(南から)



4. 19号竪穴建物全景(南西から)



5. 19号竪穴建物竈(南西から)



6. 19号竪穴建物竈掘方(南西から)



7. 19号竪穴建物竈遺物出土状況(南西から)



8. 19号竪穴建物貯蔵穴(西から)



1. 20号竪穴建物全景(西から)



2. 20号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3. 20号竪穴建物遺物出土状況(北から)



4. 1号竪穴状遺構全景(北から)



5. 1号竪穴状遺構土層断面(北西から)



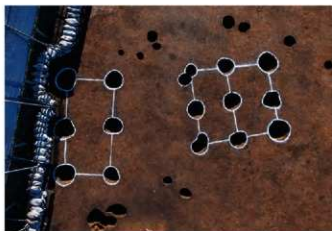
6. 2号竪穴状遺構全景(北東から)



7. 3号竪穴状遺構全景(東から)



8. 4号竪穴状遺構全景(南西から)



1. 1号・2号掘立柱建物全景(上が南)



2. 1号掘立柱建物全景(西から)



3. 1号掘立柱建物P7(西から)



4. 1号掘立柱建物P8(西から)



5. 2号掘立柱建物全景(西から)



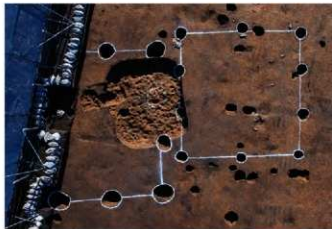
6. 2号掘立柱建物P1(南西から)



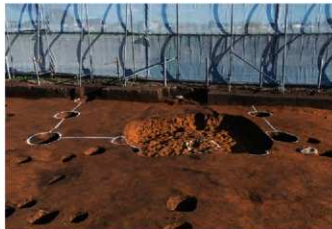
7. 2号掘立柱建物P4(南西から)



8. 2号掘立柱建物P6(西から)



1. 3号・4号掘立柱建物全景(上から南)



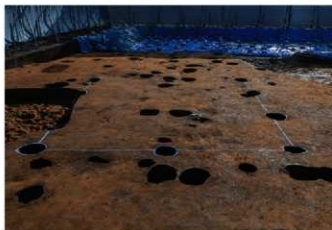
2. 3号掘立柱建物全景(西から)



3. 3号掘立柱建物P1(北西から)



4. 3号掘立柱建物P6(南から)



5. 4号掘立柱建物全景(北から)



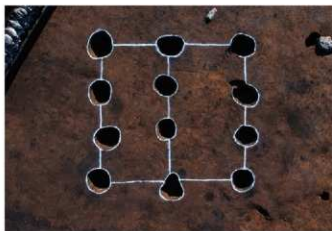
6. 4号掘立柱建物P1(南から)



7. 4号掘立柱建物P5(西から)



8. 4号掘立柱建物P10(南西から)



1. 5号掘立柱建物全景(上が南)



2. 5号掘立柱建物柱痕掘削状況全景(北西から)



3. 5号掘立柱建物P3土層断面(西から)



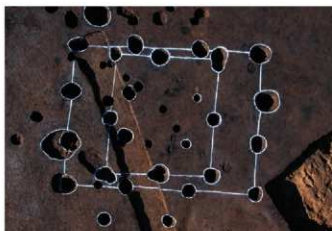
4. 5号掘立柱建物P8土層断面(西から)



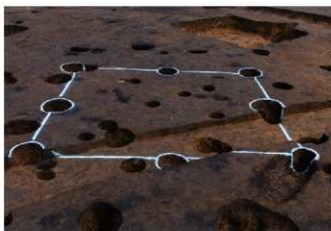
5. 5号掘立柱建物P8掘削状況(西から)



6. 5号掘立柱建物P11土層断面(西から)



7. 6号・7号掘立柱建物全景(上が北西)



8. 6号掘立柱建物全景(南西から)



1. 6号掘立柱建物P1(南西から)



2. 6号掘立柱建物P5(南西から)



3. 7号掘立柱建物全景(南東から)



4. 7号掘立柱建物P1(南から)



5. 7号掘立柱建物P11遺物出土状況(南から)



6. 8号掘立柱建物全景(上が東)



7. 8号掘立柱建物全景(南から)

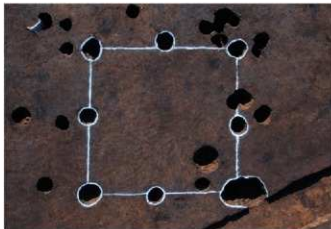


8. 8号掘立柱建物P3(南東から)

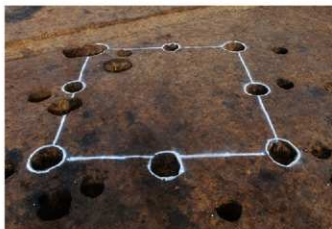




1. 8号掘立柱建物P4(南から)



2. 9号掘立柱建物全景(上が南西)



3. 9号掘立柱建物全景(南西から)



4. 9号掘立柱建物P5(南西から)



5. 10号掘立柱建物全景(上が北西)



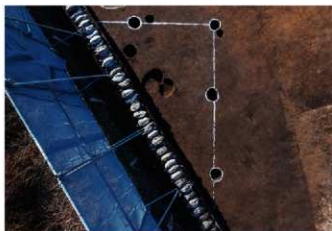
6. 10号掘立柱建物全景(南東から)



7. 10号掘立柱建物P8(南西から)



8. 10号掘立柱建物P9(南西から)



1. 11号掘立柱建物全景(上が南西)



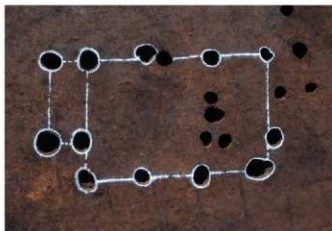
2. 11号掘立柱建物全景(北から)



3. 11号掘立柱建物P 1(南西から)



4. 11号掘立柱建物P 4(南西から)



5. 12号掘立柱建物全景(上が南西)



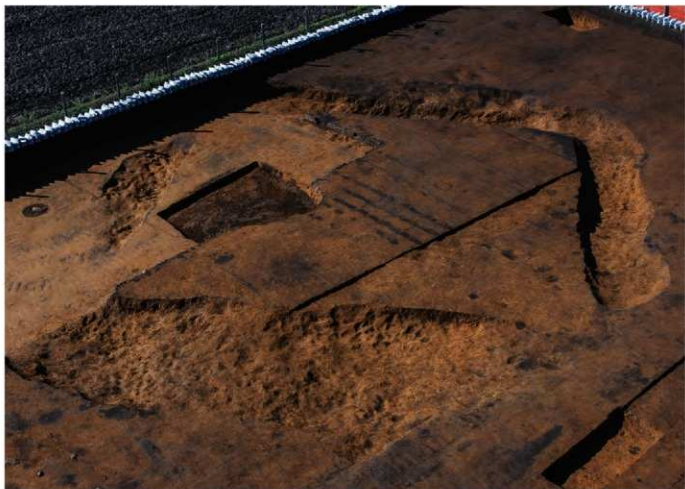
6. 12号掘立柱建物全景(南西から)



7. 12号掘立柱建物P 7(北西から)



8. 12号掘立柱建物P 8(北東から)



1. 1号方形周溝墓全景(北東から)



2. 1号方形周溝墓全景(上が西)



3. 1号方形周溝墓土層断面A-A'(南から)



4. 1号方形周溝墓土層断面B-B'(西から)



5. 1号方形周溝墓土層断面C-C'(南から)



1. 1号方形周溝墓土層断面D-D' (西から)



2. 1号方形周溝墓遺物出土状況(南から)



3. 1号方形周溝墓遺物出土状況(南西から)



4. 1号方形周溝墓遺物出土状況(北西から)



5. 1号方形周溝墓遺物出土状況(南から)



6. 1号方形周溝墓遺物出土状況(西から)



7. 1号方形周溝墓遺物出土状況(西から)



8. 1号方形周溝墓作業風景(南から)



1. 1号溝全景(上が北)



2. 1号溝全景(北から)



3. 1号溝土層断面A-A'(南から)



4. 1号溝土層断面B-B'(南から)



5. 1号溝土層断面C-C'(南から)



6. 1号溝土層断面D-D'(南から)



1. 1号土坑全景(南東から)



2. 2号土坑全景(南から)



3. 3号土坑全景(南から)



4. 6号土坑土層断面(東から)



5. 7号土坑全景(南から)



6. 8号土坑全景(南西から)



7. 9号土坑全景(北から)



8. 9号土坑土層断面(南から)



9. 10号土坑全景(北から)



10. 11号土坑土層断面(南東から)



11. 12号土坑全景(南から)



12. 13号土坑・7号掘立柱P 5全景(南東から)



13. 14号土坑土層断面(南東から)



14. 15号土坑全景(南西から)



15. 16号土坑・9号掘立柱P 7全景(南西から)



1. 17号土坑全景(西から)



2. 17号土坑土層断面(西から)



3. 18号土坑全景(西から)



4. 19号土坑全景(北西から)



5. 20号土坑遺物出土状況(南東から)



6. 20号土坑全景(南東から)



7. 21号土坑・347号ピット全景(南から)



8. 22号土坑全景(北西から)



9. 22号土坑土層断面(南から)



10. 97号ピット全景(南から)



11. 278号ピット遺物出土状況(南から)



12. 256号ピット全景(南から)



13. 293号ピット全景(南から)



14. 299号ピット全景(南から)



1. 2区調査区北東側全景(上方西)



2. 2区調査区南西側全景(上方北西)





1. 21号竪穴建物全景(北西から)



2. 21号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



3. 21号竪穴建物竈(北西から)



4. 21号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)



5. 21号竪穴建物旧竈土層断面(北西から)



6. 22号竪穴建物全景(北西から)



7. 22号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



8. 22号竪穴建物竈(北西から)



1. 22号竪穴建物土層断面(北西から)



2. 22号竪穴建物竈・貯蔵穴遺物出土状況(北西から)



3. 23号竪穴建物全景(西から)



4. 23号竪穴建物土層断面(北から)



5. 23号竪穴建物遺物・礫出土状況(西から)



6. 23号竪穴建物竈(西から)



7. 24号竪穴建物全景(南西から)



8. 24号竪穴建物土層断面(南西から)



1. 24号竪穴建物遺物出土状況(西から)



2. 24号竪穴建物竈(南西から)



3. 25号竪穴建物全景(北西から)



4. 26号竪穴建物全景(南東から)



5. 27号竪穴建物全景(南から)



6. 27号竪穴建物土層断面(東から)



7. 27号竪穴建物遺物出土状況(南から)



8. 27号竪穴建物竈土層断面(東から)



1. 28号竪穴建物全景(西から)



2. 28号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



3. 28号竪穴建物竈(西から)



4. 29号竪穴建物全景(南西から)



5. 29号竪穴建物土層断面(西から)



6. 29号竪穴建物竈(南西から)



7. 29号竪穴建物P3(南西から)



8. 29号竪穴建物P4(南西から)



1. 30号竪穴建物全景(北西から)



2. 30号竪穴建物西(西から)



3. 31号竪穴建物全景(南から)



4. 31号竪穴建物土層断面(南東から)



5. 31号竪穴建物土層断面(南から)



6. 31号竪穴建物貯蔵穴(南西から)



7. 32号竪穴建物全景(南西から)



8. 32号竪穴建物土層断面(南東から)



1. 33号竪穴建物全景(西から)



2. 33号竪穴建物遺物・礎出土状況(西から)



3. 33号竪穴建物遺土層断面(南から)



4. 34号竪穴建物全景(北西から)



5. 34号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



6. 35号竪穴建物全景(南西から)



7. 35号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



8. 35号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



1. 36号竪穴建物全景(北西から)



2. 37号竪穴建物全景(西から)



3. 37号竪穴建物竪土層断面(南から)



4. 38号竪穴建物全景(西から)



5. 38号竪穴建物竪土層断面(南から)



6. 39号竪穴建物全景(西から)



7. 40号竪穴建物全景(南西から)



8. 40号竪穴建物土層断面(南西から)



1. 41号竪穴建物全景(南東から)



2. 41号竪穴建物掘方全景(南東から)



3. 41号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



4. 41号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



5. 41号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



6. 41号竪穴建物1号竈土層断面(南から)



7. 41号竪穴建物2号竈全景(南東から)



8. 41号竪穴建物貯蔵穴(南西から)





1. 41号竪穴建物 P 1 (南西から)



2. 41号竪穴建物 P 2 (南東から)



3. 41号竪穴建物 P 3 (南東から)



4. 41号竪穴建物 P 4 (南東から)



5. 42号竪穴建物全景 (南西から)



6. 42号竪穴建物土層断面 (南から)



7. 42号竪穴建物電道遺物出土状況 (南西から)



8. 42号竪穴建物 P 2 遺物出土状況 (南西から)



1. 43号竪穴建物全景(南西から)



2. 43号竪穴建物土層断面(南東から)



3. 44号竪穴建物全景(北西から)



4. 44号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



5. 44号竪穴建物竈(北西から)



6. 44号竪穴建物1号貯蔵穴土層断面(北西から)



7. 44号竪穴建物2号貯蔵穴土層断面(北西から)



8. 45号竪穴建物全景(南西から)



1. 45号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



2. 45号竪穴建物竈(南西から)



3. 46号竪穴建物全景(南西から)



4. 46号竪穴建物竈土層断面(南東から)



5. 47号竪穴建物全景(南西から)



6. 47号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



7. 47号竪穴建物竈口前土層断面(南から)



8. 47号竪穴建物貯蔵穴(南西から)



1. 48号竪穴建物全景(南西から)



2. 48号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



3. 48号竪穴建物竈(南西から)



4. 48号竪穴建物竈石組み状況(南西から)



5. 49号竪穴建物全景(北東から)



6. 49号竪穴建物掘方全景(北東から)



7. 49号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 49号竪穴建物竈(北東から)



1. 50号竪穴建物全景(南西から)



2. 50号竪穴建物掘方全景(南西から)



3. 50号竪穴建物竈(南西から)



4. 50号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況(南西から)



5. 51号竪穴建物全景(西から)



6. 51号竪穴建物掘方全景(西から)



7. 51号竪穴建物遺物出土状況(西から)



8. 51号竪穴建物竈(西から)



1. 52号竪穴建物全景(南西から)



2. 52号竪穴建物掘方全景(南西から)



3. 52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



4. 52号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



5. 52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



6. 52号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



7. 52号竪穴建物竈(南西から)



8. 52号竪穴建物竈袖石周辺確認状況(南西から)



1. 52号竪穴建物電遺物出土状況(南西から)



2. 52号竪穴建物電遺物出土状況(南西から)



3. 52号竪穴建物貯蔵穴(南西から)



4. 52号竪穴建物P 1(南西から)



5. 53号竪穴建物全景(南西から)



6. 53号竪穴建物土層断面(南西から)



7. 53号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 53号竪穴建物電(南西から)



1. 54号竪穴建物全景(北西から)



2. 54号竪穴建物土層断面(南東から)



3. 54号竪穴建物掘方全景(北西から)



4. 54号竪穴建物竈(北西から)



5. 55号竪穴建物全景(南西から)



6. 55号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



7. 55号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 55号竪穴建物竈(南西から)





1. 56号竪穴建物全景(西から)



2. 56号竪穴建物掘方全景(西から)



3. 56号竪穴建物遺物出土状況(北から)



4. 56号竪穴建物竈(西から)



5. 57号竪穴建物全景(南西から)



6. 57号竪穴建物掘方全景(南西から)



7. 57号竪穴建物竈(南西から)



8. 58号竪穴建物全景(北西から)



1. 58号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



2. 58号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



3. 58号竪穴建物竈(北西から)



4. 58号竪穴建物竈遺物出土状況(北西から)



5. 59号竪穴建物全景(南西から)



6. 59号竪穴建物遺物出土状況(東から)



7. 59号竪穴建物遺物出土状況(東から)



8. 59号竪穴建物1号竈(北東から)



1. 59号竪穴建物2号竪(南西から)



2. 59号竪穴建物1号貯蔵穴(北から)



3. 59号竪穴建物2号貯蔵穴(南西から)



4. 59号竪穴建物P 1(西から)



5. 60号竪穴建物全景(南西から)



6. 60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



7. 60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



1. 60号竪穴建物遺物出土状況(南から)



2. 60号竪穴建物竈(南西から)



3. 60号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



4. 60号竪穴建物貯蔵穴(南西から)



5. 61号竪穴建物全景(南西から)



6. 61号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



7. 61号竪穴建物遺物出土状況(南から)



8. 61号竪穴建物竈(南西から)



1. 62号竪穴建物全景(西から)



2. 62号竪穴建物土層断面(東から)



3. 62号竪穴建物遺物出土状況(北から)



4. 62号竪穴建物竈(西から)



5. 63号竪穴建物全景(南西から)



6. 63号竪穴建物掘方全景(南西から)



7. 63号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



8. 63号竪穴建物遺物・炭化材出土状況(南西から)



1. 63号竪穴建物竈(南西から)



2. 63号竪穴建物P1(北西から)



3. 64号竪穴建物全景(北西から)



4. 64号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



5. 65号竪穴建物全景(西から)



6. 65号竪穴建物土層断面(南から)



7. 65号竪穴建物遺物出土状況(西から)



8. 65号竪穴建物竈(西から)



1. 66号竪穴建物全景(南西から)



2. 66号竪穴建物遺物出土状況(南西から)



3. 66号竪穴建物遺物・礫出土状況(南西から)



4. 66号竪穴建物竈(南西から)



5. 66号竪穴建物土層断面(東から)



6. 67号竪穴建物全景(南から)



7. 67号竪穴建物土層断面(南から)



8. 67号竪穴建物P 2 (南から)



1. 67号竪穴建物が土層断面(南から)



2. 67号竪穴建物遺物出土状況(南から)



3. 67号竪穴建物遺物出土状況(東から)



4. 67号竪穴建物遺物出土状況(南から)



5. 67号竪穴建物遺物出土状況(南から)



6. 5号竪穴状遺構全景(北西から)

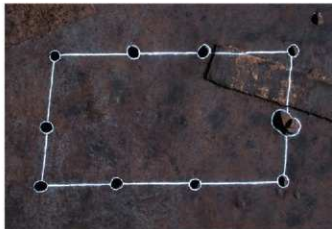


7. 5号竪穴状遺構遺物出土状況(北西から)

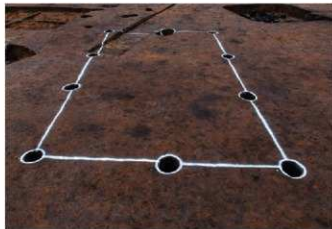


8. 5号竪穴状遺構遺物出土状況(北西から)





1. 13号掘立柱建物全景(上が西)



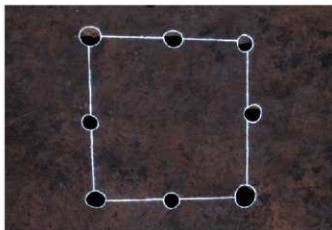
2. 13号掘立柱建物全景(南から)



3. 13号掘立柱建物P 3(南から)



4. 13号掘立柱建物P 6(南から)



5. 14号掘立柱建物全景(上が北)



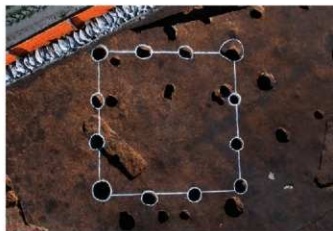
6. 14号掘立柱建物全景(北から)



7. 14号掘立柱建物P 1(南西から)



8. 14号掘立柱建物P 4(南西から)



1. 15号掘立柱建物全景(上が北)



2. 15号掘立柱建物全景(南から)



3. 15号掘立柱建物P 2(南西から)



4. 15号掘立柱建物P 8(南から)



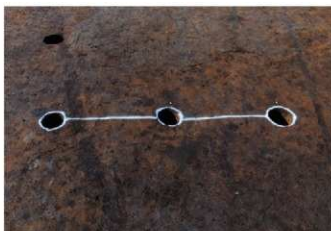
5. 5号柱穴列全景(南東から)



6. 5号柱穴列P 2(南東から)



7. 5号柱穴列P 3(南東から)



8. 6号柱穴列全景(東から)



1. 2号溝北側(北から)



2. 2号溝南側(南から)



3. 2号溝土層断面(北東から)



4. 2号溝遺物出土状況(北西から)



5. 2号溝遺物出土状況(北西から)



6. 2号溝遺物出土状況(西から)



1. 3号溝全景(北西から)



2. 3号溝土層断面(南東から)



3. 4号溝全景(北東から)



4. 4号溝土層断面(南西から)



5. 5号溝全景(上が北)



6. 5号溝土層断面(南西から)



7. 6号溝全景(北西から)



8. 6号溝土層断面(南西から)



1. 23号土坑全景(南東から)



2. 24号土坑全景(南東から)



3. 25号土坑土層断面(南東から)



4. 26号土坑全景(東から)



5. 27号土坑土層断面(南東から)



6. 28号土坑遺物出土状況(南東から)



7. 29号土坑全景(西から)



8. 30号土坑全景(西から)



9. 31号土坑遺物出土状況(南西から)



10. 32号土坑全景(東から)



11. 33号土坑全景(南西から)



12. 34号土坑遺物出土状況(東から)



13. 35号土坑全景(西から)



14. 36号土坑全景(北から)



15. 36号土坑遺物出土状況(東から)



1. 37号土坑全景(西から)



2. 38号土坑全景(南から)



3. 38号土坑遺物出土状況(南西から)



4. 39号土坑全景(南西から)



5. 40号土坑全景(東から)



6. 41号土坑全景(南東から)



7. 42号土坑全景(南東から)



8. 43号土坑全景(南から)



9. 44号土坑全景(西から)



10. 45号土坑全景(東から)



11. 46号土坑全景(南から)



12. 47号土坑全景(西から)



13. 48号土坑全景(北西から)



14. 49号土坑全景(北から)



15. 50号土坑全景(北東から)



1. 51号土坑全景(南西から)



2. 52号土坑全景(南西から)



3. 105号土坑全景(南西から)



4. 389号・390号ピット全景(東から)



5. 391号ピット全景(南から)



6. 458号ピット全景(南から)



7. 464号ピット全景(南から)



8. 471号ピット全景(南東から)



9. 526号ピット全景(南から)



10. 556号ピット全景(南から)



11. 558号ピット遺物出土状況(南から)



12. 1号遺物集中全景(南から)



1. 2区北・3区調査区全景(上が東)



2. 4区調査区全景(上が北)





1. 5区調査区全景(上が東)



2. 2区北・3区囲い状態構全景(上が北)



1. 2区北・3区7号柱穴列・12号溝全景(上が南東)



2. 7号柱穴列P1全景(東から)



3. 7号柱穴列P1土層断面(東から)



4. 7号柱穴列P2全景(南西から)



5. 7号柱穴列P2遺物出土状況(南西から)



6. 7号柱穴列P3全景(南西から)



7. 7号柱穴列P4全景(南西から)



8. 7号柱穴列P5全景(西から)



9. 7号柱穴列P6全景(南から)



10. 7号柱穴列P7全景(南から)



1. 7号柱穴列P8全景(南西から)



2. 7号柱穴列P9全景(南西から)



3. 7号柱穴列P10全景(南西から)



4. 7号柱穴列P11全景(南西から)



5. 7号柱穴列P12全景(南西から)



6. 7号柱穴列P13全景(南西から)



7. 7号柱穴列P14全景(南西から)



8. 7号柱穴列P15全景(南西から)



9. 7号柱穴列P16土層断面(東から)



10. 7号柱穴列P16遺物出土状況(東から)



11. 7号柱穴列P16遺物出土状況(東から)



12. 7号柱穴列P17全景(南西から)



13. 7号柱穴列P18全景(南東から)



14. 7号柱穴列P19全景(南東から)



15. 7号柱穴列P20全景(南西から)



1. 7号柱穴列P21全景(南から)



2. 7号柱穴列P22全景(南から)



3. 7号柱穴列P23全景(南西から)



4. 7号柱穴列P24全景(南西から)



5. 7号柱穴列P24断割り(南西から)



6. 7号柱穴列P25全景(南西から)



7. 7号柱穴列P25断割り(南西から)



8. 7号柱穴列P26全景(南西から)



9. 7号柱穴列P27全景(南西から)



10. 7号柱穴列P28全景(南西から)



11. 7号柱穴列P29全景(南から)



12. 7号柱穴列P30全景(南西から)



13. 7号柱穴列P30土層断面(南西から)



14. 7号柱穴列P31全景(南西から)



15. 7号柱穴列P32全景(南西から)



1. 2区北12号溝・7号柱穴列全景(北西から)



2. 12号溝土層断面1-1' (南東から)



3. 12号溝土層断面m-m' (南東から)



4. 12号溝土層断面n-n' (南東から)



5. 3区12号溝土層断面o-o' (南東から)



6. 12号溝土層断面p-p' (南西から)



7. 12号溝土層断面q-q' (南西から)



8. 12号溝土層断面v-v' (南から)



1. 18号掘立柱建物全景(上が北東)



2. 18号掘立柱建物全景(南西から)



3. 18号掘立柱建物P 1(北東から)



4. 18号掘立柱建物P 1柱跡断面(南西から)



5. 18号掘立柱建物P 2・P 3(南東から)



6. 18号掘立柱建物P 4(南西から)



7. 18号掘立柱建物P 4土層断面(南西から)



8. 18号掘立柱建物P 5(南西から)



9. 18号掘立柱建物P 6(南西から)



10. 18号掘立柱建物P 6柱跡断面(南西から)



11. 18号掘立柱建物P 7(南から)



12. 18号掘立柱建物P 8(南から)



1. 18号掘立柱建物P 8土層断面(西から)



2. 18号掘立柱建物P 9(南から)



3. 18号掘立柱建物P10(西から)



4. 18号掘立柱建物P11(南西から)



5. 18号掘立柱建物P 12(北東から)



6. 18号掘立柱建物P 12土層断面(北西から)



7. 18号掘立柱建物P13(南西から)



8. 18号掘立柱建物P 13(南東から)



9. 18号掘立柱建物P14(南西から)



10. 18号掘立柱建物P15(南西から)



11. 18号掘立柱建物P 16(南西から)



12. 18号掘立柱建物P 16土層断面(南東から)



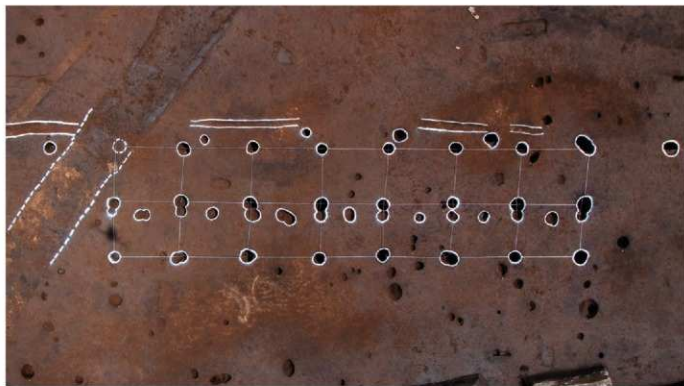
13. 18号掘立柱建物P17(南東から)



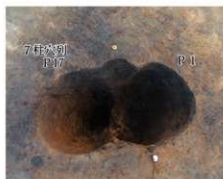
14. 18号掘立柱建物P 18(南西から)



15. 18号掘立柱建物P18柱礎部破片状況(南東から)



1. 19号掘立柱建物全景(上が南東)



2. 19号掘立柱建物P1・7号柱列P17(北から)



3. 19号掘立柱建物P1土層断面(東から)



4. 19号掘立柱建物P2(西から)



5. 19号掘立柱建物P3(西から)



6. 19号掘立柱建物P4(西から)



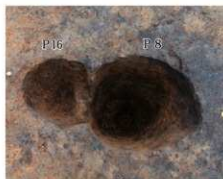
7. 19号掘立柱建物P5(西から)



8. 19号掘立柱建物P6(西から)



9. 19号掘立柱建物P7(西から)

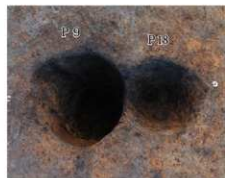


10. 19号掘立柱建物P8・P16(南西から)





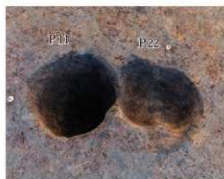
1. 19号掘立柱建物P 8・P16土層断面(南西から)



2. 19号掘立柱建物P 9・P18 (北東から)



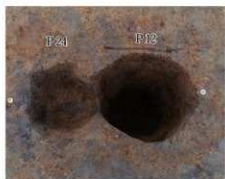
3. 19号掘立柱建物P10 (南西から)



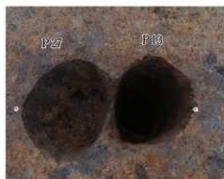
4. 19号掘立柱建物P11・P22 (北東から)



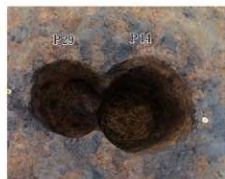
5. 19号掘立柱建物P11土層断面(南西から)



6. 19号掘立柱建物P12・P24 (南西から)



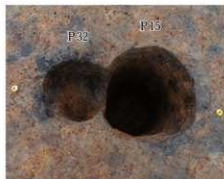
7. 19号掘立柱建物P13・P27 (南西から)



8. 19号掘立柱建物P14・P29 (南西から)



9. 19号掘立柱建物P14・P29土層断面(南西から)



10. 19号掘立柱建物P15・P32 (南西から)



11. 19号掘立柱建物P17 (南西から)



12. 19号掘立柱建物P19土層断面(南東から)



13. 19号掘立柱建物P20土層断面(南東から)



14. 19号掘立柱建物P21 (北東から)



15. 19号掘立柱建物P22土層断面(南東から)



1. 19号掘立柱建物P23(南西から)



2. 19号掘立柱建物P24土層断面(南西から)



3. 19号掘立柱建物P25・P26(北西から)



4. 19号掘立柱建物P28(北西から)



5. 19号掘立柱建物P30・P31(南東から)



6. 19号掘立柱建物P33(南東から)



7. 19号掘立柱建物P34(北西から)



8. 19号掘立柱建物P35(南東から)



9. 19号掘立柱建物P36(南東から)



10. 19号掘立柱建物P36土層断面(南東から)



11. 19号掘立柱建物P37(北西から)



12. 19号掘立柱建物P37土層断面(南東から)



13. 19号掘立柱建物P38(南東から)



14. 19号掘立柱建物P39(南東から)



15. 19号掘立柱建物P40(北西から)



1. 2区北68号竪穴建物全景(西から)



2. 68号竪穴建物土層断面(西から)



3. 68号竪穴建物遺物出土状況(西から)



4. 68号竪穴建物竈(西から)



5. 3区69号竪穴建物全景(北東から)



6. 69号竪穴建物埴土土層断面(南東から)



7. 69号竪穴建物土層断面(南東から)



8. 69号竪穴建物P1土層断面(南西から)



1. 70号竪穴建物全景(西から)



2. 70号竪穴建物遺物出土状況(西から)



3. 70号竪穴建物遺(西から)



4. 70号竪穴建物焼土土層断面(南から)



5. 6号竪穴状遺構全景(南から)



6. 6号竪穴状遺構遺物出土状況(西から)



7. 7号竪穴状遺構全景(北から)



8. 7号竪穴状遺構2号土坑炭化物出土状況(北から)



1. 16号・17号掘立柱建物全景(上が北)



2. 16号掘立柱建物全景(東から)



3. 16号掘立柱建物 P 1 (南西から)



4. 16号掘立柱建物 P 2 (南西から)



5. 16号掘立柱建物 P 3 (南西から)



6. 16号掘立柱建物 P 4 (南から)



7. 16号掘立柱建物 P 5 (南西から)



8. 16号掘立柱建物 P 6 (南西から)



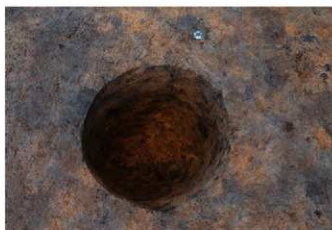
1. 16号掘立柱建物P 7(南西から)



2. 16号掘立柱建物P 8(南西から)



3. 17号掘立柱建物全景(東から)



4. 17号掘立柱建物P 1(南西から)



5. 17号掘立柱建物P 2(南東から)



6. 17号掘立柱建物P 3(南東から)



7. 17号掘立柱建物P 3土層断面(南西から)



8. 17号掘立柱建物P 4(南東から)



1. 20号掘立柱建物全景(東から)



2. 20号掘立柱建物P1(南から)



3. 20号掘立柱建物P3(南から)



4. 20号掘立柱建物P4土層断面(南から)



5. 20号掘立柱建物P7(南から)



6. 20号掘立柱建物P10(南から)



7. 20号掘立柱建物P14土層断面(南から)



8. 20号掘立柱建物P18(南から)



1. 14号溝全景(南から)



2. 14号溝土層断面(南から)



3. 15号溝検出状況(西から)



4. 16号溝全景(南から)



5. 37号溝全景(東から)



6. 37号溝土層断面(東から)



7. 17号溝全景(南から)



8. 16号・17号溝土層断面(南から)





1. 20号溝全景(南から)



2. 20号・28号溝土層断面(南から)



3. 28号・35号溝全景(東から)



4. 35号溝土層断面(東から)



5. 21号溝全景(南から)



6. 21号溝底面ビットP4(西から)



7. 22号溝全景(南から)



8. 21号・22号溝土層断面(南から)



1. 27号溝全景(北から)



2. 27号溝底面ビット(北から)



3. 27号・36号溝全景(南から)



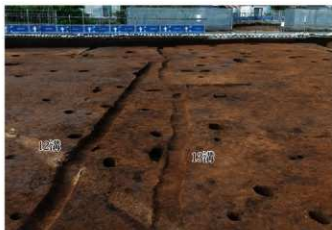
4. 36号溝土層断面(南から)



5. 23号溝全景(南から)



6. 23号溝土層断面(北から)



7. 13号溝全景(南から)



8. 19号溝全景(南から)



1. 3・4区7号～11号・24号～26号・29号～33号溝全景(上から)



2. 24号溝全景(南から)



3. 24号溝土層断面(南から)



4. 25号・26号溝全景(南東から)



5. 25号・26号溝土層断面(北西から)



1. 29号溝全景(南から)



2. 29号溝土層断面B-B' (南から)



3. 30号溝全景(西から)



4. 30号溝土層断面D-D' (東から)



5. 31号溝全景(東から)



6. 29号・31号溝土層断面C-C' (南から)



7. 32号溝全景(西から)



8. 33号溝全景(南から)



1. 3区7号溝全景(北から)



2. 3区9号溝全景(南から)



3. 4区7号・8号溝全景(南から)



4. 4区7号・8号溝土層断面(南から)



5. 4区9号溝・54号土坑土層断面(南から)



6. 3区10号溝全景(南から)



7. 4区10号溝全景(南東から)



8. 4区10号・11号溝土層断面(南から)



1. 38号溝全景(南から)



2. 38号溝土層断面(南から)



3. 46号溝全景(南から)



4. 46号溝土層断面(南から)



5. 47号溝全景(東から)



6. 47号溝土層断面(北西から)



1. 4区41号～45号・49号溝全景(上が北)



2. 41号・42号溝全景(南から)



3. 41号・42号溝土層断面(北から)



4. 43号～45号・49号溝全景(南から)



5. 43号～45号・49号溝土層断面(南から)



6. 5区48号溝全景(上が北)



7. 48号溝遺物出土状況(南から)



8. 48号溝土層断面(北から)



1. 3区56号土坑全景(北から)



2. 57号土坑全景(北から)



3. 58号土坑全景(東から)



4. 59号土坑全景(北から)



5. 60号土坑土層断面(南東から)



6. 104号土坑土層断面(南から)



7. 4区53号土坑全景(南から)



8. 9号溝・54号土坑土層断面(南から)



9. 10号溝・55号土坑土層断面(南から)



10. 61号土坑土層断面(南から)



11. 62号土坑遺物出土状況(南から)



12. 62号土坑土層断面(南から)



13. 63号土坑全景(西から)



14. 64号～66号・71号土坑全景(南から)



15. 64号土坑土層断面(南から)





1. 65・66・71号土坑土層断面(南から)



2. 67号土坑全景(南から)



3. 68号土坑全景(南から)



4. 69号土坑全景(北から)



5. 70号土坑全景(東から)



6. 72号土坑全景(東から)



7. 72号土坑土層断面(東から)



8. 73号土坑全景(南から)



9. 73号土坑土層断面(東から)



10. 74号土坑全景(東から)



11. 75号土坑全景(東から)



12. 97号・98号土坑全景(南から)



13. 97号・98号土坑土層断面(南から)



14. 99号土坑全景(南から)



15. 99号土坑土層断面(南から)



1. 76号・77号土坑全景(南東から)



2. 76号・77号土坑土層断面(南東から)



3. 78号土坑全景(南から)



4. 79号土坑・874号ピット全景(南から)



5. 79号土坑・874号ピット土層断面(東から)



6. 80号土坑全景(南西から)



7. 80号土坑土層断面(南東から)



8. 81号土坑全景(南東から)



9. 82号土坑全景(南東から)



10. 83号土坑全景(南東から)



11. 84号土坑全景(南東から)



12. 84号土坑土層断面(南東から)



13. 85号土坑全景(南東から)



14. 86号土坑全景(南から)



15. 87号土坑全景(南から)



1. 88号土坑全景(南西から)



2. 89号・90号土坑全景(南西から)



3. 91号土坑全景(南西から)



4. 92号土坑・884号ピット全景(南から)



5. 92号土坑・884号ピット土層断面(南から)



6. 93号土坑全景(南西から)



7. 94号土坑全景(南から)



8. 95号土坑土層断面(南から)



9. 96号土坑全景(南東から)



10. 100号土坑全景(南から)



11. 101号土坑全景(南から)



12. 101号土坑土層断面(南東から)



13. 102号土坑土層断面(南から)



14. 103号土坑全景(南から)



15. 103号土坑土層断面(南から)

# PL.84

## 1号竪穴建物



## 2号竪穴建物(1)



須恵器皿(3~8)他床面直上で出土した土器



1区1号・2号(1)竪穴建物出土遺物

2号竖穴建物(2)



3号竖穴建物



5号竖穴建物



4号竖穴建物



7号竖穴建物



1区2号(2)・3~5号・7号竖穴建物出土遺物

6号竖穴建物



8号竖穴建物



9号竖穴建物



10号竖穴建物



1



3



4



5



6



2



7



8

1区10号竖穴建物出土遺物

# PL.88

11号竖穴建物



12号竖穴建物(1)



1区11号・12号(1)竖穴建物出土遺物



12号竖穴建物(2)



19



23



20



21



22



26



28

13号竖穴建物



2



3



5



6



7



8



9



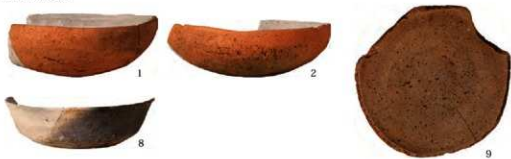
10

PL.90

14号竖穴建物



15号竖穴建物



16号竖穴建物(1)



16号竖穴建物(2)



16号竖穴建物(3)



17号竖穴建物



18号竖穴建物(1)



18号竖穴建物(2)



23



24



26



29



30



27



31



32



33



34

19号竖穴建物



20号竖穴建物









21号竖穴建物(2)





2



5



8



4



6



7



9



10

23号竖穴建物



1



4



5

24号竖穴建物



1



4



6



7



6



8



10



11

25号竖穴建物



26号竖穴建物



27号竖穴建物



28号竖穴建物



2区25号~28号竖穴建物出土遺物

29号竖穴建物



1



2



3

30号竖穴建物



3



5

31号竖穴建物



1



4

32号竖穴建物



1



3



4



5



6

33号竖穴建物



2



6



7

34号竖穴建物



1



3



4

35号竖穴建物(1)



1



2



4

# PL.102

35号竖穴建物(2)



37号竖穴建物



39号竖穴建物



38号竖穴建物



41号竖穴建物(1)



41号竖穴建物(2)



42号竖穴建物(1)





15



16



17

43号竖穴建物



3

44号竖穴建物



1



4



7



9



11



45号竖穴建物



1



6

46号竖穴建物



1



2



5

47号竖穴建物



1



3



9



4



7



48号竖穴建物



1



3



4



6



8



7



9



11



13



14

# PL.106

49号竪穴建物



50号竪穴建物



51号竪穴建物



52号竪穴建物(1)



2区49号～51号・52号(1)竪穴建物出土遺物

52号竖穴建物(2)



14



16



17



18



20



21



24



27



25



28

52号竖穴建物(3)



55号竖穴建物



56号竖穴建物



53号竖穴建物



54号竖穴建物



58号竖穴建物(1)



58号竖穴建物(2)



7



10

59号竖穴建物



1



2



5



6



8



11



13



15



18



20



22



23

60号竖穴建物(1)



3



4



5



6



8



9



60号竖穴建物(3)



15



17



18



19

# PL.112

61号竖穴建物



62号竖穴建物



63号竖穴建物



64号竖穴建物



65号竖穴建物





66号竖穴建物



1



4

67号竖穴建物



1

5号竖穴状遺構



3



6



7



2



3



4

15号掘立柱建物



2

2号溝



1



2



3



4



5



6



8



11



12



25.1-1



25.1-2



27上-1



29上-1



34上-2



36上-2



38上-1



38上-3



38上-4



38上-5



47上-1



50上-1



47上-2



300ピ-1



47上-3



558ピ-1

## 1号遺物集中(1)



8



1



8



9

2区38号(2)・47号・50号土坑・390号・558号ピット・1号遺物集中(1)出土遺物

# PL.116

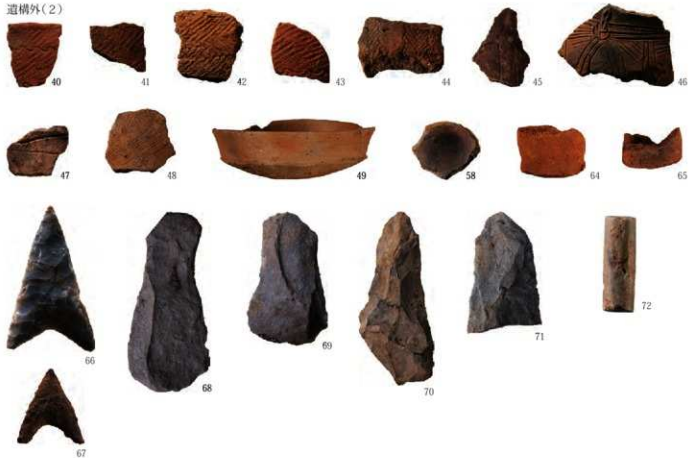
## 1号遗物集中(2)



## 遺構外(1)



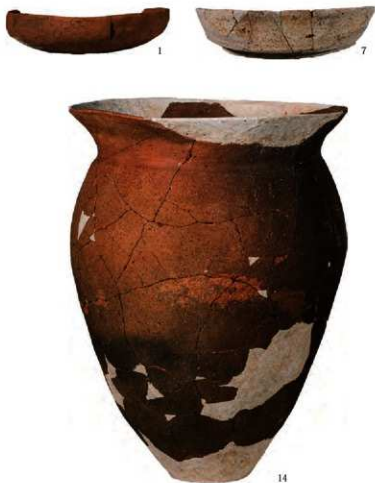
## 遺構外(2)



## 7号柱穴列



## 68号竪穴建物(1)





15



16



17



18



20



21

68号竖穴建物(3)



70号竖穴建物



21号溝



# PL.120

24号溝



3



4



5



11



6



7



8



9



10



12

32号溝



1



2

9号溝



3

10号溝



1

49号溝



1



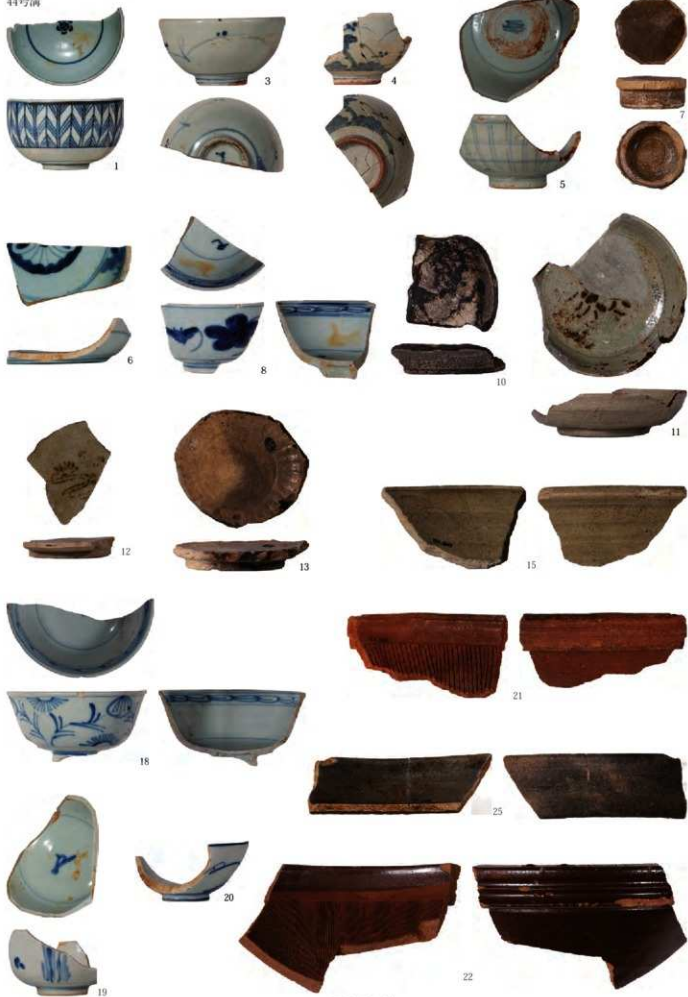
43号溝



4区43号溝出土遺物

PL.122

44号溝



4区44号溝出土遺物

48号溝(1)





15



17



18



19



21



22



62上-1



62上-2



62上-3



62上-4



62上-5



72上-1



837ピ-1

2区北 道構外



1

3区 道構外



1



2



6

4区 道構外



1



2



3



4



5

5区 道構外



1



2



3



4



1. 1区旧石器8号トレンチ石器出土状況(南西から)



2. 1区旧石器8号トレンチ石器出土状況(南西から)



3. 1区旧石器8号トレンチ鏝集中(西から)



4. 1区旧石器8号トレンチ土層セクション(西から)



5. 1区旧石器9号トレンチ(南から)



6. 1区旧石器10号トレンチ(南から)



7. 1区旧石器11号トレンチ(南から)



8. 1区旧石器12号トレンチ(南から)



1. 1区旧石器14号トレンチ拡張部(西から)



2. 1区旧石器14号トレンチ拡張部の礫集中検出状況(西から)



3. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(南から)



4. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(南から)



5. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(西から)



6. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(北から)



7. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(南から)



8. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(西から)



1. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部(炭化物の試料採取)



2. 1区旧石器14号トレンチ礫密集部・土層セクション(南西から)



3. 1区旧石器14号トレンチ・土層セクション



4. 1区旧石器14号トレンチ・土層セクション(南から)



5. 1区旧石器14号トレンチ西壁のAs-BPG炭化物(東から)



6. 同左・拡大



7. 1区旧石器14号トレンチ拡張①(西から)



8. 1区旧石器14号トレンチ拡張①(AT直上炭化物検出状況)





1. 1区旧石器14号トレンチ拡張②(西から)



2. 1区旧石器14号トレンチ拡張③(西から)



3. 1区旧石器14号トレンチ拡張③(西から)



4. 1区旧石器14号トレンチ拡張④(西から)



5. 1区旧石器14号トレンチ拡張④(西から)



6. 1区旧石器15号トレンチ(南から)



7. 1区旧石器16号トレンチ(南から)



8. 1区旧石器17号トレンチ(南から)



1. 2区旧石器20号トレンチ(南から)



2. 2区旧石器20号トレンチ礫集中(南から)



3. 2区旧石器20号トレンチ礫集中(南から)



4. 2区旧石器20号トレンチ礫集中(南から)



5. 2区旧石器20号トレンチ礫集中(西から)



6. 2区旧石器20号トレンチ礫集中(西から)



7. 2区旧石器20号トレンチ礫集中断割(南から)



8. 2区旧石器20号トレンチ礫集中中の調査



1. 2区旧石器20号トレンチ礫集中の礫(1)



2. 2区旧石器20号トレンチ礫集中の礫(2)



3. 2区旧石器22号トレンチ(南から)



4. 2区旧石器25号トレンチ(南から)



5. 2区旧石器26号トレンチ(南から)



6. 2区旧石器26号トレンチ(南から)



7. 2区旧石器26号トレンチの礫



8. 2区旧石器28号トレンチ(南から)



1. 3区旧石器トレンチ全景(南から)



2. 3区旧石器40号トレンチ(東から)



3. 3区旧石器43号トレンチ(東から)



4. 3区旧石器43号トレンチ(南から)



5. 3区旧石器46号トレンチ(東から)



6. 3区旧石器46号トレンチ(南から)



7. 5区旧石器55号トレンチ(南から)



8. 5区旧石器55号トレンチ(東から)

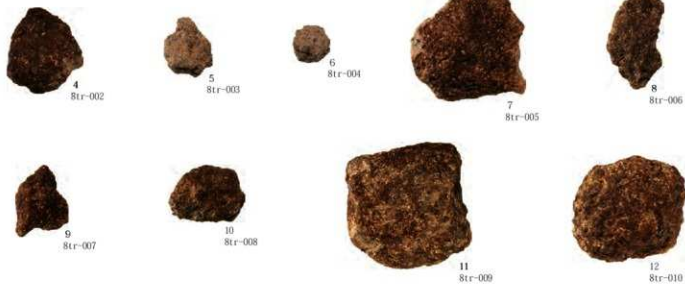
1区旧石器



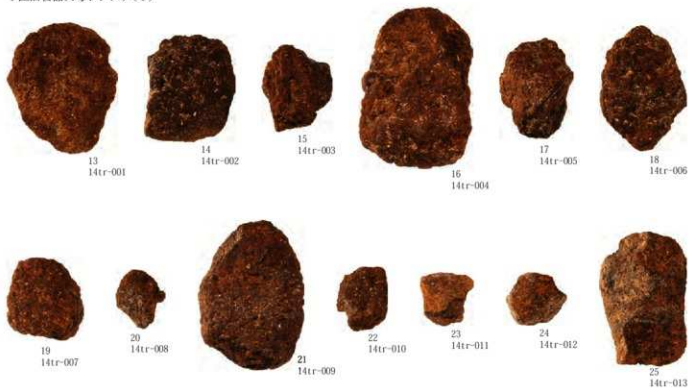
2区旧石器



1区旧石器8号トレンチ



1区旧石器14号トレンチ(1)



# PL.134

1区旧石器14号トレンチ(2)



1区旧石器14号トレンチ疎集中(2)・疎密集部

2区旧石器20号トレンチ

61  
No. 5・6・11~13・16~19・22~26

2区旧石器20号トレンチ

62  
No. 7~9・15

2区旧石器22号トレンチ

63  
SP1・2

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第733集

## 多田山東遺跡 — 第2分冊 —

一般国道50号(前橋空港道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6(2024)年3月11日 印刷

令和6(2024)年3月19日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社



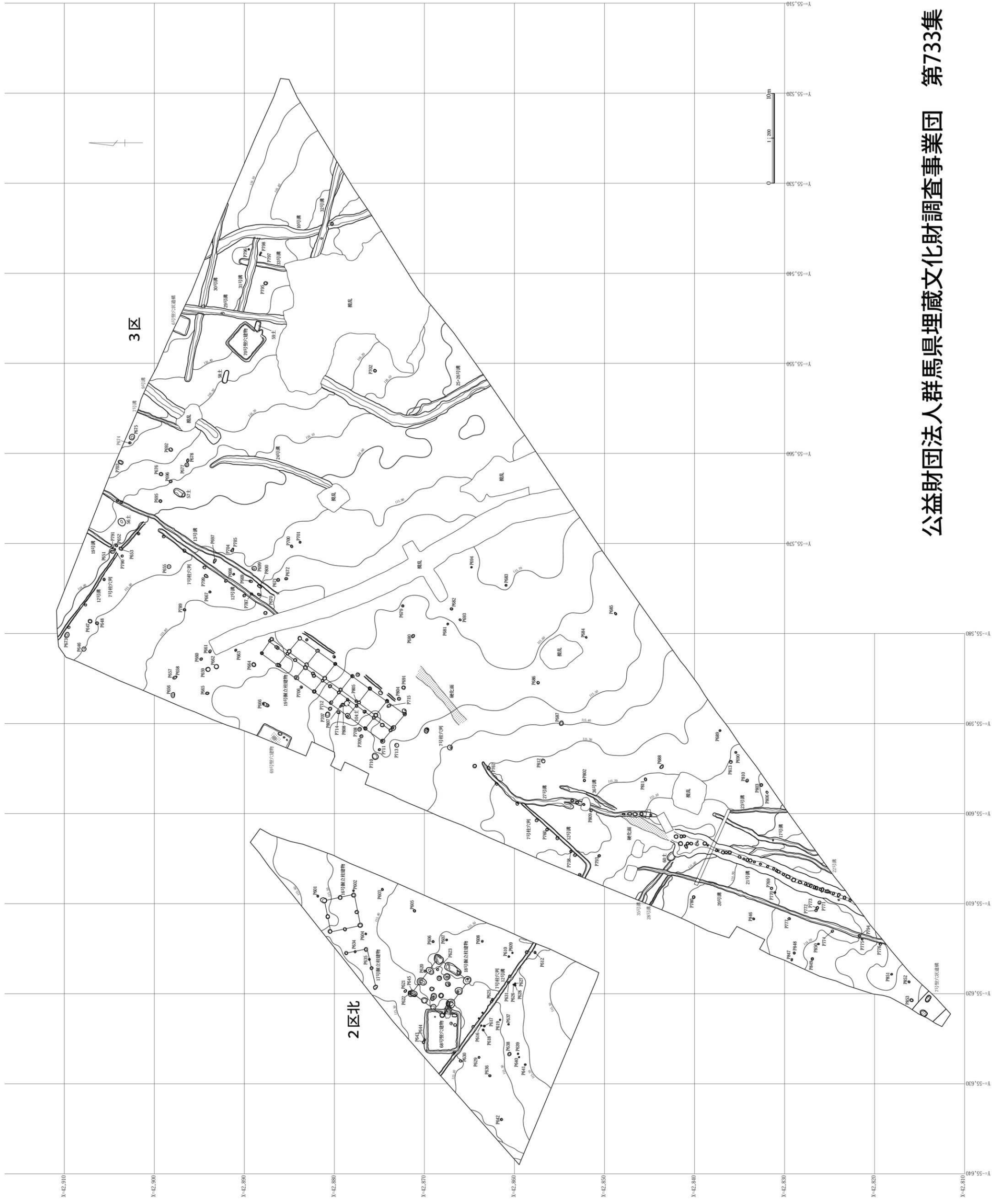
# 付図1 多田山東遺跡1区全体図 1:200



# 付図2 多田山東遺跡 2区全体図 1:200



付図3 多田山東遺跡2区北・3区全体図 1:200



付図4 多田山東遺跡4区・5区全体図 1:200

